

岡谷スタンダードカリキュラム



岡谷市教育委員会

目 次

一 岡谷スタンダードカリキュラムの全体構想

- I 岡谷スタンダードカリキュラムに寄せて
 - はじめに
 - 1 岡谷スタンダードカリキュラムへの願い
 - 2 岡谷スタンダードカリキュラムのねらいや価値
 - 3 岡谷スタンダードカリキュラムの取り組み
- II 岡谷スタンダードカリキュラム単元例一覧
- III 岡谷スタンダードカリキュラム単元例
- IV 岡谷スタンダードカリキュラム資料

二 各校の先行事例

- ◇ 世界に歩みだした日本 ～製糸王国岡谷と片倉兼太郎～ 【社会科 6 学年】
- ◇ わたしたちの生活と工業～超精密部品の命 熟練職人が支える金型作り～
【社会科 5 学年】
- ◇ 火災からみんなを守れ 【社会科 4 学年】
- ◇ それいけ カニロボちゃん～ロボット体験学習～ 【総合的な学習の時間 4 学年】
- ◇ 遠足での地図活用 【行事 4 学年】
- ◇ わたしたちの北庭 ～寒い冬ならではの学習～ 【生活科 2 学年】
- ◇ 元気にそだって ぼくのおかいこさん, わたしのおかいこさん 【生活科 2 学年】

III 資料

- 平成28年度 岡谷田中小学校の教育研究方針
- 平成28年度 神明小学校の教育研究方針

一 岡谷スタンダードカリキュラムの全体構想



I 岡谷スタンダードカリキュラムに寄せて

はじめに

人口減少社会にあっても未来を担う子どもたちが健やかに育つために、確かな学びと心の成長を保障する必要があります。

そこで、岡谷市では、今後の目指すべき教育の姿を明かにしようと、平成27年12月に岡谷市教育大綱を策定いたしました。その根本となる教育理念として「自立し、共生し、創造性溢れる岡谷のひとづくり」を据え、さらに教育理念を受けて、学校教育の分野におけるスローガンを、「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」といたしました。

さらに、このスローガンの具現を図るために、学校教育の重点を5つ決めました。

- 1 地域に根ざした特色ある学校づくりの推進
- 2 ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進
- 3 笑顔で安心して学べる教育環境の整備
- 4 確かな学力保障と成長保障を図る授業改善
- 5 「自立と共生」につながる教育活動の充実

こうした中で、とりわけ上記2に関わって、ものづくりに代表されるふるさと『岡谷』の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの普遍的な教育スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」を構築し、岡谷の『ひと・もの・こと』に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を醸成したいと考えました。

早速、校長会と連携をとりながら構想を練り、具体的な企画・立案に当たっては、統合企画教員である竹内良之教諭、小林哲也教諭に献身的なお力添えをいただきました。

これまでの各学校での取り組みを紐解きながら、丁寧な系統化を図り、この度、岡谷ならではの素晴らしいカリキュラムが完成いたしました。

今後は、各校で、この岡谷スタンダードカリキュラムを大いに活用しながら、岡谷の子どもたちと素晴らしい学びの世界を繰り広げていただくことを、心より期待しております。

平成28年6月

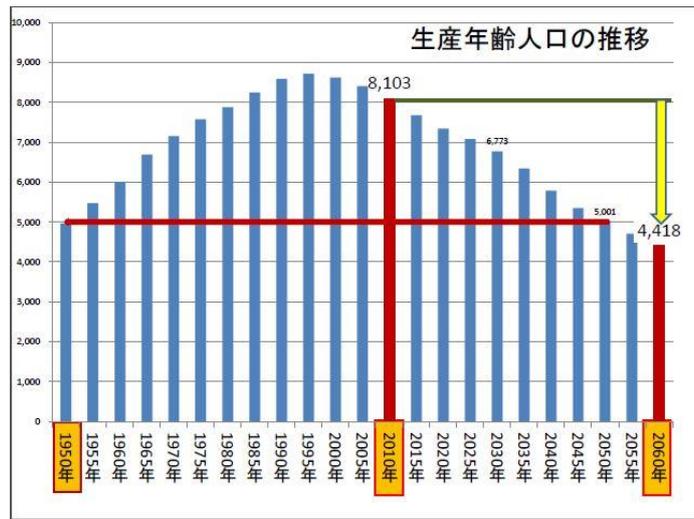
岡谷市教育委員会

教育長 岩本 博行

1 岡谷スタンダードカリキュラムへの願い

少子高齢化が社会問題となっている現在、我が国の生産年齢人口はますます減少し、ピーク時だった1995年と比較すると、2060年の生産年齢人口（16歳～64歳）は約半分にまで落ち込むことが予想されています。岡谷市の人口も、ついに5万人を割り込みました。戦後日本のめざましい高度経済成長は、人口増加に伴う生産性の向上によって支えられてきました。しかし、今、社会を取り巻く様は変容を遂げています。工業技術の発展により機械化が進むことで、人工知能やロボットに代替の可能性が高いとされる職業は100種を超えています。既存の知識を技能化していくことを大切にしてきたこれまでの社会では、基礎基本的な知識技能を習得し、決められた手続きを忠実に実行できる能力を子どもたちに求めてきました。そのために教師には、知識と手続きを系統立てて、効率的に注入し、子どもの学習活動全体を予測し制御する能力が必要とされてきました。しかし、これからは、企業の多国籍化・インターネット通信を含む流通や人的交流の拡大、世界規模での供給連鎖管理、疫病や温暖化・自然災害等の自然リスクの拡大、環境汚染や原子力、遺伝子操作や紛争等の人工リスクの拡大が世界規模で同時連鎖多発化していくことが予想され、一国を超えた協議や統治が必要なグローバル社会へと進んでいこうとしています。そこでは、国家・民族・言語・文化・宗教等の違い（多様性）を越えて利害関係者間で協議し合意形成する能力と、論争的で正解のない課題に最適解や納得解を導き出す能力が大切になっていきます。正解のない課題から最適解を創造し、表現し共有化するこれからの社会では、子どもたちに、他者と協働しなら複雑な現象に対し情報収集・分析・判断をし、実行した結果を社会に問うていく能力を培っていく必要があるのです。その時、教師に求められるのは、子どもとの協働的な学び合いを支えることと同時に、教師自身が探求のモデルとなるファシリテーターとしての能力です。

これからの知識基盤社会の中で子どもたちに培いたい学力は、記憶された知識量がどのくらいあるのかではなく、思考力・判断力・表現力・探究力・協働力・情報活用能力・主体性・協働性等です。そこで叫ばれ始めたのが、主体的・協働的に学ぶ学習、アクティブラーニングです。活動のプロセスで培われる力や自分を変えていく学習活動を組織する力を大切にしながら、「学習する力」そのものを身につけていこうとするものです。その中で教師に求められる資質能力は、「教えの専門家から学びの専門家への転換」です。つまり、「何を学んだ」から「どのように学んだか」への拡大であります。これま



人工知能やロボット等による代替可能性が高い100種の職業 (50音順、並びは代替可能性確率とは無関係)

※職業名は、労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究」に対応

- | | | | |
|----------------|--------------|-----------------|------------------|
| IC生産オペレーター | 金属熱処理工 | 製本作業員 | バイク便配達員 |
| 一般事務員 | 金属プレス工 | 清涼飲料ルートセールス員 | 発電員 |
| 錆物工 | クリーニング取次店員 | 石油精製オペレーター | 非破壊検査員 |
| 医療事務員 | 計器組立工 | セメント生産オペレーター | ビル施設管理技術者 |
| 受付係 | 警備員 | 繊維製品検査工 | ビル清掃員 |
| AV・通信機器組立・修理工 | 経理事務員 | 倉庫作業員 | 物品購買事務員 |
| 駅務員 | 検収・検品係員検計員 | AV・デジタル製品成形工 | プラスチック製品成形工 |
| NC研削盤工 | 建設作業員 | 測量士 | プロセス製版オペレーター |
| NC旋盤工 | ゴム製品成形工 | 宝くじ販売人 | ホイラーオペレーター |
| 会計監査係員 | こん包工 | タクシー運転者 | 貿易事務員 |
| 加工組製造工 | サッシ工 | 宅配便配達員 | 包装作業員 |
| 賞付係事務員 | 産業廃棄物収集運搬作業員 | 鍛造工 | 保管・管理係員 |
| 学校事務員 | 紙器製造工 | 駐車場管理人 | 保険事務員 |
| カメラ組立工 | 自動車組立工 | 通関士 | ホテル客室係 |
| 機械木工 | 自動車塗装工 | 通信販売受付事務員 | マシニングセンター・オペレーター |
| 寄宿舎・寮・マンション管理人 | 出荷・発送係員 | 積卸作業員 | レーダー |
| CADオペレーター | じんかい収集作業員 | データ入力係 | ミンシ縫製工 |
| 給食調理人 | 人事係事務員 | 電気通信技術者 | めっき工 |
| 教育・研修事務員 | 新聞配達員 | 電算写植オペレーター | めん類製造工 |
| 行政事務員(国) | 診療情報管理士 | 電子計算機保守員(IT保守員) | 郵便外務員 |
| 行政事務員(県市町村) | 水産物製品製造工 | 電子部品製造工 | 郵便事務員 |
| 銀行窓口係 | スーパー店員 | 電車運転士 | 有料道路料金収受員 |
| 金属加工・金属製品検査工 | 生産現場事務員 | 道路パトロール隊員 | レジ係 |
| 金属研削工 | 製パン工 | 日用品修理ショップ店員 | 列車清掃員 |
| 金属材料製造検査工 | 製粉工 | | レンタカー・営業所員 |
| | | | 路線バス運転者 |

での教師に求められる資質能力は、教育という範囲内についての知識の獲得、知識伝達のための方法・技術の習得、知識伝達のための子どもの理解でした。そして、子どもたちは、多くの知識を獲得することに努力を重ねてきました。しかし、「何を学んだ」から「どのように学んだか」への拡大の過程では、子どもたちに、「直面する課題は何か」、「何をなすべきか」、「自分は何ができるか」と問いが生まれます。そして、「そこで必要な知識は何か」、「その知識をどのように使うか」、「自分はこの事象にどのようにかかわっていくか」と省察し、表現し、公表し、再チャレンジしていくプロセスが生じるのです。また、「どんなチームで考えるか」、「どんな段取りで考えるか」と、子どもたちは多岐に思考をめぐらせていくのです。その時、教師も同様の資質能力を求められた協働探究・同伴者・探究的ファシリテーター・学習コーディネーターとなるのです。アクティブラーニングにより、「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るか」というところに子どもと共に辿り着きたいのです。中教審教育課程企画特別部会において、今後の教育改革を図る上で以下の3点が整理されました。

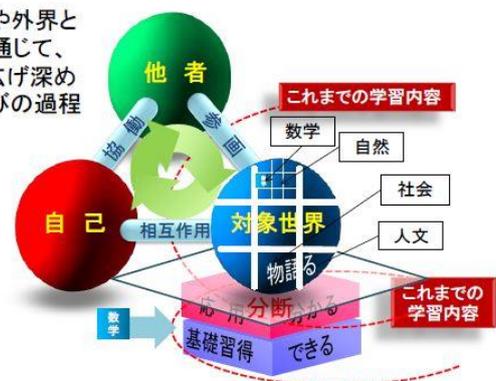
- 習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか。
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- 子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているか。

つまりは、「指導中心の学習」と「能動的な『学修』」との違いです。「指導中心の授業の流れ」では、教師から提案される教育目標を子どもが遂行し、その結果をテストで評価します。一方、「必要感に支えられた能動的な『学修』」において、子どもは、「〇〇したいな」という発意をきっかけとし、「〇〇するには、どうしたらいいのかな」と構想し、「こんな段取りでやろう!」と構築し、「〇〇をやるのは楽しいね」と遂行し、「でも、何を工夫したら〇〇をもっと上手にできるのかな」と省察していきます。

そして、この学びの道筋は、対象世界と自己と他者とを結びながら学ぶことで深まっていくのです。それは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程です。そんな学びの歩を進めるヒントが、ここ「ふるさと岡谷」には広がっています。子どもたちが地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ、また、地域も子どもたちとその学びの中に自らの学びを見出す関係性にこれからの学びの姿があるのです。そして、子どもと教師、学校と地域が互いに学び合うことを通してつながっていくことを願い、教科・領域の学習内容と岡谷の「ひと・もの・こと」とを編み込んだ教育課程が岡谷スタンダードカリキュラムです。やがては、この岡谷スタンダードカリキュラムが縦糸に、岡谷版コミュニティスクールが横糸となり、地域のつながりの中で支えていく継続的就労が可能なシステムや、支え合うこと（協働）について学校の中で学ぶシステムの構築をめざし、「岡谷ならではの学び」の布を織り成していくことを願っています。

対象世界と自己と他者とを結びながら学ぶ

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程



2 岡谷スタンダードカリキュラムのねらいや価値

本市では、この度、岡谷小、田中小、神明小、三校の学校統合を契機として、笑顔と魅力あふれる学校づくりのあり方を検討してきました。新しい学校をつくることは、日課や行事、授業や暮らしの細部まで、その仕組みや価値を編み直していくことでした。その道のりは容易ではなく、様々な角度における調整と合意形成が必要でした。そして、その過程には、岡谷に息づくたくさんの「ひと・もの・こと」との出会いとつながりがありました。改めて、学校が地域に支えられているというだけではなく、地域の人たちにとって、学校は大切な拠り所であることを確かめることができました。今回の学校統合は、学校のあり方そのものに加え、岡谷の歴史や文化、教育や産業などの地域の力を見つめ直すチャンスでもあったのです。そんな今、岡谷で育つ子どもたちだからこそできる学び、大切にしていきたい学びを編み直し、この学校統合を契機に、岡谷の学校すべてが、新たなスタートを切ることで、知識基盤社会を生きるこれからの子どもたちを育てていくことに思いを致し岡谷スタンダードカリキュラムの推進を図っていきます。

(1) ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進（岡谷スタンダードカリキュラムのねらい）

ものづくりに代表される、ふるさと「岡谷」の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの普遍的な教育スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」を構築し、岡谷の『ひと・もの・こと』に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を醸成します。

【岡谷スタンダードカリキュラムとは】

ふるさと岡谷には、豊かな自然、製糸、産業、武井武雄、小口太郎、諏訪湖、御柱など、豊富な学習の素材があり、これらを活かしながら、総合的な学習のほか、理科（科学）や社会（歴史等）などの教科・領域において、岡谷ならではの学習要素を取り入れる普遍的な学習カリキュラムを構築し、岡谷に学び、育つ子どもたちが郷土を誇りに思い、郷土を愛する心とふるさと回帰の心を育みます。

【岡谷「ひと・もの・こと」教育とは】

岡谷の子どもたちが日々の生活の中で出会う人々や物、事などの様々な社会事象を捉えた教育の実践により、岡谷の「ひと・もの・こと」の良さを実感し、それらの学びが支えとなり、自分らしさを発揮し、主体的に課題を解決できる力（アクティブ・ラーニング）を育みます。

「ひと」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う地域の発展に寄与した先人や今活躍し、頑張っている地域の人々、岡谷に縁のある人々

「もの」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う（有形の）物（近代化産業遺産、文化財、工場などの地域の産業資源、豊かな自然環境など）

「こと」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う（無形の）事（歴史や文化、ものづくりの技術など）

(2) 岡谷スタンダードカリキュラムの価値

- ①岡谷スタンダードカリキュラムは、工業のまち岡谷に根差した「ものづくり教育」、その基礎となる「理数教育」、そして、歴史と文化に裏打ちされ、この先の時代や世界へと可能性を広げていくことができる「シルク」を中心とし、それぞれの学区の地域教材を盛り込みながら、子どもたちが、学習対象への見方や考え方を広げていくことのできるような教育課程です。

- ②このカリキュラムは、これまでの教科・領域にプラスアルファして増やしていくものではなく、例えば、「明治・大正・昭和初期にかけて繁栄を誇った岡谷の製糸業」から、6 学年社会科歴史領域の「世界に歩み出していくために国力を向上させようとしていた日本」の様子を学んだり、総合的学習の時間に取り組んだ「お蚕さまの飼育活動」が派生して図工で繭細工を作っていたりと、各教科の学習指導上の内容と、岡谷ならではの「ひと・もの・こと」の素材とを総合的、横断的に関係づけていくというものです。つまり、子どもと教師の学びの引き出しを増やしていくものです。
- ③岡谷スタンダードカリキュラムをあえて和語にすると、「岡谷ならではの学び」です。「無いもの探し」ではなく、「あるもの探し」であり、岡谷が持っている、「ひと・もの・こと」の価値を意味づけていくとともに、「教科・領域の学習」、「岡谷ならではの学び」、「ここ岡谷で暮らす自分自身」、この3者のつながりを大切にしていきます。
- ④このカリキュラムは、「これをやりましょう」というマニュアル集ではなく、「こうあるべきだ」という固定的なものでもありません。「こんな学びの道筋の中で、子どもたちが、このような姿になった」という、子どもの学びの姿をエピソードとした「臨床の知」で創り上げていくものです。
- ⑤学級や子どもたちとの関係性を大切にしながら、様々な価値を見出し、それぞれの先生方の柔らかい発想で学びの可能性を広げていきます。先生方が、頭の片隅に岡谷スタンダードカリキュラムを思い描き、「こんなこともできそうだな」、「これもつながっていくんじゃないかな」ということが、新たに付け加わっていくような、常によい意味で変動し、活性化していくものであります。完成形として、そこに留まるものではなく、「こんなことを学んだら楽しいよね」と、子どもたちの笑顔が広がっていくことを想像しながら岡谷市のすべての先生方と子どもたちの手によって構想を広げていきます。
- ⑥この岡谷スタンダードカリキュラムが、日々、過密な忙しさの中にいる学級担任や教科担任の先生方にとって負担となってしまっては本末転倒です。先生方が、「岡谷にはこんな素材があったのか」、「こういう人たちが、授業や学習に協力してくれるのか」ということを知り、「子どもたちと共に創っていく授業」の一助になるものにしていきます。
- ⑦岡谷スタンダードカリキュラムは、学習支援を中心に今後の岡谷版コミュニティスクールの展開とも関連付いていくものとして、以下のような可能性を秘めています。
- ア) 地域とつながる学校、学校とつながる地域
- ・学校を軸に、地域の人々のつながりを創出し、地域づくり、街づくりにつなげていく。
- イ) 互いの自己有用感が高まる活動の推進
- ・岡谷版コミュニティスクールに関わる全ての人たちが、張り合いや生きがいをもって取り組む。
 - ・住民が持つ豊富な経験や知識、技を子どもの成長や学びの環境に生かせるよう、多様な人材が学校運営の様々な場面に参画できる環境、機会を創出する。
- ウ) ふるさと岡谷という地域のよさや魅力に触れ、この地に生きる「わたし」を感じていく
- ・人々の交流や触れ合いを通じて、子どもたちの感謝の心や郷土を大切に思う心を醸成する。
 - ・地域と一緒に子どもを育てる土壌を育む。
 - ・岡谷への思いを拠り所に、岡谷で培った力を携えて社会へ歩みだしていく子どもたちを育てると共に、岡谷という地域に誇りを持ち、生きがいややりがいをもって、この地に生きるわたし（地域の一人ひとり）を感じていく。

(3) 教師の輝く目と内に外に開いた心と体

6 学年理科の岡谷スタンダードカリキュラム単元一覧表に目を通したM校長先生は、展開例の中から、単元名『御柱の曳行から見つめる てこの働き』を見つけると、学習活動の、「御柱のてこ衆とてこ棒の動きから、1点を支えにして、1点に力を働かせる様子を調べる」を読み、「これおもしろそうだなあ。俺がこの授業をやってみたくなっちゃった」とおっしゃった。

研究部会の折に岡谷スタンダードカリキュラムの考えにふれ、単元一覧表を見てイメージをふくらませたU先生は、前日の授業で御柱が話題になり、たくさん子どもたちが御柱に参加すると言っているものの、御柱を曳き付ける下社の場所が下諏訪町であることを知らないでいたことを思い出し、そのエピソードを楽しそうに部会の先生方に伝えた。すると、ふと何かに気づいたかのようになり、御柱の歴史や文化、人のつながりを調べていくことによって、子どもたちの学びが歴史学習や道徳授業など、様々につながっていくかもしれないということを語り始めた。

2名の先生は、岡谷スタンダードカリキュラムを手にとってみて、何かおもしろそうだと興味や関心を抱くとともに、自らの実践経験や子どもたちのことを思い出し、授業のイメージをふくらませました。このように先生方が、岡谷には子どもたちの学びの種がたくさんあるという認識に立ち、それを感じ、探し、学校や教室の中で日々子どもたちとの学びへとつなげていこうとする体になる。そのことこそが、この岡谷スタンダードカリキュラムを展開していくことの価値であります。自身の経験の枠やパターンの中で、一つのフレームとして同じような授業を繰り返していることに悩みを抱いている先生が、このスタンダードカリキュラムの一端にふれ、少しでも興味を抱き、かかわり、取り組んでみたことで、おもしろさを感じたのだとしたら、きっと、その先生の本来もっている豊かな創意工夫がわき出てできます。そして、教師自身が岡谷ならではの学びの面白さや、そこから派生する子どもたちとの学びの広がりを感じたとしたら、それは間違いなく児童や生徒にも伝わっていきます。自身の働きかけに対し、子どもたちからの働き返しが来た時、教師として、その喜びは一塩です。そうやって、凝り固まっていた教師の体が変わっていくのです。変わるというより、教師自身がこれまでに蓄えて来た知識や技術、ものの見方や考え方、子どもたちとの歩みやこれまでの子どもの見とりが一層の輝きを放ち、より開かれていくのです。開かれた体の教師は、学習指導要領の内容も、地域の「ひと・もの・こと」の成り立ちや背景も含み込んで学ぼうとし、目の前の子どもたちの思いを感じようとしていきます。そして、教科・領域という枠を越え、学びと学びのつながりや発展的な活用の気づきが生まれ、総合的かつ横断的なものの見方や考え方が自身の中で広がっていくのです。するとこれまで以上に鋭角的に各教科の学習内容や指導内容が知りたくなります。これは子どもたちの学びも同様です。子どもたちの中で、今、目の前にある日常と、教科書や資料の内容とがつながってくる。そして、解決すべき問題に自身が近づけば近づくほど、学習の対象が「自分のこと」となる。マクロがミクロになり、ミクロがマクロになっていくのです。たとえ、社会的に未解決な社会的事象や自然事象に対する課題に遭遇したとしても、自分自身の中に、今の自分に考え得るベストやベターの答えを出そうとする体になってくる。そういう学習活動を繰り返していった子どもたちは、考えることを諦めない、考えることを止めない体になっていく。そう信じて進む岡谷スタンダードカリキュラムです。

3 岡谷スタンダードカリキュラムの取り組み

(1) 岡谷スタンダードカリキュラム単元例一覧および単元例、資料の見方

①単元例一覧

岡谷ならではの「ひと・もの・こと」の素材を生かした学習展開の可能性を含む単元について、教科・領域ごとに、単元名、学習活動例を示してあります。該当学年の単元の概要をつかんだり、教科の枠を越え総合的かつ横断的に子どもの学びをつなげて見たりすることができます。

②単元一覧

単元例一覧で紹介した単元について、単元名、学習活動例、学びの価値、学習内容、「ひと・もの・こと」活用について示してあります。

【単元名】

あくまで一例です。教材研究する中で、目の前の子どもの実態や材の状況に合わせ、より実践的なものに作り変えていってください。

【学習活動例】

授業や単元展開において子どもたちの学習活動は多岐に渡ります。ここに示してあるものは、なかでも中心的な活動です。他にも多様な活動の可能性がありますので、子どもの実態に合わせ、学習活動を決め出していってください。

【学びの価値】

学びの価値は多様です。また、子どもたちにとって、教師にとって、あるいはそのもの自体にとっても、対象の違いにより価値づく内容も変わってくることでしょう。さらには、ある価値を見据えて取り組んでいった先に、別の価値を見出すこともあります。単元全体や1時間の授業のねらいや主眼と関連させながら、子どもとともに辿り着きたい価値を考えていってください。

【学習内容】

その単元における代表的な学習内容の例を示してあります。単元全体や1時間の授業の中で子どもたちにつける力や評価内容とも関連させながら学習内容を決め出してください。

【「ひと・もの・こと」活用】

学習を展開する上でつながる人々や物、事などの社会事象です。

「ひと」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う地域の発展に寄与した先人や今活躍し、頑張っている地域の人々、岡谷に縁のある人々

「もの」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う（有形の）物（近代化産業遺産、文化財、工場などの地域の産業資源、豊かな自然環境など）

「こと」は日々の生活や体験、活動や学びの学習の中で出会う（無形の）事（歴史や文化、ものづくりの技術など）

岡谷市の先生方みなさんで教材研究を進めて、どんどん充実させていきましょう。

(2) 展開のスケジュール

岡谷スタンダードカリキュラムの構築に向け、以下のような道筋を進めていきます。

①市内校長会で、各校の地域素材をいかした学習活動実践提供のお願い

②各校の地域素材をいかした学習活動実践の取りまとめ

③岡谷小学校、田中小学校、神明小学校の4学年を対象に岡谷市内の企業と市工業振興課との連

携によるテクノプラザ岡谷におけるロボット体験学習の実施

- ④各校の地域素材をいかした学習活動をもとに、各教科・領域の学習内容や学習指導要領に照らし合わせ、岡谷スタンダードカリキュラム単元例一覧および単元例の作成
- ⑤事例の抽出（岡谷ならではの「ひと・もの・こと」を題材とした代表的な実践事例）
＜今後＞
- ⑥学校統合初年度の岡谷田中小学校と神明小学校における教育研究展開
- ⑦市内校長会で、岡谷スタンダードカリキュラムの趣旨説明
- ⑧各校への岡谷スタンダードカリキュラム趣旨の伝達
- ⑨岡谷ならではの「ひと・もの・こと」教育にかかわる教材研究
- ⑩各校における実践と事例の積み上げ（岡谷田中小学校、神明小学校の4・5学年を対象にロボット体験学習の実施）

岡谷スタンダードカリキュラムの構築は、文部科学省が創設した、全国の学校統合を契機とした魅力ある学校づくりに対する国の委託研究事業である、「少子化・人口減少に対応した活力ある学校づくり教育推進事業」において、岡谷市が推進する「岡谷小学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり」の研究内容の柱の一つとなっています。平成28年度は、3カ年計画の2年目となります。

その一環として、平成27年度には、岡谷小学校、田中小学校、神明小学校の4年生を対象に、岡谷市の特色の「ものづくり」に特化した学習であるロボット体験学習を構想し実施しました。市の工業振興課と市内企業と教育行政とが手を組んで進める産学（学社）連携事業です。たわしとモーターを使ったお掃除ロボットの製作、鉄板曲げやネジ締め体験、市内企業がプログラミングした多脚ロボットのパソコン上からの操作体験などを実施しました。子どもたちが、小さな部品がつながって精密ロボットが作られていることに気づき、工業やものづくりへの興味や関心が広がり深まることを願っています。岡谷田中小学校と神明小学校において、平成28年度は4・5年生、平成29年度は4・5・6年生を対象に、発達段階に合わせた内容で実施をする予定です。

II 岡谷スタンダードカリキュラム単元例一覧

平成28年度

岡谷スタンダードカリキュラム 単元例一覧

1学年

・学習活動(例)

各教科等					
生活	いきものと一緒 お蚕さまとわたし	いく みち かえる みち	ほしまで とどけ みんなの ねがい	ふゆも げんき	まとめて分かった岡谷の魅力 (統計グラフコンクール)
	・蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる。	・通学路の中で、気をつける交差点を見つけたり、子どもを守る安心の家に挨拶に行ったりする。	・願いごとを書いたり、離れた場所ですらす友だちに手紙を書いたりする。	・雪や氷を使って、基地や居場所作りをする。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。
国語	しらせたいな、見せたいな	ほんはともたち むかしばなしがいっぱい ～武井武雄の絵を活用して～	これはなんでしょう	てがみで知らせよう	本を選んで読もう 絵本の世界にふれよう ～小さな絵本美術館～
	・生活の中で見つけたものやことを、絵や文に書いて紹介する。	・絵の中から知っているものやことをみつけて、友だちとお話をする。	・岡谷について学んだことを取り上げて問題を作り、出題したり解答したりする。	・分かったことや気づいたことを手紙に書いて知らせる。	・小さな絵本美術館での見学をきっかけに、絵本の世界に触れ親しむ。
算数	いろいろなかたち	くわのはっぱ たくさんついたね	愛の鐘 今は何時		
	・直方体や立方体、球や円柱などの形をした様々な箱を重ね合わせて、岡谷にある建物の形をつくる。	・くわの葉や繭玉の数から20までの数を数えたり、計算したりする。	・季節ごとに変わる愛の鐘の時間を調べ、長い針と短い針で時間を読む。		
音楽	はくを感じて、リズムをうとう (岡谷太鼓)	いろいろな音を楽しもう			
	・拍を感じながら、歌ったり太鼓をたたいてリズムを打ったりする。	トライアングルやすずや太鼓など、いろいろな音を見つけたり、見つけた音で音楽をつくったりする。			
図工	見て 見て おはなし	のってみたいな いきたいな(絵)	のってみたいな いきたいな(粘土)		
	・武井武雄の絵や好きなお話のお気に入りの場面を想像したり写したりして描く。	・岡谷駅へ出かけて見てきた電車やバスの様子から想像を膨らめて、乗ってみたいものや行ってみたい場所を自由に思い浮かべながら描く。	・岡谷駅へ出かけて見てきた電車やバスの様子から想像を膨らめて、乗ってみたいものや行ってみたい場所を自由に思い浮かべながら粘土で作る。		
体育	輝くリンクの上で (スケート)	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会)	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)	走って跳んで 体づくり (かがやけおかやキッズ体力アッププログラム)
	・やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術にあわせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする。	・体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることに楽しさを味わう。	・湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る。	・岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る。	・やまびこスケートの森の指導者と一緒に、成長期にあわせた運動プログラムで、走、跳、投の運動をする。
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄 等)	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等)	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等)	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等)	
	・岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える。	・地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き、活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える。	・世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	・岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	

特別活動	<p>【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)</p>	<p>【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」</p>	<p>【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃</p>	<p>【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)</p>		
	<p>・地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする。</p>	<p>・児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く。</p>	<p>・年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする。</p>	<p>・岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む。</p>		

各教科等						
生活	わたしたちの大豆	お蚕さまとわたし	わたしたちのすむ町 (地域に伝わる民話)	のりもの遠足にしゅっぱつだ (JR シルキーバス)	まとめて分かった岡谷の魅力 (統計グラフコンクール)	
	・大豆を育て、味噌を作る中で、いろいろな姿に形を変える大豆の特性を調べる。	・蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる。	・御柱や太鼓祭りなど町の魅力や特徴を見つける。	・目的地を決め、鉄道やシルキーバスに乗って乗り物遠足をする。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。	
国語	かんざつ名人になろう	こんなものみつけたよ	しかけカードで説明しよう	詩をつくろう	あったらいいな、こんなもの	
	・飼っている動物や育てている植物を丁寧に観察し記録する。 ・書いた文章を読み合う。	・岡谷の町の中を探検して、おもしろいと思ったものを伝える文章を書く。 ・みんなで読んで感想を伝え合う。	・町探検で見してきた人やものやことを仕掛けカードを作り、工夫して説明する。	・町探検でわくわくしたり、どきどきしたり、はっとしたりしたことを詩で表現する。	・自分たちの町に今はないが、あったらいいなと思うものを考え、発表会をする。	
算数	動いちゃだめよお蚕様 (長さ)	市内の学校の人数からみる 1000 までの数	レイクウォークって夢の箱			
	・成長していくお蚕様の様子から、物の長さの測り方を考える。	・100を超える数の書き方や表し方を考える。	・建物の形を調べて、箱を作る。			
音楽	ひょうしをかんじてリズムをうとう (岡谷太鼓)					
	・2拍子と3拍子を感じながら、手でリズムを打ったり、太鼓を打ったりする。					
図工	見て 見て おはなし	わくわく岡谷すごろく	にぎにぎねん土 岡谷			
	・武井武雄の絵や好きなお話のお気に入りの場面を想像して描く。	・身の回りや学校、岡谷の町にあるひと・もの・ことがつながるすごろくを作る。	・握った粘土の形から、思いついた身の回りや学校、岡谷の町にあるものを作る。			
体育	輝くリンクの上で (スケート)	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会)	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)	走って跳んで 体づくり (かがやけおかやキッズ体力アッププログラム)	
	・やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術にあわせ滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする。	・体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう。	・湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る。	・岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る。	・やまびこスケートの森の指導者と一緒に、成長期にあわせた運動プログラムで、走、跳、投の運動をする。	
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄 等)	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等)	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等)	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等)		
	・岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える。	・地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き、活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える。	・世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	・岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。		
特別活動	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)	【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)		
	・地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする。	・児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く。	・年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする。	・岡谷に根ざした祭り、スポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む。		

各教科等							
総合的な学習の時間	お蚕さまとわたし	近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)				
	・蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べたり、自分たちで飼育した繭で糸取りや繭細工作りをしたりする。	・岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。				
国語	よい聞き手になろう	すがたをかえる大豆	組み立てにそって、物語を書こう	しりょうから分かったことを、すじ道を立てて話そう	岡谷かるた		
	・岡谷市について調べてきたことを発表し合う中で、話の中心に気をつけて聞く。	・味噌工場を見学して、感じたことを思い出しながら読む。	・武井武雄の絵を見て物語を書き、友だちと読み合う。	・岡谷の人口の推移や昔や今の写真資料から、読み取ったことをまとめ、発表する。	・岡谷のひと・もの・ことにかかわるかるたをつくり、言葉遊びをする。		
社会	わたしたちのまち みんなのまち(学校の周りの探検)	わたしたちのくらす岡谷市の様子(童画館通り商店街・スワンドーム・諏訪湖ハイツ等)	かわってきた人々のくらし(シルク:蚕糸博物館 漁業:四ツ手網)				
	・地域探検や地図作成を通して、私たちの学校の周りや地域の様子を調べる。	・岡谷市にほどのような場所があり、それぞれどのような様子なのか調べる。	・蚕糸博物館や諏訪湖に行き、繰糸機や四ツ手網等の古い道具にふれ、道具の工夫によって人々の生活がどのように変わってきたのかを調べる。				
算数	コマがよく回るね 円と球	岡谷の施設やイベントから見る 1億までの数	時間と長さ(諏訪湖周)	生まれた時の体重からみつめる重さ	表とグラフ(統計グラフコンクール)		
	・工業コマや様々なコマを回して、丸い形について調べる。	・太鼓祭りやつつじ祭り、蚕糸博物館等への参加者数から1万を超える大きな数の表し方や仕組みについて調べる。	・諏訪湖周を調べ、長さの計算の仕方を考える。	・いろいろなものの重さについて調べ、予想した重さと実際の重さを比べる。	・岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、表やグラフを使って分かりやすく整理する仕方を考える。		
理科	お蚕さまを育てよう	こん虫のからだを調べよう(諏訪湖の生き物:ユスリカ、トンボ)	風やゴムで ものをうごかさう				
	・お蚕さまはどのような育ち方をするのか調べる。	・お蚕さまや諏訪湖に生息するユスリカなど、昆虫の体のつくりを調べる。	・岡谷の企業や工場が持つ力学工業技術にふれ、風やゴムがものを動かす働きを調べる。				
音楽	横河川に出て味わう春の小川	日本の音楽に親しもう(岡谷太鼓)	日本の音楽に親しもう	リコーダーと仲良しになろう			
	・横河川に行き、春の様子を味わいながら、春の小川を歌う。	・和太鼓など、日本の楽器の音に親しんだり、お囃子の旋律をつくったりする。	・ピアノやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミソの音で、消防ラッパの旋律をつくったり、弾いたりする。	・リコーダーの演奏の仕方を覚えて、きれいな音で演奏する。また、湊小の演奏から、いろいろな種類のリコーダーの音色を聞く。			
図工	大すきなものがたり	クリスタルファンタジー	ねんどマイタウン 岡谷				
	・大すきな物語や武井武雄の作品の中に入った気持ちになって、好きな場面を想像し、絵や版に表す。	・岡谷の企業や工場が持つLED技術にふれ、光を通すものを組み合わせ、光の透き通る世界を作る。	・住んでみたい岡谷の町を楽しく想像し、粘土で作る。				

体育	輝くリンクの上で (スケート)	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会)	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラ ソン	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)		
	・やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術にあわせ滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする。	・体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう。	・湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせ長距離を走る。	・岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る。		
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄 等)	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等)	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等)	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等)		
	・岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える。	・地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き、活動している人々の取り組みやひとなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える。	・世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	・岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。		
特別活動	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)	【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)		
	・地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする。	・児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く。	・年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする。	・岡谷に根ざした祭り、スポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む。		

各教科等						
総合的な学習の時間	それいけ カニロボちゃん (ものづくり・ロボット学習)	大きくなってね かわいい赤ちゃん (乳幼児との交流)	まとめて分かった岡谷の魅力 (統計グラフコンクール)			
	・テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする。	・相手意識や目的意識に立ち、各地区の乳幼児サークルとの交流を企画する中で、他を思いやることの大切さを考える。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。			
国語	【話すこと・聞くこと】	【読むこと】	【書くこと】	新聞を作ろう	だれもがかかり合えるように	「岡谷紹介リーフレット」をつくる
	・岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする。	・地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む。	・岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す。	・社会科や総合の時間に調べた岡谷の人・もの・ことの中から、知らせたいことを選んで新聞記事を書く。	・町の中にあるバリアフリーやユニバーサルデザインについて調べ、分かりやすく発表する。	・説明の仕方を工夫して、岡谷市の魅力を分かりやすく紹介するリーフレットを作る。
社会	くらしを守る (消防中央司令室、消防団)	水はどこから (岡谷市出前授業、遠足で浄水場・水源の森へ)(塩尻峠:分水嶺)	ごみのしまつと利用 (広域の清掃工場:諏訪湖周クリーンセンター)	郷土の発展につくす (武井五兵衛、永田徳本、片倉兼太郎、武居代次郎)		
	・広域化した中央司令室の様子から、消防署や消防団などの関係諸機関が連携し、災害や事故を未然に防ごうとしている人々の努力や仕組みを調べる。	・水源や浄水場の様子から、私たちの生活に欠かせない水が、どのようにつくられ、送られてくるのかを調べる。	・広域化した清掃工場の様子から、ごみの行方や処理されている工夫を調べる。	・郷土の発展に尽くした武井五兵衛は、地域の人々の願いに対して、どのようなことをしたのかを調べる。		
算数	木落とし坂の角度は何度 (角とその大きさ)	高速道路の橋げたや線路の橋脚からみる垂直・平行と四角形 (垂直・平行と四角形)	岡谷市の予算の内訳から見る1億をこえる数 (一億をこえる数)	しきつめて測ろう 岡谷市の面積(面積)	折れ線グラフ (統計グラフコンクール)	
	・いろいろな角の大きさについて調べたり、測ったりする。	・高速道路の橋げたや線路の橋脚を見て、直角の交わり方を調べる。	・岡谷市の予算の内訳から、1億を超える数の読み方や書き方を調べていく。	・岡谷市の縮図上に1平方センチメートル方眼を敷き詰め、岡谷市の面積を求め、実際の面積と比較する。	・岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、変わり方のよく分かる折れ線グラフに表していく。	
理科	ものの温まり方 (味噌をつかって)	水のすがたと温度 (御神渡り)	岡谷企業の工業技術から見つける とじこめた空気と水の性質	岡谷企業の工業技術から見つける 乾電池や光電池のはたらき (京セラ)	岡谷企業の工業技術から見つける 磁石の性質	
	・ビーカーの中に味噌を入れ、水は温まるときに、どんな動きをするのかを調べる。	・諏訪湖の御神渡り様子から、水のすがたは、温度によって、どのように変わるのかを調べる。	・岡谷の企業や工場が持つピストン(空気圧)加工技術にふれ、とじこめた勇氣や水の体積変化を調べる。	・岡谷の企業や工場が持つソーラー技術にふれ、光電池に当てる光の強さを覚えて光電池の性質を調べる	・岡谷の企業や工場が持つ磁石加工技術にふれ、極の仕組みや鉄を引きつけるなどの磁石の性質を調べる。	
音楽	旋律の特徴を感じ取ろう (とんび 諏訪湖に行つて)	いろいろな音のひびきを感じ取ろう (打楽器の音楽:岡谷太鼓)	日本の音楽に親しもう			
	・諏訪湖に行き、とんびが羽ばたく様子を見ながら、旋律の音の上がり下がりや強さを工夫しながら、『とんび』の歌を歌う。	・太鼓や他の打楽器などを使い、音の響きを確かめながら、鳴らし方を工夫して演奏する。	・ピアノやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミソの音で、消防ラッパの旋律をつくったり、弾いたりする。			

図工	武井武雄ワールド ・武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す。	夢のまち 岡谷へようこそ ・段ボールや紙などをいろいろな方法で組み合わせ、みんなで協力して、未来の岡谷のまちを作る。	岡谷に咲く花 ・市の花つつじや学校ならではの植物を描く。				
	輝くりんくの上で (スケート) ・やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術にあわせ滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする。	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会) ・体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう。	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン ・湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る。	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみなこい) ・岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る。			
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄 等) ・岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える。	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等) ・地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き、活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える。	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等) ・世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等) ・岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。			
	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等) ・地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする。	【学校行事】 運動会：種目「よさ〜御柱」 ・児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く。	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃 ・年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする。	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんな で (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール) ・岡谷に根ざした祭り、スポーツに、クラスみんなで一致団結して取り組む。	【クラブ活動】 名人・達人に学ぶ ・地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫する。		

各教科等							
総合的な学習の時間	それいけ カニロボちゃん (ものづくり・ロボット学習)	わたしたちは大豆マン さあ味噌作り	みんなこいこい 創作ダンス	まとめて分かった岡谷の魅力 (統計グラフコンクール)			
	・テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする。	・工場の数がとても多く、高い品質が認められている岡谷市の味噌作りを調べたり、味噌を作ったりする。	・学級の雰囲気表れるようなダンスを創作し、クラスみんなで心を合わせて表現する。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。			
国語	【話すこと・聞くこと】	【読むこと】	【書くこと】	明日をつくるわたしたち	グラフや表を用いて書こう (統計グラフコンクールに向けて)	百年後のふるさとを守る	1枚の写真から
	・岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする。	・地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む。	・岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す。	・身の回りにある問題を探し、自分の考えをまとめ、提案書を書く。	・岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを表にし、自分の考えをまとめる。	・人物の生き方や考え方を、岡谷で起きた災害と関わらせながら考える。	・岡谷のひと・もの・ことを写した写真を出発点として、自分だけの物語を書く。
社会	私たちの国土 (岡谷のカーネーションづくり)	私たちの生活と食料生産 (水産業:わかさぎ・うなぎ)	私たちの生活と工業生産 (工業:中部テクノ・岡谷精密工業・みくに工業・池戸製作所・京セラ・沖電線 等)	情報化した社会とわたしたちの生活 (LCV, 市民新聞、長野日報、信毎、広報)	自然災害を防ぐ (岡谷市豪雨災害)		
	・カーネーションづくりの様子から、寒暖差の大きい気候が、どのように栽培に生かされているか調べる。	・諏訪湖や天竜川の漁業を通して、水産業の盛んな地域では、どのようにして私たちの生活を支えているのかを考える。	・岡谷の企業や工場で働く人々のものづくりへの工夫や努力にふれる中で、私たちの生活を豊かにする日本の工業生産について調べる。	・地元の報道機関を取り上げ、私たちの生活の中で、情報が果たす役割を調べる。	・岡谷の豪雨災害を取り上げ、自然災害から私たちの生活を守るために、どんな取り組みがされているか調べる。		
算数	岡谷市民の中に見る平均	市の予算を市民一人あたりで計算すると	工業ゴマから考える円と正多角形	割合のグラフ (統計グラフコンクール)			
	・岡谷市の様々な統計から、ならした数の大きさを比べる。	・市の予算配分から、単位量あたりの経費を比べる。	・ゴマの回り方から正多角形と円の関係性を調べる。	・岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、円グラフや帯グラフなど割合のグラフで表す。			
理科	生命の誕生 (岡谷生まれのめだかをいかして:塩嶺病院横の池)	流れる水のはたらき (横河川の石の大きさや形を比べよう)	流れる水のはたらき 2 (岡谷の豪雨災害)				
	・池や小川の中にいるメダカ等の小さな生き物が育つ様子から、生命の誕生や育ち方を調べる。	・横河川の上流と下流における石の大きさや形を比較し、流れる水が地面に及ぼす働きを調べる。	・岡谷の豪雨災害を取り上げ、台風や長雨により川の水が増え続けると、土地の様子がどのように変わるのかを調べる。				
音楽	日本と世界の音楽を楽しもう (岡谷太鼓)	詩と音楽を味わおう (琵琶湖周航の歌・小口太郎、木遣り)					
	・和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴を感じ取ったり、それを生かして表現を工夫したりする。	・小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りから、言葉の感じと旋律が一体となって生み出す日本の歌を聞く。					

	武井武雄ワールド	アートレポーターになって (美術館とつながろう)	アートカードを送ろう				
図工	・武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す。	・イルフ童画館、美術考古館に行き、学芸員さんと一緒に作品を見たり、自分たちで館内探検をしたりする。	・岡谷ならではの学習で出会った人や離れた場所で暮らす友だちに向け、自分の気持ちや生活の様子が伝わるようなアートカードを作る。				
家庭科	一針に心を込めて (手縫いのよさを生かそう)	食べて元気 ご飯と味噌汁 (岡谷の味噌をつかって 松亀味噌他)					
	シルク糸を使って生活を楽しむ するような小物を作る。	手作りの味噌で味噌汁を作り、 日本の伝統食を味わう。					
体育	輝くリンクの上で (スケート)	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会)	体づくり・気持ちよく走ろう 湖 畔マラソン	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみな こい)	学校や地域での怪我の防止	自然災害による怪我の防止	
	・やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術にあわせ滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする。	・体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう。	・湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせ長距離を走る。	・岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る。	・凍った道や雪道で起こる怪我の防止の仕方を考える。	・岡谷の災害から、自然災害にはどんな危険が潜んでいるのかや、その危険を減らす方法を考える。	
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄 等)	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等)	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等)	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等)			
	・岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える。	・地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き、活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える。	・世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。	・岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える。			
外国語活動							
特別活動	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)	【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんな で (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)	【クラブ活動】 名人・達人に学ぶ		
	・地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする。	・児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く。	・年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする。	・岡谷に根ざした祭り、スポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む。	・地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫する。		

各教科等							
総合的な学習の時間	それいけ カニロボちゃん (ものづくり・ロボット学習)	御柱から見つめる悠久の歴史	近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう	まとめて分かった岡谷の魅力 (統計グラフコンクール)			
	・テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする。	・御柱に参加する家族や自分自身、地域の人たちの思いや、御柱を通してつながる地域の一体感に触れ、ふるさと岡谷の歴史や文化を見つめる。	・岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる。	・国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る。			
国語	【話すこと・聞くこと】 岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする。	【読むこと】 地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む。	【書くこと】 岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す。	学級討論会をしよう	ようこそ私たちの町へ～岡谷のよさを伝えよう～	未来がよりよくあるために	
				・岡谷における社会的事象について、一つの問題を肯定・否定から考え、討論会をする。	・岡谷の町のよさを伝えるパンフレットをつくる。	・岡谷をどんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを、現在の社会や自然環境、身の周りのことに目を向けて考える。	
社会	縄文のむらから古墳のくにへ (梨久保遺跡・縄文時代中期・集落跡・コウモリ塚古墳・スクモ塚古墳 など)	武士の世の中へ (鎌倉街道)	3人の武将と天下統一 (永田徳本:戦国～江戸初め)	世界に歩みだした日本 (製糸王国岡谷と片倉兼太郎)	新しい日本・平和な日本へ (製糸業から工業へ)	災害復興の願いを実現する政治 (豪雨災害復興)	世界の中の日本 (姉妹都市・マウントプレザント市)
	・岡谷に点在する遺跡・古墳群を調べ、縄文のむらのくらしの様子について話し合う。	・岡谷を通る鎌倉街道をたどり、武士のくらしや武士の世の中の様子を調べる。	・戦国から江戸初期にかけて世の中が天下統一へと進んでいく中で、医聖として人々ために生きた永田徳本について調べる。	・製糸王国岡谷と製糸王片倉兼太郎を取り上げ、日本の立場が世界の中でどのように変わっていったのか調べる。	・製糸業から工業へ変容を遂げる岡谷の様子から、戦後日本がどのように変わっていったのか調べる。	・岡谷の豪雨災害の様子から、災害にあった人々の願いは政治の働きによってどのように実現していくか調べる。	・姉妹都市のマウントプレザント市との交流から、どのようにして世界の人々と共に生き、平和な社会を築いていけばよいのかを考える。
算数	市章や校章から見つける線対称と点対称	歩いて確かめる図形の拡大・縮小	線路や高速道路を走る乗り物の速さ	岡谷や地域のひと・もの・ことの中にある量の単位	くふうされたグラフ (統計グラフコンクール)		
	・2つに折ってぴったり重なる形や回してぴったり重なる形について調べる。	・歩測して求めた距離を、岡谷の地図を使って確かめる。	・線路や高速道路の橋脚上を走る乗り物の通過時間と距離の関係から速さの仕組みを調べる。	・岡谷や地域のひと・もの・ことの中にある量の単位を通して、メートル法の単位の仕組みについて調べていく。	・岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、種別や分布別などの工夫されたグラフに表す。		
理科	大地のつくりと変化(駒沢区の地層)	御柱の曳行からみつめるこの働き	人と環境(諏訪湖)				
	・駒沢区の地層を取り上げ、大地のつくりや成り立ちを調べる。	・御柱のてこ衆とてこ棒の動きから、1点を支えにして、1点に力を働かせる様子を調べる。	・諏訪湖の姿から、人の生活と水との関係や水をきれいにする取り組みを調べる。				
音楽	日本と世界の音楽を楽しもう (楽器による世界の国々の音楽・岡谷太鼓)	詩と音楽を味わおう (琵琶湖周航の歌・小口太郎、木遣り)					
	・和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴や楽器の音色を感じ取って、そのよさを味わいながら、聞いたり歌ったりする。	・小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りを、歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら聞く。					

図工	武井武雄ワールド	私たちの大切な風景 (横河川の桜・イルフ童画館通 りなど)	身近な木をむだなく使って	光の形			
	・武井武雄作品から発想を膨ら ませ、絵や版画に表す。	・岡谷に広がる日常の風景、草 花や空、身近なものをじっくり見 つめ、風や光、音を感じなが ら、自分だけの大切な風景を絵 に表す。	・1枚の材木を無駄なく使う切り 方を考え、生活を豊かにするも のを作る。	・岡谷の企業や工場が持つLE D技術にふれ、光の効果を生 かした立体物を作る。			
家庭科	手洗いで洗濯をしよう(廃油石 鹼作り)	自由研究(シルク石鹼作り)	まかせてね 今日の食事	冬を明るく暖かく			
	・岡谷消費者の会のみなさん との廃油石鹼作りや洗濯実習を 通して、日々の生活の中で環 境のためにできることを考える。	・蚕糸博物館に行ってシルク石 鹼を作ることで、シルク繊維を 生活に生かそうとする組み の工夫について考える。	・地域素材をいかした給食や食 事の献立を工夫して考える。	・長野県の中でも寒い岡谷の冬 を乗り切るために、気候に合わ せた生活の工夫を考える。			
体育	輝くリンクの上で (スケート)	体づくり・力を合わせて 綱引き (進友会)	体づくり・気持ちよく走ろう 湖 畔マラソン	みんなで踊ろう 表現ダンス (花笠・岡谷おどり・ごったみな こい)	学校や地域でのけがの防止	自然災害による怪我の防止	
	・やまびこスケートの森の屋内 外リンクで、自分の技術にあわ せ滑走したり、友と共に楽しみ ながら滑ったりする。	・体づくり運動として綱引きに取 り組む中で、友と共に力を合わ せることの楽しさを味わう。	・湖畔のマラソンコースを利用 し、自分の体力に合わせて長距 離を走る。	・岡谷に伝わる踊りや地域に慣 れ親しんだダンスを、友と共に 表現の仕方を工夫しながら踊 る。	・凍った道や雪道で起こる怪我 の防止の仕方を考える。	・岡谷の災害から、自然災害に はどんな危険が潜んでいるの かや、その危険を減らす方法を 考える。	
道徳	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 郷土を愛する態度) (片倉兼太郎、武居代次郎、武 井五兵衛、小口太郎、武井武 雄 等)	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (C 勤労・公共の精神) (見守り隊 消防団 等)	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (蚕霊供養塔 等)	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (C 伝統と文化の尊重) (御柱、太鼓祭り 等)			
	・岡谷の偉人の業績、ひととなり に触れ、先人の努力や郷土へ の思いに触れ、自らの生き方を 考える。	・地域の人々の暮らしをよくする ために、自身の時間を割き、活 動している人々の取り組みやひ ととなりに触れ、社会に奉仕す ることの意味を考える。	・世界で唯一の虫の供養塔に 触れ、郷土の歴史と文化を大 切にしてきた歩みとそこに暮ら す自らの生き方を考える。	・岡谷や諏訪地方に伝わる祭り や伝統芸能から、郷土の歴史と 文化を大切にしてきた歩みとそ こに暮らす自らの生き方を考え る。			
外国語活動	世界の国々・世界の生活 (姉妹都市マウントプレザント市 から学ぶ)						
	・姉妹都市マウントプレザント市 における人々の暮らしや子ども たちの学校生活の様子から、日 本と外国との生活、習慣、行事 などを比べる。						
特別活動	【学校行事】 遠足:岡谷ならではの学習と関 連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、 出早公園等)	【学校行事】 運動会:種目「よいさ〜御柱」	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんな で (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこ い、綱引き、エースドッチポー)	【学級活動】 この国の主人公はわたし (主権者教育)	【児童会】 岡谷いじめ根絶子ども会議	【クラブ活動】 名人・達人に学ぶ
	・地図を持って、岡谷の道や地 形を確かめながら歩いたり、見 学地の様子を調べたりする。	・児童会種目やPTA種目とし て、御柱のように楽しくみんな で一致協力して柱を曳く。	・年2回行われる諏訪湖清掃に 参加し、地域の人たちと共に、 奉仕活動をする。	・岡谷に根ざした祭り、スポーツ に、クラスのみんなで一致団結 して取り組む。	・学級の役割決めや児童会選 挙を通して、自分たちの代表者 を選ぶ選挙の仕組みを調べた り、考えたりする。	・いじめ根絶子ども会議の参加 に向けて、学級、学年、学校 で、自分自身の日々の生活や 友とのかかわりを振り返る。	・地域講師に教わりながら、岡 谷で親しまれている伝統文化 や伝承遊びなどに触れ、友と共 にその遊び方や表現の仕方を 工夫する。

Ⅲ 岡谷スタンダードカリキュラム単元例

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 1学年

【生活】

単元名	いきものと一緒 お蚕さまとわたし
学習活動例	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる
学びの価値	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる中で感じる命の尊さ
学習内容	お蚕様の特色や特性 お蚕様の成長の様子
「ひと・もの・こと」活用	岡谷蚕糸博物館 蚕糸博物館学芸員 桑の木 繭

単元名	いく みち かえる みち
学習活動例	通学路の中で、気をつける交差点を見つけたり、子どもを守る安心の家に挨拶に行ったりする
学びの価値	自分の身の回りにある危険箇所を確かめる中で感じる安心安全な暮らしの大切さとその暮らしをつくり上げていくことの必要性
学習内容	学校や家の周り 通学路の危険箇所 安全な方向の仕方や横断歩道の渡り方 不審者対策
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 子どもを守る安心の家 PTA校外交通部

単元名	ほしまで とどけ みんなの ねがい
学習活動例	願いごとを書いたり、離れた場所で暮らす友だちに手紙を書いたりする
学びの価値	学校統合により、別の学校に通う友だちや離れた場所で暮らす親戚や友だちに、自身の生活の様子や友への思いを伝えることで確かめ合う心のつながり
学習内容	七夕の風習 手紙の書き方
「ひと・もの・こと」活用	七夕 学校統合で別の学校に通うことになった友だち 竹林()

単元名	ふゆも げんき
学習活動例	雪や氷を使って、基地や居場所作りをする
学びの価値	岡谷の寒い冬に、雪や氷を使って基地や居場所作りをしたり、冬至や正月の文化に触れたりする中で味わう冬の暮らしの輝き
学習内容	中庭の季節ごとの違い 動植物の様子 雪や氷の性質 冬至や正月などの年中行事
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森 諏訪湖 御神渡り おかや環境かるた

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	しらせたいな、見せたいな
学習活動例	生活の中で見つけたものやことを、絵や文に書いて紹介する
学びの価値	生活の中で見つけたものやことを、絵や文に書いてまとめる中で、相手意識や目的意識に立って伝えていくことの喜び
学習内容	文章の構成の仕方 文章の推敲
「ひと・もの・こと」活用	岡谷スタンダードカリキュラムに関連する内容や他教科等と関連する内容

単元名	ほんはともだち むかしばなしがいっぱい ～武井武雄の絵を活用して～
学習活動例	絵の中から知っているものやことを見つけて、友だちとお話をする。
学びの価値	武井武雄の絵や図書館の本の中から知っていることやものを見つけ、友と伝え合っていくことで感じる本の世界の広がり
学習内容	本の選び方 本の紹介の仕方 発表の仕方・話の聞き方
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄の絵 地域の民話・神話 市立図書館

単元名	これはなんでしょう
学習活動例	岡谷について学んだことを取り上げて問題を作り、出題したり解答したりする
学びの価値	岡谷について学んだ「ひと・もの・こと」を選び、その特徴を取り上げて問題を作ったり、答えを導いたりすることのおもしろさ
学習内容	必要な事柄をあつめること 発声や言葉遣いに気をつけて話すこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷スタンダードカリキュラムに関連する内容や他教科等と関連する内容

単元名	てがみで知らせよう
学習活動例	分かったことや気づいたことを手紙に書いて知らせる
学びの価値	岡谷について調べて、分かったことや驚いたことを、もらう人の表情や気持ちを想像して手紙に書いていくことの喜び
学習内容	手紙の書き方 主述の関係性・句読点の打ち方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷スタンダードカリキュラムに関連する内容や他教科等と関連する内容

単元名	本を選んで読もう 絵本の世界にふれよう ～小さな絵本美術館～
学習活動例	小さな絵本美術館での見学をきっかけに、絵本の世界に触れ親しむ
学びの価値	読みたい本を選び登場人物の行動を中心に想像を広げ、お気に入りなどところを見つけ読み進めていくことの喜び
学習内容	本の選び方 紹介カードの書き方
「ひと・もの・こと」活用	小さな絵本美術館 絵本作家さとうわきこさん

【算数】

単元名	いろいろなかたち
学習活動例	直方体や立方体、球や円柱などの形をした様々な箱を重ね合わせて、岡谷にある建物の形をつくる
学びの価値	直方体や立方体、球や円柱などの形をした様々な箱を重ね合わせて、岡谷にある建物の形をつくり、イメージを形にしていくことの創造性
学習内容	箱や筒やボールのような形
「ひと・もの・こと」活用	岡谷にある建物

単元名	くわのはっぱ たくさんついたね
学習活動例	くわの葉や繭玉の数から20までの数を数えたり、計算したりする
学びの価値	桑の葉や繭玉を使って、20までの数を理解し、数直線上の数を読んだり表したりしていくことのよさ
学習内容	10より大きくて20までの数の数え方と読み方
「ひと・もの・こと」活用	桑の葉 繭玉 岡谷蚕糸博物館

単元名	愛の鐘 今は何時
学習活動例	季節ごとに変わる愛の鐘の時間を調べ、長い針と短い針で時間を読む
学びの価値	日常の生活場面に即して、何時・何時半を読んだり、文字盤で表したりすることのよさ
学習内容	時計の仕組み 何時・何時半の時刻の読み方・表し方
「ひと・もの・こと」活用	愛の鐘の時刻

【音楽】

単元名	はくを感じて、リズムをうとう（岡谷太鼓）
学習活動例	拍を感じながら、歌ったり太鼓をたたいてリズムを打ったりする
学びの価値	拍を感じながら、歌ったり太鼓をたたいて拍子を打ったりすることで得られるリズム感の醸成
学習内容	リズム打ち
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

単元名	いろいろな音を楽しもう
学習活動例	トライアングルやすずや太鼓など、いろいろな音を見つけたり、見つけた音で音楽をつくったりする
学びの価値	いろいろな音を見つけ、組み合わせて鳴らしたり音楽を作っていくことのおもしろさ
学習内容	様々な楽器の音の違い
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

【図工】

単元名	見て 見て おはなし
学習活動例	武井武雄の絵や好きなお話のお気に入りの場面を想像したり写したりして描く
学びの価値	武井武雄の絵や好きなお話の絵からお気に入りの場面を選び、工夫して描くことの創造性
学習内容	想像を膨らめて描くこと 友の作品を見合うこと
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄の絵 イルフ童画館

単元名	のってみたいな いきたいな(絵)
学習活動例	岡谷駅へ出かけて見てきた電車やバスの様子から想像を膨らめて、乗ってみたいものや行ってみたい場所を自由に思い浮かべながら描く
学びの価値	岡谷の行きたいところを想像し、形や色を工夫して描くことのおもしろさ
学習内容	想像を膨らめて描くこと 友の作品を見合うこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷駅 バス停 ジャンクション高架橋 線路高架橋

単元名	のってみたいな いきたいな(粘土)
学習活動例	岡谷駅へ出かけて見てきた電車やバスの様子から想像を膨らめて、乗ってみたいものや行ってみたい場所を自由に思い浮かべながら粘土で作る。
学びの価値	岡谷の行きたいところを想像し、形を工夫して粘土で作ることのおもしろさ
学習内容	想像を膨らめて粘土で作ること 友の作品を見合うこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷駅 バス停 ジャンクション高架橋 線路高架橋

【体育】

単元名	輝くリンクの上で (スケート)
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き(進友会)
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせる楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせ長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせ長距離を走ることによって得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることによって得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

単元名	走って跳んで 体づくり(かがやけおかやキッズ体力アッププログラム)
学習活動例	やまびこスケートの森の指導者と一緒に、成長期にあわせた運動プログラムで、走、跳、投の運動をする
学びの価値	様々な運動バリエーションの中で自分の体を動かしていくことの喜び
学習内容	体ほぐしや体づくりの動き
「ひと・もの・こと」活用	かがやけおかやキッズ体力アッププログラム やまびこスケートの森の指導員

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳（蚕霊供養塔 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたこと背景 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳（御柱、太鼓祭り 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【特別活動】

単元名	【学校行事】遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう（諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等）
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター(ecoポッポ)等

単元名	【学校行事】運動会：種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスのみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 2学年

【生活】

単元名	わたしたちの大豆
学習活動例	大豆を育て、味噌を作る中で、いろいろな姿に形を変える大豆の特性を調べる
学びの価値	大豆を育て、味噌を作り、いろいろな姿に形を変える大豆の不思議さに触れる中で土から働きかけられる喜び
学習内容	いろいろな食物に形を変える大豆の特性 畑の設え 大豆の育て方 味噌の作り方
「ひと・もの・こと」活用	区や地域から借りた畑 味噌工場とそこで働く人

単元名	お蚕さまとわたし
学習活動例	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる
学びの価値	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べる中で感じる命の尊さ
学習内容	お蚕様の特色や特性 お蚕様の成長の様子
「ひと・もの・こと」活用	岡谷蚕糸博物館 蚕糸博物館学芸員 桑の木 繭

単元名	わたしたちのすむ町（地域に伝わる民話）
学習活動例	御柱や太鼓祭りなど町の魅力や特徴を見つける
学びの価値	御柱や太鼓祭りなど町の魅力や特徴を見つける中で出会った「ひと・もの・こと」と触れ合うことの喜び
学習内容	地域生活の様子 地域の伝統芸能や祭りとそれを守り続ける人々の様子
「ひと・もの・こと」活用	御柱 太鼓祭り 地域の祭り 伝統芸能や祭りに携わる人々

単元名	のりもの遠足にしゅっぱつだ（JR シルキーバス）
学習活動例	目的地を決め、鉄道やシルキーバスに乗って乗り物遠足をする
学びの価値	鉄道やシルキーバスに乗って乗り物遠足をし、ホームや車内でのマナーについて考えることで培う公共心
学習内容	公共交通機関の利用の仕方 ホームや車内でのマナー
「ひと・もの・こと」活用	JR 岡谷駅 シルキーバス バス停

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力（統計グラフコンクール）
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを図や表、グラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	かんさつ名人になろう
学習活動例	飼っている動物や育てている植物を丁寧に観察し記録する 書いた文章を読み合う
学びの価値	飼っている動物や育てている植物を丁寧に観察し、記録していくことの利便性
学習内容	見聞きしたことの記録の仕方 書くために必要な事項の集め方とまとめ方
「ひと・もの・こと」活用	飼育している動物(お蚕様など) 育てている植物(桑の木など)

単元名	こんなものみつけたよ
学習活動例	岡谷の町の中を探検して、おもしろいと思ったものを伝える文章を書く みんなで読んで感想を伝え合う
学びの価値	岡谷の町を調べたことの中から、友だちに知らせたいことや出来事を見つけ、自分の体験と合わせて伝えていくことのおもしろさ
学習内容	相手意識や目的意識をもった文の組み立て
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

単元名	しかけカードで説明しよう
学習活動例	町探検で見えてきた人やものやことを仕掛けカードを作り、工夫して説明する
学びの価値	町探検で見えてきた人やものやことを仕掛けカードを作り、工夫して説明することのおもしろさ
学習内容	分かりやすい説明の仕方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

単元名	詩をつくろう
学習活動例	町探検でわくわくしたり、どきどきしたり、はっとしたりしたことを詩で表現する
学びの価値	町探検でわくわくしたり、どきどきしたり、はっとしたりしたことを詩で表現することで味わう創造性
学習内容	必要な事柄を集めて詩に表すこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

単元名	あったらいいな、こんなもの
学習活動例	自分たちの町に今はないが、あったらいいなと思うものを考え、発表会をする
学びの価値	発表会を開いて、あったらいいなと思うものを伝え合うおもしろさ
学習内容	話の組み立て 話し方 聞き方 質問の仕方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

【算数】

単元名	動いちゃだめよお蚕様（長さ）
学習活動例	成長していくお蚕様の様子から、物の長さの測り方を考える
学びの価値	成長していくお蚕様の体の長さを、手やものさしを使って測る中で味わう量感
学習内容	長さの単位（「cm」「mm」の書き方）ものさしの仕組みや使い方
「ひと・もの・こと」活用	お蚕様

単元名	市内の学校の人数からみる 1000までの数
学習活動例	100を超える数の書き方や表し方を考える
学びの価値	市内の学校に通う子どもの数を通して1000までの数の仕組みを調べていくことで味わう数量感
学習内容	100を超える数の仕組み
「ひと・もの・こと」活用	市内の学校に通う子どもの数

単元名	レイクウォークって夢の箱
学習活動例	建物の形を調べて、箱を作る
学びの価値	新しくできたレイクウォークに行き、建物の形を調べ、箱を作ってみることで得られる空間認知
学習内容	箱を構成する要素（面・辺・頂点）面と面のつながり方や位置関係
「ひと・もの・こと」活用	レイクウォーク他岡谷市内の建物

【音楽】

単元名	ひょうしをかんじてリズムをうとう（岡谷太鼓）
学習活動例	2拍子と3拍子を感じながら、手でリズムを打ったり、太鼓を打ったりする
学びの価値	2拍子と3拍子を感じながら、歌ったり太鼓をたたいて拍子を打ったりすることで得られるリズム感の醸成
学習内容	リズム打ち
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

【図工】

単元名	見て 見て おはなし
学習活動例	武井武雄の絵や好きなお話のお気に入りの場面を想像したり写したりして描く
学びの価値	武井武雄の絵や好きなお話の絵からお気に入りの場面を選び、工夫して描くことの創造性
学習内容	想像を膨らめて描くこと 友の作品を見合うこと
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄の絵 イルフ童画館

単元名	わくわく岡谷すごろく
学習活動例	身の回りや学校、岡谷の町にあるひと・もの・ことがつながるすごろくを作る
学びの価値	身の回りや学校、岡谷の町にあるひと・もの・ことがつながるすごろくを作る創意工夫
学習内容	紙を使った工作 すごろくの仕組み
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

単元名	にぎにぎねん土 岡谷
学習活動例	握った粘土の形から、思いついた身の回りや学校、岡谷の町にあるものを作る
学びの価値	粘土を握ってできた偶然の形と、岡谷について調べてきた中で出会ったものを重ねて立体にするこの創造性
学習内容	粘土を使った立体作り 粘土の準備の仕方・片付け方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

【体育】

単元名	輝くリンクの上で（スケート）
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き(進友会)
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせるこの楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせ長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせ長距離を走ることで得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることで得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

単元名	走って跳んで 体づくり(かがやけおかやキッズ体カアッププログラム)
学習活動例	やまびこスケートの森の指導者と一緒に、成長期にあわせた運動プログラムで、走、跳、投の運動をする
学びの価値	様々な運動バリエーションの中で自分の体を動かしていくことの喜び
学習内容	体ほぐしや体づくりの動き
「ひと・もの・こと」活用	かがやけおかやキッズ体カアッププログラム やまびこスケートの森の指導員

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (蚕霊供養塔 等) (C 伝統と文化の尊重)
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたこと背景 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳（御柱、太鼓祭り 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【特別活動】

単元名	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう （諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等）
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター（ecoポッポ）等

単元名	【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで （太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール）
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 3学年

【総合的な学習の時間】

単元名	お蚕さまとわたし
学習活動例	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べたり、自分たちで飼育した繭で糸取りや繭細工作りをしたりする
学びの価値	蚕糸博物館を見学し、お蚕さまや繭やシルクについて調べたり、自分たちで飼育した繭で糸取りや繭細工作りをしたりする中で感じる命の尊さと地域の歴史・文化を敬う心
学習内容	お蚕様の特色や特性 お蚕様の成長の様子 製糸業とともに歩んできた岡谷の歴史・文化
「ひと・もの・こと」活用	岡谷蚕糸博物館 蚕糸博物館学芸員 桑の木 繭

単元名	近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
学習活動例	岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる
学びの価値	岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる中で感じる地域の歴史・文化を敬う心と、ふるさと岡谷への所属感
学習内容	製糸業とともに歩んできた岡谷の歴史・文化
「ひと・もの・こと」活用	近代産業遺産群

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	よい聞き手になろう
学習活動例	岡谷市について調べてきたことを発表し合う中で、話の中心に気をつけて聞く
学びの価値	岡谷市について調べてきたことについてグループで聞き合い、質問したり感想を伝えたりして、話し手からより多くの話を引き出そうとすることから生まれる自他を認め合う心
学習内容	よい聞き手としてのあり方・質問の仕方 話の組み立て方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

単元名	すがたをかえる大豆
学習活動例	味噌工場を見学して、感じたことを思い出しながら読む
学びの価値	味噌工場を見学して、感じたことを思い出しながら読むことで感じる現実性
学習内容	中心になる言葉や文を捉えながら読むこと
「ひと・もの・こと」活用	味噌工場見学 学級園(大豆栽培) 味噌作り体験

単元名	組み立てにそって、物語を書こう
学習活動例	武井武雄の絵を見て物語を書き、友だちと読み合う
学びの価値	武井武雄の絵を見て物語を書き、友だちと読み合うことで湧き出る創造性
学習内容	「はじめ」「中」「終わり」の文章の組み立て 時・場所・人物・出来事の順序性
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄の絵

単元名	しりょうから分かったことを、すじ道を立てて話そう
学習活動例	岡谷の人口の推移や昔や今の写真資料から、読み取ったことをまとめ、発表する
学びの価値	岡谷の人口の推移や昔や今の写真資料から、読み取ったことをまとめ、発表することで新たに気づく「ひと・もの・こと」への驚き
学習内容	調べた資料をまとめ、組み立てを考えて発表すること
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の人口の推移や昔や今の写真資料など

単元名	岡谷かるた
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことにかかわるかるたをつくり、言葉遊びをする
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことにかかわるかるたをつくり、言葉遊びをすることで味わう言葉のリズム感
学習内容	かるたの仕組みと作り方 五・七・五のリズム
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

【社会】

単元名	わたしたちのまち みんなのまち（学校の周りの探検）
学習活動例	地域探検や地図作成を通して、私たちの学校の周りや地域の様子を調べる
学びの価値	地域探検や地図作成を通して、私たちの学校の周りや地域の様子を調べることで生まれる身近な地域への興味・関心
学習内容	身近な地域の建造物や公共物、地形や土地利用の様子
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」（病院、公園、公民館、商店街、神社、仏閣等）

単元名	わたしたちの暮らす岡谷市の様子（童画館通り商店街・スワンドーム・諏訪湖ハイツ等）
学習活動例	岡谷市にはどのような場所があり、それぞれどのような様子なのか調べる
学びの価値	岡谷市にはどのような場所があり、それぞれどのような様子なのか調べることで生まれる視野の広がり
学習内容	岡谷市内の建造物や公共物、地形や土地利用の様子
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」（岡谷病院、岡谷駅、岡谷市役所、横河川、天竜川、諏訪湖、塩嶺峠等）

単元名	かわってきた人々の暮らし（シルク：蚕糸博物館 漁業：四ツ手網）
学習活動例	蚕糸博物館や諏訪湖に行き、繰糸機や四ツ手網等の古い道具にふれ、道具の工夫によって人々の生活がどのように変わってきたのかを調べる
学びの価値	蚕糸博物館や諏訪湖に行き、繰糸機や四ツ手網等の古い道具にふれ、道具の工夫によって人々の生活がどのように変わってきたのかを調べる中で生まれる過去・現在・未来が繋がる時代感
学習内容	身の回りにあるものや道具の変化の様子
「ひと・もの・こと」活用	蚕糸博物館 考古美術館 繰糸機 四ツ手網 等

【算数】

単元名	コマってよく回るね 円と球
学習活動例	工業コマや様々なコマを回して、丸い形について調べる
学びの価値	工業コマや様々なコマを回して、丸い形について調べることで感じる図形性質の普遍性
学習内容	円の性質 球の性質 コンパスの使い方
「ひと・もの・こと」活用	工業コマ

単元名	岡谷の施設やイベントから見る 1億までの数
学習活動例	太鼓祭りやつつじ祭り、蚕糸博物館等への参加者数から1万を超える大きな数の表し方や仕組みについて調べる
学びの価値	太鼓祭りやつつじ祭り、蚕糸博物館等への参加者数から1万を超える大きな数の表し方や仕組みについて調べることで得られる数量感
学習内容	1万を超える大きな数の表し方や仕組み
「ひと・もの・こと」活用	太鼓祭りやつつじ祭り、蚕糸博物館等への参加者数

単元名	時間と長さ(諏訪湖周)
学習活動例	諏訪湖周を調べ、長さの計算の仕方を考える
学びの価値	諏訪湖周を調べ、長さの計算の仕方を考えることで得られる時間と長さの量感
学習内容	時刻や時間、長さ、その読み方や求め方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖

単元名	生まれた時の体重からみつめる重さ
学習活動例	いろいろなものの重さについて調べ、予想した重さと実際の重さを比べる
学びの価値	いろいろなものの重さについて調べ、予想した重さと実際の重さを比べることで得られる量感
学習内容	重さとその計り方 計りの使い方 単位の関係
「ひと・もの・こと」活用	自身や友の体重

単元名	表とグラフ（統計グラフコンクール）
学習活動例	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、表やグラフを使って分かりやすく整理する仕方を考える
学びの価値	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、表やグラフを使って分かりやすく整理する仕方を考えることで感じる利便性
学習内容	表やグラフの読み方や作り方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール 岡谷について調べていく中で出会った社会生活に関わる資料や数値

【理科】

単元名	お蚕さまを育てよう
学習活動例	お蚕さまはどのような育ち方をするのか調べる
学びの価値	お蚕さまはどのような育ち方をするのか調べることで感じる生命の不思議
学習内容	お蚕様の卵・幼虫・さなぎ・成虫へと変化していく様子
「ひと・もの・こと」活用	お蚕様

単元名	こん虫のからだを調べよう（諏訪湖の生き物：ユスリカ、トンボ）
学習活動例	お蚕さまや諏訪湖に生息するユスリカなど、昆虫の体のつくりを調べる
学びの価値	お蚕さまや諏訪湖に生息するユスリカなど、昆虫の体のつくりを調べることで感じる生命の不思議
学習内容	お蚕さまやユスリカ、トンボなどの昆虫の体のつくり
「ひと・もの・こと」活用	お蚕様 ユスリカ トンボ

単元名	風やゴムで ものをうごかそう
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つ力学工業技術にふれ、風やゴムがものを動かす働きを調べる
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つ力学工業技術に触れることで得られるものを動かす働きの手ごたえ
学習内容	風やゴムの力によるものを動かす働き
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つ力学工業技術

【音楽】

単元名	横河川に出て味わう春の小川
学習活動例	横河川に行き、春の様子を味わいながら、春の小川を歌う
学びの価値	横河川に行き、春の様子を味わいながら、春の小川を歌うことの気持ちよさ
学習内容	音の高さに気をつけた歌唱
「ひと・もの・こと」活用	横河川や学校周辺の小川

単元名	日本の音楽に親しもう（岡谷太鼓）
学習活動例	和太鼓など、日本の楽器の音に親しんだり、お囃子の旋律をつくったりする
学びの価値	楽器の音に注目しながらお囃子の旋律をつくるおもしろさ
学習内容	太鼓囃子の特徴 和太鼓の打ち方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

単元名	日本の音楽に親しもう
学習活動例	ピアノカやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミノの音で、消防ラッパの旋律をつくったり、弾いたりする
学びの価値	ピアノカやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミノの音で、消防ラッパの旋律をつくったり、弾いたりするおもしろさ
学習内容	3つの音とリズムを使った旋律の作り方 五線の書き方
「ひと・もの・こと」活用	消防ラッパ

単元名	リコーダーと仲良しになろう
学習活動例	リコーダーの演奏の仕方を覚えて、きれいな音で演奏する また、湊小の演奏から、いろいろな種類のリコーダーの音色を聞く
学びの価値	息の強さやタンギングに気をつけて音を出したり、湊小の演奏から、いろいろな種類のリコーダーの音色を聞いたりすることで味わうリコーダー奏の心地よさ
学習内容	リコーダーの演奏の仕方(構え方・穴の閉じ方・音の出し方)
「ひと・もの・こと」活用	湊小の伝統の多種にわたるリコーダーとリコーダー演奏

【図工】

単元名	大すきなものがたり
学習活動例	大すきな物語や武井武雄の作品の中に入った気持ちになって、好きな場面を想像し、絵や版に表す
学びの価値	大すきな物語や武井武雄の作品の中に入った気持ちになって、好きな場面を想像し、絵や版に表すことの創造性
学習内容	好きな場面の様子を想像し、絵や版に表すこと
「ひと・もの・こと」活用	イルフ童画館と学芸員 武井武雄

単元名	クリスタルファンタジー
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つLED技術にふれ、光を通すものを組み合わせ、光の透き通る世界を作る
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つLED技術にふれ、光を通すものを組み合わせ、光の透き通る世界を作ることで味わう幻想性
学習内容	光の透過や反射によって映し出されたものや人との組み合わせ方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つLED技術

単元名	ねんどマイタウン 岡谷
学習活動例	住んでみたい岡谷の町を楽しく想像し、粘土で作る
学びの価値	友だちと協力して、想像した岡谷の町を粘土で作る喜び
学習内容	粘土を使った立体作り 粘土と身の周りにある自然材料の組み合わせ方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の中を探検して見つけた「ひと・もの・こと」

【体育】

単元名	輝くリンクの上で（スケート）
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き(進友会)
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせて長距離を走ることで得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることで得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (蚕霊供養塔 等) (C 伝統と文化の尊重)
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたこと背景 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (御柱、太鼓祭り 等) (C 伝統と文化の尊重)
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【特別活動】

単元名	【学校行事】 遠足:岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター(ecoポッポ)等

単元名	【学校行事】 運動会:種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスのみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 4学年

【総合的な学習の時間】

単元名	それいけ カニロボちゃん（ものづくり・ロボット学習）
学習活動例	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする
学びの価値	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりすることを通して、岡谷の工業やものづくりの技術に触れることで感じるふるさと岡谷への所属感
学習内容	体験活動を通じた部品加工の仕方 身近な材料を使った手作りロボットの仕組み パソコン上でプログラミングされた多脚ロボットの操作方法
「ひと・もの・こと」活用	テクノプラザ岡谷 市内企業(アトラス) 市工業振興課 部品加工技術

単元名	大きくなってね かわいい赤ちゃん（乳幼児との交流）
学習活動例	相手意識や目的意識に立ち、各地区の乳幼児サークルとの交流を企画する中で、他を思いやることの大切さを考える
学びの価値	相手意識や目的意識に立ち、各地区の乳幼児サークルとの交流を企画する中で生まれる他を思いやることの大切さと必要感
学習内容	交流活動の企画・準備・運営の手順
「ひと・もの・こと」活用	各地区の乳幼児サークル 厚生保護女性会

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	【話すこと・聞くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をすることで得られる達成感
学習内容	聞き手に分かりやすい話し方 話し手に目と耳と心に向けた聞き方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	【読むこと】
学習活動例	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む
学びの価値	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読むことで感じる地域のつながり
学習内容	地域の素材や教材と関連した資料や物語を読むこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の素材や教材と関連した資料や物語

単元名	【書くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表すことで振り返る自己の学び
学習内容	各教科・領域の中で触れてきた岡谷ならではの学びを、新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写などで表すこと
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	新聞を作ろう
学習活動例	社会科や総合の時間に調べた岡谷の人・もの・ことの中から、知らせたいことを選んで新聞記事を書く
学びの価値	社会科や総合の時間に調べた岡谷の人・もの・ことの中から、知らせたいことを選び、割付を考え、新聞記事を作り上げることの喜び
学習内容	新聞の特徴と作り方 取材の仕方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	だれもがかかわり合えるように
学習活動例	町の中にあるバリアフリーやユニバーサルデザインについて調べ、分かりやすく発表する
学びの価値	岡谷市の公共環境を見つめていく中で、誰もがよりよく関わり合うということについて考えることから生じる他者意識
学習内容	市内公共施設内外におけるバリアフリーやユニバーサルデザイン化の様子 筋道を立てて話したり、話の中心に気をつけて聞くこと
「ひと・もの・こと」活用	公共施設(建物や公園など)

単元名	「岡谷紹介リーフレット」をつくろう
学習活動例	説明の仕方を工夫して、岡谷市の魅力を分かりやすく紹介するリーフレットを作る
学びの価値	説明の仕方を工夫して、岡谷市の魅力を分かりやすく紹介できたことで得られる達成感
学習内容	写真と文章を対応させながら書くこと
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	ウナギのなぞを追って
学習活動例	うなぎの生態やうなぎの町岡谷の食文化を調べ、興味を持ったことと繋げて『ウナギのなぞを追って』の説明文を読む
学びの価値	うなぎの生態やうなぎの町岡谷の食文化を調べたことと、『ウナギのなぞを追って』の説明文とを繋げて読むことで抱く興味関心
学習内容	事実と考察の内容をおさえて読むこと 自分の興味を持ったところを中心に、文章を要約して読むこと
「ひと・もの・こと」活用	うなぎの町岡谷 岡谷各地の川魚店

【社会】

単元名	くらしを守る（消防中央司令室、消防団）
学習活動例	広域化した中央司令室の様子から、消防署や消防団などの関係諸機関が連携し、災害や事故を未然に防ごうとしている人々の努力や仕組みを調べる
学びの価値	広域化した中央司令室の様子から、消防署や消防団などの関係諸機関が連携し、災害や事故を未然に防ごうとしている人々の努力や仕組みを調べることで考える地域の安全性
学習内容	災害や事故、事件の未然の防止と発生時の対応の仕方・関係諸機関の連携の仕方
「ひと・もの・こと」活用	消防団 消防署

単元名	水はどこから（岡谷市出前授業、遠足で浄水場・水源の森へ）(塩尻峠：分水嶺)
学習活動例	水源や浄水場の様子から、私たちの生活に欠かせない水が、どのようにつくられ、送られてくる様子を調べる
学びの価値	水源や浄水場の様子から、私たちの生活に欠かせない水が、どのようにつくられ、送られてくるのかを調べることで考えるくらしの安全性と利便性
学習内容	水の使われ方と循環・浄化
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市出前授業 浄水場 水源の森(横河山) 塩尻峠：分水嶺

単元名	ごみのしまつと利用（広域の清掃工場：諏訪湖周クリーンセンター）
学習活動例	広域化した清掃工場の様子から、ごみの行方や処理されていく工夫を調べる
学びの価値	広域化した清掃工場の様子から、ごみの行方や処理されていく工夫を調べることで考える市町村連携の重要性
学習内容	ごみ処理の様子や工夫 ごみ処理の課題や市町村連携
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖周クリーンセンター

単元名	郷土の発展につくす（武井五兵衛、永田徳本、片倉兼太郎、武居代次郎）
学習活動例	郷土の発展に尽くした武井五兵衛は、地域の人々の願い対して、どのようなことをしたのかを調べる
学びの価値	地域に今も残る歴史や地域の発展に尽くした人々の働きを調べることで考える郷土愛
学習内容	水の少ない地域に水を引いた人とその努力
「ひと・もの・こと」活用	武井五兵衛(五兵衛せぎ) 永田徳本(医学) 片倉兼太郎(製糸業) 武居代次郎(諏訪式操糸機) など

【算数】

単元名	木落とし坂の角度は何度（角とその大きさ）
学習活動例	いろいろな角の大きさについて調べたり、測ったりする
学びの価値	いろいろな角の大きさについて調べたり、測ったりすることで養う角度感覚
学習内容	角の大きさ 角の測り方と書き方
「ひと・もの・こと」活用	木落とし坂の角度

単元名	高速道路の橋げたや線路の橋脚からみる垂直・平行と四角形（垂直・平行と四角形）
学習活動例	高速道路の橋げたや線路の橋脚を見て、直角の交わり方を調べる
学びの価値	身の回りの様々なものの中から垂直や平行を探して、その性質を調べることで味わう生活とのつながり
学習内容	垂直や平行の性質 垂直や平行な直線の書き方 いろいろな四角形の性質 いろいろな四角形の書き方
「ひと・もの・こと」活用	高速道路の橋げた 線路の橋脚 市役所庁舎など

単元名	岡谷市の予算の内訳から見る1億をこえる数（一億をこえる数）
学習活動例	岡谷市の予算の内訳から、1億を超える数の読み方や書き方を調べていく。
学びの価値	岡谷市の予算の内訳から、1億を超える数の読み方や書き方を調べていくことで養う数量感
学習内容	1億を超える数の仕組み
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の予算の内訳

単元名	しきつめて測ろう 岡谷市の面積(面積)
学習活動例	岡谷市の縮図上に1平方センチメートル方眼を敷き詰め、岡谷市の面積を求め、実際の面積と比較する
学びの価値	岡谷市の縮図上に1平方センチメートル方眼を敷き詰め、岡谷市の面積を求め、実際の面積と比較していく作業により量感覚を掴むことのおもしろさ
学習内容	大きな面積の表し方と求め方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の面積 岡谷市の土地利用

単元名	折れ線グラフ（統計グラフコンクール）
学習活動例	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、変わり方のよく分かる折れ線グラフに表していく
学びの価値	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、変わり方のよく分かる折れ線グラフに表していくことで感じる利便性
学習内容	折れ線グラフの読み方と書き方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール 岡谷について調べていく中で出会った社会生活に関わる資料や数値

【理科】

単元名	ものの温まり方（味噌をつかって）
学習活動例	ビーカーの中に味噌を入れ、水は温まるときに、どんな動きをするのかを調べる
学びの価値	水や空気は熱せられた部分が上方に移動して全体が温まっていくことを味噌を使って確かめる視覚性
学習内容	金属や水、空気の温まり方
「ひと・もの・こと」活用	味噌

単元名	水のすがたと温度（御神渡り）
学習活動例	諏訪湖の御神渡り様子から、水のすがたは、温度によって、どのように変わるのかを調べる
学びの価値	諏訪湖の御神渡り様子から、水のすがたは、温度によって、どのように変わるのかを調べることで味わう神秘性
学習内容	水の状態変化(固体・液体・気体)
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖の御神渡り

単元名	とじこめた空気と水の性質
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つピストン(空気圧)加工技術にふれ、とじこめた勇気や水の体積変化を調べる
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つピストン(空気圧)加工技術にふれ、とじこめた勇気や水の体積変化を調べることで感じる優れた地域の技術力
学習内容	とじこめた空気と水の性質
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つピストン(空気圧)加工技術

単元名	乾電池や光電池のはたらき（京セラ）
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つソーラー技術にふれ、光電池に当てる光の強さを変えて光電池の性質を調べる
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つソーラー技術にふれ、光電池に当てる光の強さを変えて光電池の性質を調べることで感じる優れた地域の技術力
学習内容	乾電池や光電池の性質
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つソーラー技術

単元名	磁石の性質
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つ磁石加工技術にふれ、極の仕組みや鉄を引きつけるなどの磁石の性質を調べる
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つ磁石加工技術にふれ、極の仕組みや鉄を引きつけるなどの磁石の性質を調べることで感じる優れた地域の技術力
学習内容	磁石の性質
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つ磁石加工技術

【音楽】

単元名	旋律の特徴を感じ取ろう（とんび 諏訪湖に行つて）
学習活動例	諏訪湖に行き、とんびが羽ばたく様子を見ながら、旋律の音の上がり下がりや強さを工夫しながら、『とんび』の歌を歌う
学びの価値	空に大きな輪を描きゆつたりと飛ぶとんびを見ながら歌う心地よさ
学習内容	旋律の音の動きを感じ取つて、強さを工夫しながら歌うこと
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖 とんび

単元名	いろいろな音のひびきを感じ取ろう（打楽器の音楽：岡谷太鼓）
学習活動例	太鼓や他の打楽器などを使い、音の響きを確かめながら、鳴らし方を工夫して演奏する
学びの価値	太鼓や他の打楽器などを使い、音の響きを確かめながら、鳴らし方を工夫して演奏するおもしろさ
学習内容	音色や音の組み合わせの違い 和太鼓の打ち方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

単元名	日本の音楽に親しもう
学習活動例	ピアノやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミノの音で、消防ラッパの旋律をつくつたり、弾いたりする
学びの価値	ピアノやリコーダーなどの楽器を用いて、ドミノの音で、消防ラッパの旋律をつくつたり、弾いたりするおもしろさ
学習内容	3つの音とリズムを使った旋律の作り方 五線の書き方
「ひと・もの・こと」活用	消防ラッパ

【図工】

単元名	武井武雄ワールド
学習活動例	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す
学びの価値	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す創造性
学習内容	武井武雄の世界を絵や版に表すこと
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄作品 イルフ童画館

単元名	夢のまち 岡谷へようこそ
学習活動例	段ボールや紙などをいろいろな方法で組み合わせ、みんなで協力して、未来の岡谷のまちを作る
学びの価値	段ボールや紙などをいろいろな方法で組み合わせ、未来の岡谷のまちをみんなで力を合わせて作る協働意識
学習内容	段ボールを組み合わせた立体造形
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の町の建物

単元名	岡谷に咲く花
学習活動例	市の花つつじや学校ならではの植物を描く
学びの価値	市の花つつじや学校ならではの植物を描くことで培う地域への思い
学習内容	花や緑の描写
「ひと・もの・こと」活用	市の花つつじ 学校ならではの植物 鶴峰公園

【体育】

単元名	輝くリンクの上で（スケート）
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き（進友会）
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせることの楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせて長距離を走ることで得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることで得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳 (蚕霊供養塔 等) (C 伝統と文化の尊重)
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたことの意味 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳 (御柱、太鼓祭り 等) (C 伝統と文化の尊重)
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【特別活動】

単元名	【学校行事】遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう (諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等)
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター(ecoポッポ)等

単元名	【学校行事】運動会：種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

単元名	【クラブ活動】名人・達人に学ぶ
学習活動例	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫する
学びの価値	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫することで感じる地域とのつながり
学習内容	クラブごとの学習内容
「ひと・もの・こと」活用	地域講師

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 5学年

【総合的な学習の時間】

単元名	それいけ カニロボちゃん (ものづくり・ロボット学習)
学習活動例	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする
学びの価値	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりすることを通して、岡谷の工業やものづくりの技術に触れることで感じるふるさと岡谷への所属感
学習内容	多脚ロボットの複雑な動きの仕組み パソコンでの遠隔操作によるロボット操作の組み合わせ
「ひと・もの・こと」活用	テクノプラザ岡谷 市内企業(アトラス) 市工業振興課 部品加工技術

単元名	わたしたちは大豆マン さあ味噌作り
学習活動例	工場の数がとても多く、高い品質が認められている岡谷市の味噌作りを調べたり、味噌を作ったりする
学びの価値	工場の数がとても多く、高い品質が認められている岡谷市の味噌作りを調べたり、味噌を作ったりすることで気づく食品加工の良質性
学習内容	味噌の作り方 様々な形に姿を変える大豆の特性 味噌作りの歴史
「ひと・もの・こと」活用	味噌工場

単元名	みんなこいこい 創作ダンス
学習活動例	学級の雰囲気が表れるようなダンスを創作し、クラスみんなで心を合わせて表現する
学びの価値	学級の雰囲気が表れるようなダンスを創作し、クラスみんなで心を合わせて表現することで生まれる団結心と達成感
学習内容	振り付けの仕方や踊り方 隊列の組み方
「ひと・もの・こと」活用	みなこいわっさか 太鼓祭り ごったみなこい

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	【話すこと・聞くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をすることで得られる達成感
学習内容	聞き手に分かりやすい話し方 話し手に目と耳と心を向けた聞き方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	【読むこと】
学習活動例	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む
学びの価値	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読むことで感じる地域のつながり
学習内容	地域の素材や教材と関連した資料や物語を読むこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の素材や教材と関連した資料や物語

単元名	【書くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表すことで振り返る自己の学び
学習内容	各教科・領域の中で触れてきた岡谷ならではの学びを、新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写などで表すこと
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	明日をつくるわたしたち
学習活動例	身の回りにある問題を探し、自分の考えをまとめ、提案書を書く
学びの価値	自分たちの暮らしの中でよりよくしたいことを考えていく中で感じる自身と地域とのつながり
学習内容	計画的な話し合い方 提案書の書き方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	グラフや表を用いて書こう (統計グラフコンクールに向けて)
学習活動例	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを表にし、自分の考えをまとめる
学びの価値	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを表にし、自分の考えをまとめることで養う思考力と判断力
学習内容	説得力のある文章の書き方 理由づけを明確にした説明の仕方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	百年後のふるさとを守る
学習活動例	人物の生き方や考え方を、岡谷で起きた災害と関わらせながら考える
学びの価値	大地震からの復興に携わった人物についての伝記を、岡谷で起きた災害と重ねながら読むことで生まれる人の生き方や考え方への共感
学習内容	伝記の特徴 伝記に表れる人物の生き方や考え方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷で起きた災害

単元名	1枚の写真から
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことを写した写真を出発点として、自分だけの物語を書く
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことを写した写真を出発点として、自分だけの物語を書くことで感じる岡谷の情景のよさとそこで暮らす自身の歩みとの重ね合わせ
学習内容	短編集の作り方 書き出しの工夫の仕方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

【社会】

単元名	私たちの国土（岡谷のカーネーションづくり）
学習活動例	カーネーションづくりの様子から、寒暖差の大きい気候が、どのように栽培に生かされているか調べる
学びの価値	カーネーションづくりの様子から、寒暖差の大きい気候が、どのように栽培に生かされているか調べることで考える岡谷の地理的条件
学習内容	岡谷の地形的特徴を生かした花卉栽培の様子
「ひと・もの・こと」活用	グリーンバレーファーム（鮎沢農園）：上の原 樋沢のカーネーション農家

単元名	私たちの生活と食料生産（水産業：わかさぎ・うなぎ）
学習活動例	諏訪湖や天竜川の漁業を通して、水産業の盛んな地域では、どのようにして私たちの生活を支えているのかを考える
学びの価値	諏訪湖や天竜川の漁業を通して考える地域に根ざした食料生産
学習内容	暮らしを支える食料生産 地場水産業の様子
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖や天竜川の漁業 わかさぎ うなぎ・川魚加工業

単元名	私たちの生活と工業生産 （工業：中部テクノ・岡谷精密工業・みくに工業・池戸製作所・京セラ・沖電線 等）
学習活動例	岡谷の企業や工場で働く人々のものづくりへの工夫や努力にふれる中で、私たちの生活を豊かにする日本の工業生産について調べる
学びの価値	岡谷の企業や工場で働く人々のものづくりへの工夫や努力にふれることで感じる岡谷の持つ工業技術の良質性
学習内容	暮らしを支える工業生産 岡谷の工業の様子
「ひと・もの・こと」活用	中部テクノ・岡谷精密工業・みくに工業・池戸製作所・京セラ・沖電線 等

単元名	情報化した社会とわたしたちの生活 (LCV, 市民新聞、長野日報、信毎、広報)
学習活動例	地元の報道機関を取り上げ、私たちの生活の中で、情報が果たす役割を調べる
学びの価値	地元の報道機関を取り上げ、私たちを取り巻く情報について調べる中で考える情報が果たす役割の重要性
学習内容	情報産業と国民生活との関わり
「ひと・もの・こと」活用	LCV, 市民新聞、長野日報、信毎、広報 等

単元名	自然災害を防ぐ (岡谷市豪雨災害)
学習活動例	岡谷の豪雨災害を取り上げ、自然災害から私たちの生活を守るために、どんな取り組みがされているか調べる
学びの価値	岡谷の豪雨災害を取り上げ、自然災害から私たちの生活を守るために、どんな取り組みがされているか調べることで高まる防災意識
学習内容	災害防止や対外対策の取り組み 岡谷市豪雨災害の様子
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市豪雨災害 消防団

【算数】

単元名	岡谷市民の中に見る平均
学習活動例	岡谷市の様々な統計から、ならした数の大きさを比べる
学びの価値	岡谷市の様々な統計から、ならした数の大きさを比べることで感じる今後の傾向の見通しをもつことのよさ
学習内容	平均の定義と平均の利用の仕方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の様々な統計資料

単元名	市の予算を市民一人あたりで計算すると
学習活動例	市の予算配分から、単位数あたりの経費を比べる
学びの価値	市の予算配分から、単位数あたりの経費を比べることのおもしろさ
学習内容	単位数あたりの大きさ
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の予算

単元名	工業ゴマから考える円と正多角形
学習活動例	コマの回り方から正多角形と円の関係性を調べる
学びの価値	コマの回り方から正多角形と円の関係性を調べることで感じる円がもつ特性の不思議さ
学習内容	円と正多角形のもつ性質とそのかき方
「ひと・もの・こと」活用	

単元名	割合のグラフ（統計グラフコンクール）
学習活動例	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、円グラフや帯グラフなど割合のグラフで表す
学びの価値	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、円グラフや帯グラフなど割合のグラフで表すことで感じる視認性
学習内容	帯グラフと円グラフの読み方とかき方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

【理科】

単元名	生命の誕生（岡谷生まれのめだかをいかして：塩嶺病院横の池）
学習活動例	池や小川の中にいるメダカ等の小さな生き物が育つ様子から、生命の誕生や育ち方を調べる
学びの価値	池や小川の中にいるメダカ等の小さな生き物が育つ様子から、生命の誕生や育ち方を調べることで感じる生命の神秘性
学習内容	動物の発生や成長
「ひと・もの・こと」活用	地域に生息するめだか（塩嶺病院横の池）

単元名	流れる水のはたらき（横河川の石の大きさや形を比べよう）
学習活動例	横河川の上流と下流における石の大きさや形を比較し、流れる水が地面に及ぼす働きを調べる
学びの価値	横河川の上流と下流における石の大きさや形を比較し、流れる水が地面に及ぼす働きを調べることで感じる自然のもつ力の大きさと不思議さ
学習内容	流れる水によって及ぼされる地面の変化の様子
「ひと・もの・こと」活用	横河川

単元名	流れる水のはたらき 2（岡谷の豪雨災害）
学習活動例	岡谷の豪雨災害を取り上げ、台風や長雨により川の水が増え続けると、土地の様子がどのように変わるのかを調べる
学びの価値	岡谷の豪雨災害を取り上げ、台風や長雨により川の水が増え続けると、土地の様子がどのように変わるのかを調べることで感じる水の働きによる侵食・堆積作用の危険性
学習内容	台風や長雨による土地の変化の様子 災害を防ぐための工夫
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の豪雨災害

【音楽】

単元名	日本と世界の音楽を楽しもう（岡谷太鼓）
学習活動例	和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴を感じ取ったり、それを生かして表現を工夫したりする
学びの価値	和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴を感じ取ったり、それを生かして表現を工夫したりすることのおもしろさ
学習内容	音階の音を使った旋律作りと演奏
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

単元名	詩と音楽を味わおう（琵琶湖周航の歌・小口太郎、木遣り）
学習活動例	小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りから、言葉の感じと旋律が一体となって生み出す日本の歌を聞く
学びの価値	小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りから、言葉の感じと旋律が一体となって生み出す日本の歌の美しさの味わい
学習内容	歌詞の内容を生かした表現の工夫の仕方
「ひと・もの・こと」活用	琵琶湖周航の歌：小口太郎、木遣り

【図工】

単元名	武井武雄ワールド
学習活動例	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す
学びの価値	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す創造性
学習内容	武井武雄の世界を絵や版に表すこと
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄作品 イルフ童画館

単元名	アートレポーターになって（美術館とつながろう）
学習活動例	イルフ童画館、美術考古館に行き、学芸員さんと一緒に作品を見たり、自分たちで館内探検をしたりする
学びの価値	イルフ童画館、美術考古館に行き、学芸員さんと一緒に作品を見たり、自分たちで館内探検をしたりして感じるいろいろな作品に出会うことによる
学習内容	美術館の取り組み 友やいろいろな作品の鑑賞の仕方
「ひと・もの・こと」活用	イルフ童画館、美術考古館

単元名	アートカードを送ろう
学習活動例	岡谷ならではの学習で出会った人や離れた場所で暮らす友だちに向け、自分の気持ちや生活の様子が伝わるようなアートカードを作る
学びの価値	離れた場所で暮らす友だちに向け、自分の気持ちや生活の様子が伝わるようなアートカードを作ることで感じる人とのつながり
学習内容	カード作品の作り方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷ならではの学習で出会った人や離れた場所で暮らす友だち

【家庭科】

単元名	一針に心を込めて（手縫いのよさを生かそう）
学習活動例	シルク糸を使って生活を楽しむような小物を作る
学びの価値	シルク糸を使って生活を楽しむような小物を作ることで感じる生活の潤い
学習内容	生活の中で使われている布製品の特徴 手縫いの仕方 ミシン縫いの仕方
「ひと・もの・こと」活用	生糸

単元名	食べて元気 ご飯と味噌汁（岡谷の味噌をつかって 松亀味噌他）
学習活動例	手作りの味噌で味噌汁を作り、日本の伝統食を味わう
学びの価値	手作りの味噌で味噌汁を作り、日本の伝統食を味わうことで感じる風土に合った食生活のよさ
学習内容	食生活の大切さ ご飯や味噌汁の作り方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の味噌 味噌工場

【体育】

単元名	輝くリンクの上で（スケート）
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き（進友会）
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせる楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせて長距離を走ることで得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることで得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

単元名	学校や地域での怪我の防止
学習活動例	凍った道や雪道で起こる怪我の防止の仕方を考える
学びの価値	冬期間気温の下がる岡谷において、他の季節とは違い、凍った道や雪道で起こる怪我の防止の仕方を考えることで向き合うこの地に住むわたし
学習内容	事故や怪我の原因やその防止
「ひと・もの・こと」活用	冬期間の自然環境(道路の凍結、積雪、氷柱、雪庇 など)

単元名	自然災害による怪我の防止
学習活動例	岡谷の災害から、自然災害にはどんな危険が潜んでいるのかや、その危険を減らす方法を考える
学びの価値	岡谷の災害から、自然災害にはどんな危険が潜んでいるのかや、その危険を減らす方法を考えることで向き合う自他の命
学習内容	自然災害の種類・自然災害への備え 災害発生時の怪我の手当て
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の自然災害

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひととなりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳（蚕霊供養塔 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたこと背景 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳（御柱、太鼓祭り 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【特別活動】

単元名	【学校行事】 遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう（諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等）
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター（ecoポッポ）等

単元名	【学校行事】 運動会：種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスのみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

単元名	【クラブ活動】名人・達人に学ぶ
学習活動例	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫する
学びの価値	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫することで感じる地域とのつながり
学習内容	クラブごとの学習内容
「ひと・もの・こと」活用	地域講師

平成28年度 岡谷スタンダードカリキュラム 単元例 6学年

【総合的な学習の時間】

単元名	それいけ カニロボちゃん (ものづくり・ロボット学習)
学習活動例	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりする
学びの価値	テクノプラザ岡谷で、ものづくりの体験活動をしたり、多脚ロボット(カニロボちゃん)を遠隔操作するプログラミングをしたりすることを通して、岡谷の工業やものづくりの技術に触れることで感じるふるさと岡谷への所属感
学習内容	多脚ロボットの複雑な動きの仕組み パソコンでの遠隔操作によるロボット操作の組み合わせ
「ひと・もの・こと」活用	テクノプラザ岡谷 市内企業(アトラス) 市工業振興課 部品加工技術

単元名	御柱から見つめる悠久の歴史
学習活動例	御柱に参加する家族や自分自身、地域の人たちの思いや、御柱を通してつながる地域の一体感に触れ、ふるさと岡谷の歴史や文化を見つめる
学びの価値	御柱に参加する家族や自分自身、地域の人たちの思いや、御柱を通してつながる地域の一体感に触れ、ふるさと岡谷の歴史や文化を見つめることで培う郷土愛
学習内容	御柱の歴史 御柱に携わる人々の思い 御柱を通じた諏訪地方の文化
「ひと・もの・こと」活用	御柱 御柱に携わる人々

単元名	近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
学習活動例	岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる
学びの価値	岡谷で製糸業が盛んだった頃の近代産業遺産をめぐり、昔の人が残した大切なものや未来に残していきたいものを調べる中で感じる地域の歴史・文化を敬う心と、ふるさと岡谷への所属感
学習内容	製糸業とともに歩んできた岡谷の歴史・文化
「ひと・もの・こと」活用	近代産業遺産群

単元名	まとめて分かった岡谷の魅力(統計グラフコンクール)
学習活動例	国語や社会、算数、理科など各教科において取り組んできた岡谷の学習で調べたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る
学びの価値	岡谷について調べてきたことを表やグラフにまとめ、岡谷の魅力を探る中で味わう達成感
学習内容	各教科、領域における岡谷ならではの学びに関わる内容 グラフや表の表し方
「ひと・もの・こと」活用	統計グラフコンクール

【国語】

単元名	【話すこと・聞くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をする
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことをもとに、発表や討論(ディベート)をすることで得られる達成感
学習内容	聞き手に分かりやすい話し方 話し手に目と耳と心に向けた聞き方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	【読むこと】
学習活動例	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読む
学びの価値	地域の素材や教材に触れる中で、岡谷のひと・もの・ことにかかわる資料や物語を読むことで感じる地域のつながり
学習内容	地域の素材や教材と関連した資料や物語を読むこと
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の素材や教材と関連した資料や物語

単元名	【書くこと】
学習活動例	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表す
学びの価値	岡谷のひと・もの・ことに触れ、分かったことや感じたこと、考えたことを新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写に表すことで振り返る自己の学び
学習内容	各教科・領域の中で触れてきた岡谷ならではの学びを、新聞、詩、短歌、俳句、作文、パンフレット、リーフレット、書写などで表すこと
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	学級討論会をしよう
学習活動例	岡谷における社会的事象について、一つの問題を肯定・否定から考え、討論会をする
学びの価値	岡谷における社会的事象について、互いの立場や意図をはっきりさせながら、疑問点を整理して自分の意見をいったり、質問したりして討論することで養う思考し判断する力
学習内容	討論会(ディベート)における主張の伝え合い方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	ようこそ私たちの町へ ～岡谷のよさを伝えよう～
学習活動例	岡谷の町のよさを伝えるパンフレットをつくる
学びの価値	効果的な構成や材料の配置、記述を考えて、編集し、岡谷の「ひと・もの・こと」のよさを多くの人にパンフレットにして伝えることで感じる所属感
学習内容	パンフレットの作成の仕方 記事の推敲
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

単元名	未来がよりよくあるために
学習活動例	岡谷をどんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを、現在の社会や自然環境、身の周りのことに目を向けて考える
学びの価値	岡谷をどんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを、現在の社会や自然環境、身の周りのことに目を向けて考えるこの町の将来とわたし
学習内容	意見文の組み立て方
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

【社会】

単元名	縄文のむらから古墳のくにへ (梨久保遺跡・縄文時代中期・集落跡・コウモリ塚古墳・スクモ塚古墳 など)
学習活動例	岡谷に点在する遺跡・古墳群を調べ、縄文のむらのくらしの様子について話し合う
学びの価値	岡谷に点在する遺跡・古墳群や近隣の茅野、和田からの出土品、黒曜石を調べ、縄文人のくらしの様子について話し合うことで気づく当時の首都的要素
学習内容	縄文・弥生のむらの暮らしの様子 稲作伝来 古墳と出土品
「ひと・もの・こと」活用	岡谷に点在する遺跡・古墳群(梨久保遺跡・コウモリ塚古墳・スクモ塚古墳 など)

単元名	武士の世の中へ (鎌倉街道)
学習活動例	岡谷を通る鎌倉街道をたどり、武士のくらしや武士の世の中の様子を調べる
学びの価値	岡谷を通る鎌倉街道をたどり、武士のくらしや武士の世の中の様子を調べる中で気づく武士の主従関係
学習内容	武士のくらしと世の中 鎌倉幕府 元寇
「ひと・もの・こと」活用	鎌倉街道

単元名	3人の武将と天下統一 (永田徳本:戦国～江戸初め)
学習活動例	戦国から江戸初期にかけて世の中が天下統一へと進んでいく中で、医聖として人々ために生きた永田徳本について調べる
学びの価値	永田徳本が生きた118年間に登場した3人の武将により果たされた天下統一の様子から気づく時代の激動
学習内容	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康による天下統一
「ひと・もの・こと」活用	永田徳本

単元名	世界に歩みだした日本 (製糸王国岡谷と片倉兼太郎)
学習活動例	製糸王国岡谷と製糸王片倉兼太郎を取り上げ、日本の立場が世界の中でどのように変わっていったのか調べる
学びの価値	日露戦争時、第1輸出品であった生糸の全生産量中6割を占めた岡谷の生糸により外資を獲得し、国力向上へとつなげていった当時の日本の様子を調べることにより気づく岡谷がこの国の歴史に果たした役割
学習内容	条約改正と日清・日露戦争 岡谷の製糸業
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の製糸業 片倉兼太郎 諏訪式繰糸機 武居代次郎 など

単元名	新しい日本・平和な日本へ（製糸業から工業へ）
学習活動例	製糸業から工業へ変容を遂げる岡谷の様子から、戦後日本がどのように変わっていったのか調べる
学びの価値	製糸業から工業へ変容を遂げる岡谷の様子から、戦後日本がどのように変わっていったのか調べることで感じる復興の目覚しさ
学習内容	戦後復興の様子 高度経済成長と東京オリンピック
「ひと・もの・こと」活用	製糸業から工業へ変容を遂げる岡谷の様子

単元名	災害復興の願いを実現する政治（豪雨災害復興）
学習活動例	岡谷の豪雨災害の様子から、災害にあった人々の願いは政治の働きによってどのように実現していくか調べる
学びの価値	岡谷の豪雨災害の様子から、災害にあった人々の願いは政治の働きによってどのように実現していくか調べることで考える関係諸機関の連携の必要性
学習内容	災害への緊急対応と復旧・復興、支援
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の豪雨災害 消防団

単元名	世界の中の日本（姉妹都市・マウントプレザント市）
学習活動例	姉妹都市のマウントプレザント市との交流から、どのようにして世界の人々と共に生き、平和な社会を築いていけばよいのかを考える
学びの価値	姉妹都市のマウントプレザント市との交流から、どのようにして世界の人々と共に生き、平和な社会を築いていけばよいのかを考えることで培う共存心
学習内容	日本とつながりの深い国々の様子 世界の未来と日本の役割
「ひと・もの・こと」活用	姉妹都市のマウントプレザント市

【算数】

単元名	市章や校章から見つける線対称と点対称
学習活動例	2つに折ってぴったり重なる形や回してぴったり重なる形について調べる
学びの価値	市章や校章など身の回りにあるものから、線対称と点対称を見つけ、調べることで気づく整った形の美しさ
学習内容	対称な図形の性質 線対称と点対称
「ひと・もの・こと」活用	市章や校章

単元名	歩いて確かめる図形の拡大・縮小
学習活動例	歩測して求めた距離を、岡谷の地図を使って確かめる
学びの価値	歩測して求めた距離を、岡谷の地図を使って確かめることで気づく利便性と納得感
学習内容	図形の拡大と縮小の仕組み 拡大図と縮図のかき方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の地図

単元名	線路や高速道路を走る乗り物の速さ
学習活動例	線路や高速道路の橋脚上を走る乗り物の通過時間と距離の関係から速さの仕組みを調べる
学びの価値	線路や高速道路の橋脚上を走る乗り物の通過時間と距離の関係から速さの仕組みを調べることのおもしろさ
学習内容	速さ、道のり、時間の求め方
「ひと・もの・こと」活用	線路や高速道路の橋脚上を走る乗り物

単元名	岡谷や地域のひと・もの・ことの中にある量の単位
学習活動例	岡谷や地域のひと・もの・ことの中にある量の単位を通して、メートル法の単位の仕組みについて調べていく
学びの価値	岡谷や地域のひと・もの・ことの中にある量の単位を通して、メートル法の単位の仕組みについて調べていくことで得られる量感
学習内容	長さや重さの単位の仕組み
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」の中にある量の単位

単元名	くふうされたグラフ（統計グラフコンクール）
学習活動例	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、種別や分布別などの工夫されたグラフに表す
学びの価値	岡谷の学習で調べたことや社会生活に関わる資料から読み取ったことを、種別や分布別などの工夫されたグラフに表すことで感じる利便性と視認性
学習内容	分布別や色別で分けられた様々なグラフの特徴とその工夫
「ひと・もの・こと」活用	各教科・領域の中で調べたり考えたりしてきた岡谷ならではの「ひと・もの・こと」

【理科】

単元名	大地のつくりと変化（駒沢区の地層）
学習活動例	駒沢区の地層を取り上げ、大地のつくりや成り立ちを調べる
学びの価値	駒沢区の露頭に行き、実際の地層を目の当たりにすることで感じる土地のつくりや変化への驚き
学習内容	地層のつくり・でき方・種類 噴火による土地の変化
「ひと・もの・こと」活用	駒沢区の露頭（地層）

単元名	御柱の曳行からみつめるてこの働き
学習活動例	御柱のてこ衆とてこ棒の動きから、1点を支えにして、1点に力を働かせる様子を調べる
学びの価値	御柱のてこ衆とてこ棒の動きから、1点を支えにして、1点に力を働かせる様子を調べることのおもしろさ
学習内容	てこの仕組み
「ひと・もの・こと」活用	御柱のてこ棒とてこ衆

単元名	人と環境(諏訪湖)
学習活動例	諏訪湖の姿から、人の生活と水との関係や水をきれいにする取り組みを調べる
学びの価値	諏訪湖の姿から、人の生活と水との関係や水をきれいにする取り組みを調べることで感じる自然環境と日常生活とのかかわり
学習内容	水や空気を汚さないようにする取り組み
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖

【音楽】

単元名	日本と世界の音楽を楽しもう(楽器による世界の国々の音楽・岡谷太鼓)
学習活動例	和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴や楽器の音色を感じ取って、そのよさを味わいながら、聞いたり歌ったりする
学びの価値	和太鼓の音色など、日本や世界の国々の音楽の特徴や楽器の音色を感じ取って、そのよさを味わいながら、聞いたり歌ったりすることのおもしろさ
学習内容	日本に昔から伝わっている楽器の音色を聞いたり、その楽器を演奏したりすること
「ひと・もの・こと」活用	岡谷太鼓

単元名	詩と音楽を味わおう(琵琶湖周航の歌・小口太郎、木遣り)
学習活動例	小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りを、歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら聞く
学びの価値	小口太郎が作曲した琵琶湖周航の歌や御柱の木遣りから味わう歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想の美しさ
学習内容	歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想
「ひと・もの・こと」活用	琵琶湖周航の歌:小口太郎、木遣り

【図工】

単元名	武井武雄ワールド
学習活動例	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す
学びの価値	武井武雄作品から発想を膨らませ、絵や版画に表す創造性
学習内容	武井武雄の世界を絵や版に表すこと
「ひと・もの・こと」活用	武井武雄作品 イルフ童画館

単元名	私たちの大切な風景(横河川の桜・イルフ童画館通りなど)
学習活動例	岡谷に広がる日常の風景、草花や空、身近なものをじっと見つめ、風や光、音を感じながら、自分だけの大切な風景を絵に表す
学びの価値	岡谷に広がる日常の風景、草花や空、身近なものをじっと見つめ、風や光、音を感じながら、自分だけの大切な風景を絵に表すことで感じる哀愁
学習内容	身の回りに広がる日常風景の描画の仕方
「ひと・もの・こと」活用	横河川の桜・イルフ童画館通りなど

単元名	身近な木をむだなく使って
学習活動例	1枚の材木を無駄なく使う切り方を考え、生活を豊かにするものを作る
学びの価値	1枚の材木を無駄なく使う切り方を考え、生活を豊かにするものを作ることで得られる暮らしの潤い
学習内容	身近な木を利用した木工
「ひと・もの・こと」活用	身近にある木材(岡谷小の里山木材など)

単元名	光の形
学習活動例	岡谷の企業や工場が持つLED技術にふれ、光の効果を生かした立体物を作る
学びの価値	岡谷の企業や工場が持つLED技術にふれ、光の効果を生かした立体物を作ることで味わう光の世界の柔らかさ
学習内容	光の効果を生かした立体の作り方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷の企業や工場が持つLED技術

【家庭科】

単元名	手洗いで洗濯をしよう(廃油石鹼作り)
学習活動例	岡谷消費者の会のみなさんとの廃油石鹼作りや洗濯実習を通して、日々の生活の中で環境のためにできることを考える
学びの価値	岡谷消費者の会のみなさんとの廃油石鹼作りや洗濯実習を通して考える日々の生活の中で環境のためにできること
学習内容	手洗いの仕方 廃油石鹼の作り方
「ひと・もの・こと」活用	岡谷消費者の会

単元名	自由研究(シルク石鹼作り)
学習活動例	蚕糸博物館に行きシルク石鹼を作ることで、シルク繊維を生活に生かそうとする取り組みの工夫について考える
学びの価値	蚕糸博物館に行きシルク石鹼を作ることで、シルク繊維を生活に生かそうとする取り組みの工夫について考えることで感じるシルク活用の可能性
学習内容	シルク石鹼の作り方 シルクの活用研究の現状
「ひと・もの・こと」活用	蚕糸博物館 シルク石鹼

単元名	まかせてね 今日の食事
学習活動例	地域素材をいかした給食や食事の献立を工夫して考える
学びの価値	地域素材をいかした給食や食事の献立を工夫して考えることで見つめる自らの食生活と健康とのつながり
学習内容	健康的な食生活と栄養のバランス
「ひと・もの・こと」活用	地域素材をいかした給食や食事

単元名	冬を明るく暖かく
学習活動例	長野県の中でも寒い岡谷の冬を乗り切るために、気候に合わせた生活の工夫を考える
学びの価値	長野県の中でも寒い岡谷の冬を乗り切るために、気候に合わせた暮らしの工夫を考えることで生じる生活への適応性
学習内容	快適な冬の暮らし方 温かさと明るさの工夫の仕方
「ひと・もの・こと」活用	長野県の中でも寒い岡谷の冬の気候

【体育】

単元名	輝くリンクの上で（スケート）
学習活動例	やまびこスケートの森の屋内外リンクで、自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりする
学びの価値	自分の技術に合わせて滑走したり、友と共に楽しみながら滑ったりすることで得られる爽快感
学習内容	スケートの滑走の仕方
「ひと・もの・こと」活用	やまびこスケートの森の屋内外リンク 指導員

単元名	体づくり・力を合わせて 綱引き(進友会)
学習活動例	体づくり運動として綱引きに取り組む中で、友と共に力を合わせる楽しさを味わう
学びの価値	友と共に力を合わせ取り組むことの達成感
学習内容	綱を引く時の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	進友会 綱引き大会 運動会

単元名	体づくり・気持ちよく走ろう 湖畔マラソン
学習活動例	湖畔のマラソンコースを利用し、自分の体力に合わせて長距離を走る
学びの価値	自分の体力に合わせて長距離を走ることで得られる気持ちよさ
学習内容	長い距離を走る際の体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖畔のマラソンコース

単元名	みんなで踊ろう 表現ダンス(花笠・岡谷おどり・ごったみなこい)
学習活動例	岡谷に伝わる踊りや地域に慣れ親しんだダンスを、友と共に表現の仕方を工夫しながら踊る
学びの価値	友と共に表現の仕方を工夫しながら踊ることで得られる一体感
学習内容	表現ダンスにおける体の使い方
「ひと・もの・こと」活用	花笠 岡谷おどり ごったみなこい

単元名	学校や地域での怪我の防止
学習活動例	凍った道や雪道で起こる怪我の防止の仕方を考える
学びの価値	冬期間気温の下がる岡谷において、他の季節とは違い、凍った道や雪道で起こる怪我の防止の仕方を考えることで向き合うこの地に住むわたし
学習内容	事故や怪我の原因やその防止
「ひと・もの・こと」活用	冬期間の自然環境(道路の凍結、積雪、氷柱、雪庇 など)

単元名	自然災害による怪我の防止
学習活動例	岡谷の災害から、自然災害にはどんな危険が潜んでいるのかや、その危険を減らす方法を考える
学びの価値	岡谷の災害から、自然災害にはどんな危険が潜んでいるのかや、その危険を減らす方法を考えることで向き合う自他の命
学習内容	自然災害の種類・自然災害への備え 災害発生時の怪我の手当て
「ひと・もの・こと」活用	岡谷市の自然災害

【道徳】

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄等) (C 郷土を愛する態度)
学習活動例	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れ、先人の努力や郷土への思いに触れ、自らの生き方 を考える
学びの価値	岡谷の偉人の業績、ひととなりに触れることで感じる先人の努力や郷土へ畏敬の念
学習内容	岡谷の生んだ歴史的・文化的に名を馳せた人々
「ひと・もの・こと」活用	片倉兼太郎、武居代次郎、武井五兵衛、小口太郎、武井武雄

題材名	岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 (見守り隊 消防団 等) (C 勤労・公共の精神)
学習活動例	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の取り組みやひと となりに触れ、社会に奉仕することの意味を考える
学びの価値	地域の人々の暮らしをよくするために、自身の時間を割き活動している人々の苦労や努力 に思いを致す中で感じる価値葛藤
学習内容	地域の人々の暮らしをよくするために尽力している人々
「ひと・もの・こと」活用	見守り隊 消防団

題材名	岡谷の『もの』に学ぶ道徳（蚕霊供養塔 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	世界で唯一の虫の供養塔に触れ、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	人と共に歩んできたお蚕様、お蚕様と共に歩んできた人々との間にある長い繋がりから見つめる営み
学習内容	虫に敬称を付け呼んできたことの意味 虫を供養することの意味
「ひと・もの・こと」活用	蚕霊供養塔(照光寺) 岡谷蚕糸博物館

題材名	岡谷の『こと』に学ぶ道徳（御柱、太鼓祭り 等）（C 伝統と文化の尊重）
学習活動例	岡谷や諏訪地方に伝わる祭りや伝統芸能から、郷土の歴史と文化を大切にしてきた歩みとそこに暮らす自らの生き方を考える
学びの価値	地域に伝わる祭りや伝統芸能に参加したり調べたりする中で感じる地域の繋がり
学習内容	地域に伝わる祭りや伝統芸能の歴史・内容
「ひと・もの・こと」活用	御柱 木遣り 花笠 長持 太鼓祭り

【外国語活動】

単元名	世界の国々・世界の生活（姉妹都市マウントプレザント市から学ぶ）
学習活動例	姉妹都市マウントプレザント市における人々の暮らしや子どもたちの学校生活の様子から、日本と外国との生活、習慣、行事などを比べる
学びの価値	姉妹都市マウントプレザント市における人々の暮らしや子どもたちの学校生活の様子から、日本と外国との生活、習慣、行事などを比べることで世界の中のわたし
学習内容	外国の人々の暮らしの様子
「ひと・もの・こと」活用	姉妹都市マウントプレザント市

【特別活動】

単元名	【学校行事】遠足：岡谷ならではの学習と関連した見学地に行こう（諏訪湖一周、やまびこ公園、出早公園等）
学習活動例	地図を持って、岡谷の道や地形を確かめながら歩いたり、見学地の様子を調べたりする
学びの価値	自らの足で赴き、見聞きし、体験することを通して得られる実感
学習内容	目的地や見学地の自然環境や地形 目的地や見学地の実働の様子や働く人たちの姿
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖一周 やまびこ公園 出早公園 工場 諏訪湖周クリーンセンター(ecoポッポ)等

単元名	【学校行事】運動会：種目「よいさ～御柱」
学習活動例	児童会種目やPTA種目として、御柱のように楽しくみんなで一致協力して柱を曳く
学びの価値	運動会や学校レク、PTA行事などで、親子や地域が共に力を合わせて取り組むことのできる行事や企画を通して得られる一体感
学習内容	多くの人々の手や力が集まって成し遂げることのできる活動のあり方
「ひと・もの・こと」活用	御柱のような曳行企画

単元名	【学校行事】 よりきれいな湖に 諏訪湖清掃
学習活動例	年2回行われる諏訪湖清掃に参加し、地域の人たちと共に、奉仕活動をする
学びの価値	地域の人々と共に、諏訪湖清掃や地域清掃に参加していく中で培う公共心
学習内容	環境整備 地域貢献 公共奉仕
「ひと・もの・こと」活用	諏訪湖清掃 地域清掃 公民館清掃

単元名	【学級活動】 心をひとつに クラスのみんなで (太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール)
学習活動例	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、クラスのみんなで一致団結して取り組む
学びの価値	岡谷に根ざした祭りやスポーツに、同じ目標に向かい、クラスのみんなで一致団結して取り組むことで得られる一体感と達成感
学習内容	協働していくことの意味 岡谷に根ざした祭りやスポーツの内容
「ひと・もの・こと」活用	太鼓、ダンス、諏訪湖よさこい、綱引き、エースドッチボール

単元名	【クラブ活動】 名人・達人に学ぶ
学習活動例	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫する
学びの価値	地域講師に教わりながら、岡谷で親しまれている伝統文化や伝承遊びなどに触れ、友と共にその遊び方や表現の仕方を工夫することで感じる地域とのつながり
学習内容	クラブごとの学習内容
「ひと・もの・こと」活用	地域講師

二 各校の先行事例



製糸王として名を馳せた片倉兼太郎を取り上げ、鎖国により産業や文化の面での近代化に遅れをとった日本が殖産興業を進める上で大きな役割を果たした岡谷の製糸業と、それを推進した兼太郎の歩みを通して、日本の近代化について思考・判断するようにした事例

1 単元設定の理由

前単元「明治維新をつくりあげた人々」において、子どもたちは、江戸時代末期の日本橋近くの様子と明治時代初めの日本橋近くの様子との二つの絵図を比較し、その変化から、「江戸時代にも外国の文化が入ってきていたんだから、洋服とか、洋風のもが少し見られてもいいはずなのに、どうしてこの20年間（1860年～1880年ころ）に、こんなに社会が変わったのだろう」という学習問題について考えた。子どもたちは、調査活動や話し合い活動に意欲を示し、新たな事実に出会った喜びや、自分の予想と事実との違いを知った驚きをノートに書いたり、発言したりするようになってきた。また、友の発言と自分の考えとを関連付けながら社会的事象をとらえることができるようになってきた。

そこで、本単元では、明治以降、日清・日露戦争から条約改正と、第一次世界大戦時の産業や日本の国力が充実し国際的地位が向上したことの関係について、製糸王国岡谷と製糸王片倉兼太郎の歩みを基に追究を進めていきたい。この時代、岡谷の生糸が日本の外貨獲得の中心を担っていたことを探ったり、今もなお、昔ながらの諏訪式繰糸器で糸を紡いでいる宮坂製糸場の糸とり体験や、学区にある蚕糸博物館の見学をしたりすることによって、歴史をより身近に感じることができるであろう。また、学習してきた事実を基に、自らが思考・判断し探究していく場面を設定することにより、片倉兼太郎と製糸業、そして、そのころの日本の歴史を関連付けて考えるようにしたい。

このような学習によって、ふるさと岡谷や日本の歴史に対する誇りと愛情を育てるとともに、子どもたちが歴史をより深く学ぶ喜びや楽しさを感じてもらうことを願い、本単元を設定した。

2 単元の目標

(1) 主目標

明治から昭和初期、日本の産業が発展していったころ、日本の輸出額の6割を占めていた生糸について、その生産の4分の1を占めていた岡谷の製糸業と、日清・日露戦争や条約改正などの関係を調べることを通して、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったことを理解できるようにする。また、我が国の近代化に貢献した先人の努力に思いを寄せるとともに、岡谷と日本全体の動きを結びつけてとらえ、広い視野から歴史を考える力を育てる。

(2) 具体目標（評価規準）

A 社会的事象への関心・意欲・態度	B 社会的な思考・判断・表現	C 資料活用の技能	D 社会的事象についての知識・理解
<p>ア 明治以降の岡谷の製糸業と日本全体の動きに関心を持ち、粘り強く追究しようとしている。</p> <p>イ 国家的視野に立ち事業を推進した片倉兼太郎に関心を持ち、その生き方に学ぼうとしている。</p>	<p>ア 産業の発展や近代化への動きについて、日本全体の様子と岡谷の製糸業の様子を結びつけて考えたり表現したりすることができる。</p> <p>イ 複数の資料や既習のことがらを結びつけて、日露戦争時、兼太郎が軍資金を献納したことは必要なことだったのかを判断することができる。</p> <p>ウ このころの世界の動きや国内の動きと結びつけながら、片倉兼太郎の事業の方向や生き方を考えたり表現したりすることができる。</p>	<p>ア 教科書や資料の絵図、グラフ、文章などから追究に必要なことをがらを読み取り、まとめることができる。</p> <p>イ 資料から読み取ったり、考えたりしたことを分かりやすくまとめることができる。</p> <p>ウ めあてをもち、メモをとりながら製糸場や博物館の見学ができる。</p>	<p>ア 明治の初め、日本が近代化を推し進めていく中で、様々な会社が出てきたことや、製糸業が日本の中心産業になっていったことを理解することができる。</p> <p>イ 厳しい国際状況下に置かれていた日本が、日清・日露の戦争に勝利を収め、講和条約を締結することによって、国の安全を確保できたことを理解することができる。</p> <p>ウ 幕末に欧米諸国との間で結ばれた不平等な条約を対等なものに改める交渉を進め、条約改正に成功したことを理解することができる。</p>

3 単元の展開

学習問題・学習活動	指導【評価】	時	資料
<p>1</p> <p>明治になってどのような産業がさかんになったのだろう。</p> <p>○グラフ「会社の数の変化」を読み取る。</p> <p>・たくさんの会社がつくられるようになった。</p> <p>・株式会社（渋沢栄一）</p> <p>・紡績工場（大阪）</p> <p>・岡谷の製糸工場や街並みの様子</p> <p>・製糸王 片倉兼太郎</p>	<p>・グラフ「会社の数の変化」や各地につくられた工場などの写真を示し、それらから分かることを発表し合う中で、新しい産業が起こったことや発展していく様子をつかめるようにする。</p> <p>・このころの岡谷の製紙工場や街並みの様子の写真を示し、それを読み取ることから、製糸業が栄えていたことをつかめるようにする。</p> <p>・岡谷蚕糸博物館や片倉館など、今も当時の施設や建物が残っていることを確かめる。</p> <p>【A-ア D-ア】</p>	1	<p>グラフ：会社の数の変化</p> <p>写真：岡谷の製紙工場や街並みの様子</p>
<p>2</p> <p>岡谷ではどうやって製糸をやっていたのだろう。</p> <p>○宮坂製糸に行って、糸を取る体験をする。</p> <p>○このころの岡谷の製糸業の様子を、詳しく調べる。</p>	<p>・糸取りは楽しいと、今でも昔ながらの機械で糸取りを続けている宮坂製糸を見学することにより、当時の様子を想像できるようにする。</p> <p>・実際に糸取りを体験してみると、糸取りには高い技術が必要なことに気付けるようにする。</p> <p>・生糸は、明治から大正、昭和の初期にか</p>	2 3 4	<p>資料：</p> <p>・横浜生糸入荷相撲番付</p> <p>グラフ：総輸出額に</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・中山社と諏訪式繰糸器 ・製糸結社と信州上一番格生糸 ・世界一の生糸輸出国日本の中核的役割を担った岡谷の製糸業 	<p>けて日本の貿易輸出の中心を占め、最盛期には6割を占めるほどであったこと、特に岡谷はその4分の1を占めるほど盛んなときがあったことが分かるようにする。</p> <p>【C-ア C-ウ】</p>	<p>対して蚕糸類輸出の占める比重</p>
<p>3</p> <p>片倉兼太郎は、どのように製糸業をやっていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糸家や労働者の努力と苦労 ・片倉兼太郎と片倉家 <p>○兼太郎が学校をつくった理由を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪式繰糸器の開発や製糸結社の結成、生糸の質の向上、新しい品種（交配種）の改良など、製糸家の努力があったことや、幼いころから働きに出た女子工員などについて調べ、労働者の努力や苦労に気付けるようにする。 ・教師が学校をつくった事実に着目している児童の意見を取り上げ、片倉兼太郎が事業経営の他に、公共事業にも力を尽くしたことについて考えられるようにする。 <p>【A-イ C-イ】</p>	<p>5 6年2</p> <p>6 部の製糸業資料集(自作資料集)</p>
<p>4</p> <p>なぜ兼太郎は、世界一の製糸家になれたのだろうか。</p> <p>○女工さんについての調査活動と話し合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十代半ばから働き、長時間、労働しなければならなかった女子工員の苦労と努力 ・集団生活による伝染病の流行 <p>○兼太郎について、さらに深く調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量をより高く、より早く、より利益を拡大させるために、改良に次ぐ改行を繰り返した。(機械の改良、糸の品質改良など) ・生糸価格の暴落による赤字 ・品質と生産量を高めるための、さらなる苦労と努力 ・片倉一族や製糸業で働く人々の努力(誰よりも朝早く、夜遅くまで働いた兼太郎とその奥さん、2代目兼太郎、片倉組の外務大臣と称された今井五介) ・片倉家の家憲10ヶ条 ・道路、鉄道(大糸線開通への援助)、電話、電気などのインフラ整備 ・川岸小学校設立協力、私立尋常片倉 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時期の岡谷の製糸業が日本の近代化を支えたことと、そこには製糸家や製糸業で働く人たちの苦労や努力があったことをつかめるようにする。 ・出荷の大量化、糸質の統一を目的とする製糸結社(開明社)、座繰製糸から機械製糸への早期転換、結社解散後の県外進出、新品種の改良、海外進出、コンツェルンにまで成長した片倉組の先を見通す力や苦労や努力について考えるようにする。 ・岡谷の製糸業の中でも、厳しい労働条件下に置かれた労働者たちがいたことに着目し、製糸業発展の裏にある苦労や努力に目を向けられるようにするとともに、生糸の価格変動の激しさや、景気の変動による損失などについても考えられるようにする。 ・片倉家の家憲10ヶ条をとり上げ、兼太郎をはじめとする片倉家の人々の考え方や、経営精神に触れるようにする。 ・生産量の向上、利益の拡大の他に、道路や鉄道、電話や電気などのインフラ整備や、病院や学校建設などの福利事業にも力を入れたことを確かめる。 ・岡谷の製糸業が栄えた背景を考えることで、日本が列強各国の支配下に入らないように、国力を強める必要があったこと 	<p>7 グラフ「女子工員の年齢別集計表」</p> <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「片倉家の家憲10ヶ条」 <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p>

<p>小学校，現岡谷病院建設，松商学園救済，温泉浴場片倉館建設などの福利事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼太郎は日露戦争の軍資金として金一万円，恤兵費千五百円を献納 ・岡谷のすずめは黒かった。 ・製糸業が輸出の主役だった。 ・日本は国力を向上させるために外貨を獲得する必要があった。 ・兼太郎は国力を高めることを考えていた。 <p>○日本はどのようにして国力を強めていったのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治外法権をなくす（陸奥宗光） ・ノルマントン号事件 ・日清戦争 ・日露戦争 ・関税自主権の回復（小村寿太郎） ・朝鮮の植民地化 ・国際社会で活躍する日本人（野口英世など） ・工業の発展（産業革命） ・第一次世界大戦 ・社会問題の発生…公害問題，米価の急騰 ・関東大震災 ・生活を守るための運動…民衆運動，労働運動，農民運動，選挙権を求める運動，女性の地位向上を求める運動，部落解放運動 	<p>をつかめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年続いた鎖国による列強国からの遅れや，不平等条約を結ばされたことなどの既習内容から，日本の近代化に向けての苦勞に目を向けることで，兼太郎が自己の利益だけでなく，国力の増大に目を向けていたことを考えられるようにする。 ・調べ活動や調べてきたことを基にした話し合いにより，以下のことを理解できるようにしたい。 <ol style="list-style-type: none"> ①日本の近代化にとって，不平等条約が大変不利なものであり，それを解消するための道のりが平坦ではなかったこと。 ②世界の多くの国々が，武力によって国力を高め，自国の領土を広げるために戦争という手段をとっていたこと。 ③日本も清（中国）やロシアと戦争をし，その後，朝鮮（韓国）を植民地にしたこと。 ④工業の発展の裏で様々な社会問題が発生したことや，国民が自分たちの生活を守るために立ち上がったこと。 ⑤産業の発展により人々の暮らしが豊かになったが，その裏で公害問題などの諸問題が起きてきたこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体の様子と兼太郎の歩みを関係付けることを通して，軍事力と経済力を高めないと世界に太刀打ちできなかったことや，兼太郎は結果として戦争に手を貸すことになったことについて考えられるようにする。 【Bーア Dーイ Dーウ】 	<p>資料「近代化と若者の夢」</p> <p>挿絵「米騒動」</p> <p>資料「田中正造と足尾銅山」</p>
<p>5</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>兼太郎は，日露戦争の軍資金を出さない方がよかったのではないかな。</p> </div> <p>○出さない方がよかったという立場と，出した方がよかったという立場の意見の交流。</p> <p>○片倉兼太郎は，戦争のためにお金を使おうと思って製糸業をやっていたのか考える。</p> <p>○蚕糸博物館に見学に行って学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「日露戦争の悲惨さ」と「戦争に負けた国がどのような扱いを受けるのか」を一つの視点とし，戦争が及ぼす側面を考えられるようにする。 ・国力の充実と国際的地位の向上のため，経営者である兼太郎が，労働者ともに様々な苦勞を乗り越え，努力を重ねてきたことに目を向けて判断できるようにする。 ・単に岡谷の製糸業の中の出来事に留まるのではなく，国民生活の様子や国際社会の中での日本の国際的地位について考えることで，岡谷の製糸業と日本全体の歴史の動きを重ねて考えられるようにする。 【Bーイ Bーウ Cーウ】 	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 13 <p>（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 14 <p>資料「中央東線開通工事に関して」</p>

4 本時案

(1) 主眼

片倉兼太郎は日露戦争の軍資金を出した方がよかったのかを考える場面で、これまでに学習してきた複数の資料や既習のことがらを結びつけたり、軍資金の献納とともに鉄道開通に力を尽くした事実から、兼太郎は戦争のためにお金を使おうと思って製糸業をやっていたのだろうかということ問い合ったりすることを通して、このころの世界の動きや国内の動きと結びつけながら、片倉兼太郎の事業の方向や生き方を考えることができる。

(2) 本時の位置（全14時間中の第13時）

前時：「片倉兼太郎は、日露戦争の軍資金を出さなかった方がよかったのではないか」という学習問題に対する自分の考えをまとめた。

次時：博物館見学のためあてをもち、蚕糸博物館見学に行く。

(3) 指導上の留意点

- ① それぞれの考えと根拠がはっきり分かり、子どもたちの発言がつながっていくように、模造紙を用いて整理する。
- ② 学習問題に対して、それぞれがどんな考えをもっているのかを事前に整理し、発言が偏っていないように配慮する。

(4) 展開

段階	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	指導・評価	時間	資料
問題把握	○学習問題を確かめる。 【学習問題】兼太郎は、日露戦争の軍資金を出さなかった方がよかったのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国力の充実と国際的地位の向上のため、経営者である兼太郎，労働者共に様々な苦勞を乗り越え，努力を重ねてきたことに目を向けて判断できるようにする。 ・ 単に岡谷の製糸業の中の出来事に留まるのではなく，国民生活の様子や国際社会の中での日本の国際的地位について考えることで，岡谷の製糸業と日本全体の歴史の動きを重ねて考えられるようにする。 ・ 「鉄道開通に関する尽 	2	学習ノート
問題の究	【出さない方がよかった】 <ul style="list-style-type: none"> ・ それは戦争のため，人殺しのためお金だ。 ・ もっと違うことに使った方がいいと思う。 ・ そんな無意味なことにお金を使うなら，もっと自分の会社を大きくした方がいい。 ・ そのお金をとっておけば，不況になったり，糸の価格が下がったりしても乗り切れると思う。 ・ そんなところにお金を使わずに，女工さんたちの給料を増やして，労働条件をよくした方がいい。 ・ 病院や学校をつくるなどしているんだから， 【出した方がよかった】 <ul style="list-style-type: none"> ・ このお金や製糸業で獲得した外貨があったから，戦争に勝てたと思う。 ・ もちろん戦争はよくないけど，その戦争に負けていたら，今のような日本の生活はなかったんじゃないか。 ・ このとき，日本がロシアに負けてしまったら，多額の賠償金を支払わなければならないようになっていたと思う。 ・ 国力を高めるために戦争という手段に国が出たわけだから，お金を寄付して貢献するのが正しいという時代だったと思う。 			

明	<p>そうやって人のためになることに使うべきだ。</p> <p>・兼太郎は戦争のためにお金を使おうと思っていただけではないと思う。</p>	<p>力」の資料を提示することにより、兼太郎がお金を使おうと思った目的は何かということを考えられるようにする。また、兼太郎が国家的視野に立って製糸業を進めていったこと、ふるさと岡谷や製糸業の繁栄を願っていたことに気付けるようにする。</p>	15	
	<p>【学習課題】兼太郎がお金を使おうと思った目的は何か、資料で確かめよう。</p> <p>・もちろん戦争のためにお金を使おうとなんて思っていなかった。</p> <p>・そんな使い方をすれば、みんなが不幸になると思う。</p> <p>・でも、軍資金を出したわけでも、何となく分かるような気もする。</p> <p>・兼太郎は自分の利益もあるけど、国全体の利益を考えていたと思う。片倉家の家憲の通り生きたと思う。</p> <p>・今、そうやって軍資金を寄付することが、自分が国のためにできることだと考えていたと思う。</p>			
／ 整理 発展	<p>【資料】日露戦争時、国に一万円の軍資金を献納すると同時に、戦争のために中断していた鉄道開通に力を注いだ事実。</p> <p>・製紙工場で一先けんめい働いていた女工さんたちも、みんな国が豊かになるように頑張っていたと思う。</p> <p>○社会科日記に学習したことのまとめを書く。</p>	<p>このころの世界の動きや国内の動きと結びつけながら、片倉兼太郎の事業の方向や生き方を考えることができたか。</p> <p>※学習ノートや授業中の発言、社会科日記からみる。</p>	10	資料 「中央東線開通工事に関して」
	<p>・兼太郎さんは日本のこともそうだけど、製糸業のことや岡谷のことも考えていたんだ。</p>	3		

5 教材研究

(1) 学習指導要領の目標と内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深める。

ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

(2) 児童の実態 (略)

(3) 素材研究

○片倉兼太郎 (初代～3代目)

嘉永2年(1849)片倉市助、ひろ子の長男として諏訪郡川岸村三沢に誕生。[次男：光治、長女：しゅう子、三男：五助(後に今井家の養子となる)、四男：佐一(2代目兼太郎)]

明治6年(1873)父市助、本家前に十人座繰製糸開業。明治8年(1875)岡谷に中山社が創業。諏訪式座繰器が普及する。

明治11年(1878)32人繰りの洋式器械製糸工場垣外製糸場を新設する。同時に他の製糸家9人とで製糸共同出

荷組合の深沢社を設立。その後、明治12年（1879）初代兼太郎、尾澤金左右衛門、林倉太郎ら12名で共同出荷組合の開明社を組織。この結社により、仕入れや出荷が安定し共同販売が軌道に乗る。（明治13年、生糸輸出額、群馬県を抜き、長野県が全国1位に）

明治22年（1889）川岸村村長となる。その後、松本、中国の上海と事業を広げ、明治27年（1894）360釜の川岸製糸業を三全社とする。翌28年、片倉組創立、同年、東京支店を設置。のちに各地に工場を増設し、経営難の工場を買収する。

明治37年（1904）2月、日露戦争の軍資金として1万円を献納するなど協力。日露戦争のために中断されていた中央東線の布設工事を請願、工事費の一部を負担する。明治39年（1906）村立川岸小学校へ1万円を寄付。同年、中央東線岡谷・塩尻間開通（八王子・塩尻間開通）明治43年（1910）上田蚕糸専門学校設立。

大正6年（1917）初代兼太郎永眠。四男佐一が2代目兼太郎を襲名し、片倉組組長となる。この年、蚕糸業空前の好況となる。その後も着々と事業を拡大する。

大正12年（1923）9月、関東大震災が起こる。その際、東京市へ米二千俵、横浜市へ米一千俵を寄付する。昭和3年（1928）諏訪湖畔に片倉館、温泉浴場を竣工。

昭和5年（1930）3月、繭価大暴落、岡谷の大製紙工場が次々と倒産する。岡谷製糸業救済のために丸興製糸（株）を創立する。昭和7年（1932）副社長の今井五助が貴族院勅撰議員となる。昭和9年（1934）2代目兼太郎逝去。ニューヨーク出張所取締役片倉脩一を3代目兼太郎に襲名。昭和14年（1939）富岡製糸場、片倉佐越製糸と合併。3代目兼太郎貴族院多額納税議員になる。この年、第二次世界大戦始まる。



〔初代 片倉兼太郎〕

(4) 素材の教材化

調べ学習や調べてきたことを基に話し合うことに意欲を示す子どもたちではあるが、その時代の人々の立場に立って実感しつつ理解する学習や、郷土岡谷の出来事が、この時代の日本の動きに大きな影響を及ぼしてきたことへの気付きは十分ではない。

そこで、明治以降の産業の発展と関連付けて岡谷の製糸業の発展に着目させ、日清・日露戦争時から第一次世界大戦のころ、日本が獲得した外貨の多くが岡谷の生糸によるものだったという事実から、このころの日本全体の出来事と、岡谷の製糸業を関連付けて考えられるようにしていきたい。具体的には、片倉兼太郎を中心とする製糸家の苦労や努力と、その下で精一杯働いた女子工員の苦労や努力、このころの日本が、国力を向上させるために戦争という手段をとったところなどを追究の中に位置付ける。それによって、地元と日本全体の出来事という複数の事象を関連付けてとらえていく力を伸ばすことができるであろう。

「生糸が軍艦になった」という言葉のように、製糸業で獲得した外貨が戦争の資金になっていったわけであるが、そのとき製糸王片倉兼太郎は何をし、何を考えていたのかを追究していくことにより、国内情勢や諸外国との関係をつかむことができるだろう。そして、調査活動で得た知識をまとめていくことで、この時代は不平等条約を撤廃するため、また、列強諸国に追いつくために、政府も国民も国力の向上に向かっていくことを理解できるようにしたい。

岡谷の製糸業については、女工哀史にもあるように、悲しい一面も否めない。しかし、兼太郎も女子工員も懸命に働いたことが日本の国力向上につながったという事実を子どもたちが学べるようにしていきたい。子どもたちが習得した歴史的事実をもとに、当時の時代背景の中で思考・判断する学びの楽しさや喜び、充実感や満足感を味わえるようにしたい。

6 授業記録

【第1～4時】＜明治期における岡谷の製糸業の様子を調べる＞

○写真「岡谷の町の様子」（明治期 岡谷市街）

隆次：煙突がたくさんある。

由香：煙突がたくさんあるってことは、製紙工場がたくさんあるってことだと思う。

浩輔：まゆを煮るときに火を使うから、煙が出ているんだと思う。

T：「岡谷のすずめは黒かった」って言われていたんだよ。

拓真：それだけ岡谷は製糸業が盛んだったってことだと思う。

○岡谷の製糸業について知っていること

浩輔：女工さんは朝早くから夜遅くまで働いていた。

隆次：ヨーロッパの機械とかを使っていた。

早知：片倉兼太郎さんが製糸業を盛んにした。

浩輔：岡谷市内に昔、製糸会社だったところがある。今も残っている。（イルフの駐車場の横）

早知：鶴峯公園のツツジは、片倉兼太郎さんが寄付して公園をつくった。

隆次：諏訪に片倉館の千人風呂がある。今でも入れる。入ったことがある。

【学習問題】 岡谷ではどうやって製糸業をやっていたのだろう

○現在、日本でただ一社、昔ながらのやり方で糸をとっている宮坂製糸場に見学・体験に行こう。



【製糸業が盛んな頃の岡谷】



【宮坂製糸場見学の様子】

〈宮坂製糸場見学の感想〉

初めて実際にやっている製糸場に行ったけど、女工の方たちが作業を黙々とやっていて、しかも手つきがものすごい速くてビックリした。できた糸とかを見ると、あの蚕の糸からすごいキレイな糸がとれていたのすごいいいと思いました。今は盛んじゃなくなった岡谷の製糸業だけど、今回行った宮坂製糸場を見たら、「まだ続いているんだなあ」と、ちょっと安心しました。岡谷の、このすばらしい製糸業を、これかも大切にしていきたいと思います。（早知）

《考察》 導入後、現在も昔ながらの糸取り（諏訪式繰糸器や上州式繰糸器）を行っている宮坂製糸場を見学しました。総合的な学習の時間の『岡谷探検』で、「岡谷の偉人」について調べることにした早知さんは、岡谷の製糸業や片倉兼太郎について、多少の知識がありました。見学後の感想に何度も表現されている「すごい」という言葉から、繭糸を集めて生糸ができていく様子を見た感動が伝わってきます。また、昔は盛んだったという岡谷の製糸業に関する興味や関心が湧いてきています。宮坂製糸場の見学・体験活動は、これから学んでいく製糸業の学習に対する期待感を膨らめるものとなりました。

【第7時】〈女工について調べた後の話し合いから学習問題の成立〉

隆次：優秀な女工さん、100円女工さんと、そうでない女工さんとの間にとっても差があったことが分かった。

亮介：結核などの病気になっても休めない。でも、がんばって稼ごうとするすごさを感じた。

早知：一方的な条件で働かされていたのに、家族のために一生けんめい働いていたのは本当に偉いことだと思う。

侑希：岡谷の製糸業はよいことばかりだと思っていたけど、女工さんについて調べてからはひどいことばかり。

T：兼太郎さんは、自分のことよりもまず第一にまわりのことを考える人だとみんな言ってたよね。

由香：確かに兼太郎さんは、自分のことよりもまわりのことを考える人だったと思うけど、片倉組でも女工さんに対して辛いことをしていたのならやっぱりひどいと思う。

早知：兼太郎さんが直接ひどいことをしていたとは思えない。私は兼太郎さんを信じたい。

拓真：まわりのことを考えていたのなら、女工さん、もっと楽になったでしょ。でも、兼太郎さんが悪いとも言い切れない。いいこともたくさんしてきているし、努力家だし。

浩輔：とにかく兼太郎さんは業界第一位の製糸家になったわけだからすごい。だから女工さんのことも考えていたと思うよ。

T：何人もの人が、「兼太郎さんが自分の家で始めた垣外製糸場、それから開明社を組織して、その数年後に業界第1位になるなんてすごい。不思議だと思った」って社会科日記に書いてあったけど、どうですか。

C全 「確かに不思議だなあ。」と思います。

【学習問題】 なぜ兼太郎は世界一の製糸家になれたのだろうか。

〈女工について調べ、話し合った後の感想〉

今までは、岡谷ってすごいところだなあと思っていたんだけど、今日の授業で女工さんのことを調べたら、岡谷ってひどい！！と思いました。先生が持って来てくれた『千本のえんとつ』を読んだら、ますますそう思いました。会社の一方的な条件で女工さんを働かせて、長い間女工さんたちを苦しめて、ひどすぎます。あまりの苦しさに耐え切れず、諏訪湖に身を投げた女工さんたちが後を断たなかったのが何よりの証拠です。でも、私は、片倉さんは直接関係してはいないと信じています。片倉さんの人柄からして、「自分が優先！！」なんてことは絶対頭のないような人だから、そうでないことを祈っています。（早知）

【考察】 前時まで、岡谷の製糸業の繁栄に誇りを抱いていた早知さんですが、女工さんに関する事実直面することで、その気持ちが根底から揺さぶられました。「岡谷ってひどい！！」「ひどすぎます。」という表現からは、衝撃にも似た心情が伝わってきます。しかし、それまでに抱いた、「兼太郎は自分のことよりもまず第一にまわりのことを考えている人」という気持ちを簡単に捨てることはできません。兼太郎という人物像に対し、大きなズレが生じる中で、「片倉さんは直接関係してはいないと信じてます。」「そうでないこと（女工さんを苦しめていないこと）を祈っています。」と、兼太郎に限って女工さんを苦しめるようなことはなかったと信じたいという思いを抱いています。

【第8・9時】〈「なぜ兼太郎は世界一の製糸家になったのだろうか」予想と調査活動・まとめ〉

明太：豪農の長男だからもともとのお金持ちで、そのお金で機械を買ったり、女工さんを雇ったりしたんだと思う。

早知：2代目や3代目との協力と、女工さんたちのがんばりがあって、片倉は有名になったのだと思う。

隆次：豪農の長男とはいっても、普通に家族が生活できるくらいのお金しか持っていなかったと思う。

浩輔：明治のこの時代、農家にはお金がない。いくら豪農といっても、そんなにお金持ちではないと思うよ。

○調査活動と調べた内容の確かめ（模造紙掲示板に、調べた項目を書き込んでいく）

- ①10人繰製糸開業～垣外製糸場開業～尾沢金左衛門と林倉太郎の3人で開明社を組織。
- ②今井五介は蚕種の製造。これによって品質が安定し、よい糸がたくさんとれるようになった。
- ③三代の兼太郎による継承。
- ④2代目兼太郎の襲名前に片倉倒産の危機を救った佐一の活躍。

- ⑤多くの女子工員のスカウト。
- ⑥1904年（明治37年）日露戦争の軍資金として、1万円を献納する。
- ⑦日本は生糸と引き替えにした軍艦や大砲で戦争を行った。（日清戦争，日露戦争，第一次世界大戦）
- ⑧1906年（明治39年）11月に，村立川岸小学校へ1万円を寄付。敷地買収，建築の監督指揮。
- ⑨1923年（大正12年）9月に関東大震災。東京市へ白米2,000俵，横浜市へ白米1,000俵を寄付。
- ⑩第一次世界大戦の戦後恐慌（大不況）が始まった大正9年，糸価は大暴落し，製糸業者は相次いで倒産していく。片倉はそれらを次々と吸収，合併し，さらに巨大な企業へと成長する。
- ⑪昭和3年に，片倉兼太郎（2代目）は，社員のために温泉を利用した保養施設片倉館を建てた。
- ⑫片倉家には家憲（家の憲法）がある。

<片倉家の家憲10ヶ条>

- 一 神仏を崇敬し祖先を尊重するの念を失うべからざる事
- 二 忠孝の道を忘るべからざる事
- 三 勤儉を旨とし，奢侈（しゃし=必要以上の贅沢）の風に化せざる事
- 四 家庭は質素に事業は進取的たるべき事
- 五 事業は国家的観念を本位とし併せて利己を忘れざる事
- 六 天職を全うし自然に来るべき報酬を享（う）くる事
- 七 常に摂生を怠るべからざる事
- 八 己に薄うして人に厚うする事
- 九 常に人の下風に立つ事
- 十 雇人を優遇し一家族を以て視る事

○調査結果を受けての話し合い

明太：垣外製糸場をつくったとき，1万円もの赤字が出た。でもそのとき，一家で協力してその危機を乗り切った。だから，家族の強い協力があって世界一になっていったと思う。

浩輔：開明社をつくるときも結社をしてまわりの人たちと協力した。関東大震災のときの寄付による信頼もある。

早知：製糸家としての技術や経営力もあったと思う。けど，一番は自分の損得は考えず人のことを第一にするという考えの人だったからみんなからの信頼も得られるわけだし，世界一になっていったんだと思う。

侑希：明治14年に糸価が暴落したんだけど，あとで2代目兼太郎になる弟の佐一が銀行から融資を取り付けた。これが家族の協力だと思う。銀行から融資を取り付けるってことは信頼されているから貸してもらえる。

拓真：保養施設を建てたり日露戦争の軍資金を出したりして，みんなから信頼を得たと思います。

遥香：女性をスカウトして女工さんを増やすこともしていた。あと，片倉館など，女工さんのためのこともやっているのだから，女工さんたちからの信頼も集めていたんじゃないかな。

〈「なぜ兼太郎は世界一の製糸家になったのだろうか」に対する自分なりの考え〉

製糸家としての実力もちろんあったけど，やっぱり，他人のことを考えているからだと思いました。何でも自分優先で，他のところで何か困ったことがあったって他人事みたいな人だったら，いくら製糸家としての技術とか経営力があっても，気持ちが汚くて周りの人は寄っていかないし，信用とかもなくなっちゃって世界一なんかかなれないと思います。それから，片倉家の家憲なんかもあって，しかも内容が，「国のためのことを中心にする」だとか「自分のことは後まわしにして人の事を考える」とか，常に人のことを考えなさい，みたいな内容だから，片倉家自体がいい気持ちをもった家なんだなあと考えた。（早知）

《考察》 「なぜ兼太郎は世界一の製糸家になれたのか」という学習問題に対する予想で，早知さんは，2代目や3代目，片倉家の家族の協力の他に，女工さんの功勞を取り上げました。製糸業の繁栄が，製糸家の努力だけではなく，女工さんの苦勞や努力があったからこそであるという早知さんの気持ちがうかがえます。その後，より詳しく兼太郎や片倉家について調べていく中で，兼太郎が成した功績の大きさや，自分の利益だけに固執していない人柄や生き方に思いを寄せています。そして，兼太郎が世界一の製糸家になった理由を，経営力や技術力に加え，人間性の豊かさによって人々から信用されていたからととらえました。

【第10・11時】 <当時の日本や世界の様子調べから新たな学習問題へ>

○このころの日本全体の出来事について調べ、調べたことを発表しながら歴史的事実を確かめていく。
不平等条約の改正 → 日清・日露戦争 → 韓国併合 → 第一次世界大戦 → 足尾鉾山鉾毒事件
→ 労働運動・農民運動 → 部落解放運動 → 普通選挙運動 → 女性解放運動 → 関東大震災

○その後の話し合い

明太：やっぱり兼太郎さんは国のことを考えていたから軍資金一万円を払ったと思う。日本は戦争をやっている、勝てば国のためになるけど、負けると大変なことになる。

京子：生糸をたくさん輸出して国の利益になれば、信頼を得ることができる。

亮介：それに関東大震災のときも米を寄付している。これも人々からの信頼を集めたと思う。

祐司：軍資金も米もそうだけど、片倉家の家憲にも国のために尽くすってある。だから片倉さんはいろいろな人からの信頼を集めて世界一の製糸家になっていったと思う。

一也：やっぱり日露戦争のときの軍資金が一番信頼につながるんじゃないかな。

早知：でも、生糸と引き替えに軍艦や大砲とか、戦争のために軍資金とか、使い道が間違っていると思う。

侑希：軍資金を出しても戦争に勝てば賠償金として戻ってくるから、使い道は間違っていないと思う。

【学習問題】 片倉兼太郎は、日露戦争の軍資金を出さなかった方がよかったのではないかな。

《考察》 「なぜ兼太郎は世界一の製糸家になれたのか」を考えていくためには、そのころの日本や世界の動きが分からなければ深まっていけないと感じ始めた子どもたちは、それらを調べる学習に入っていました。学習問題に対する話し合いでは、生糸がもたらす国益や兼太郎が献納した日露戦争の軍資金に子どもたちは着目していきました。この軍資金により国からの信頼を得た兼太郎という意見に対し、「そんなの使い道が間違っていると思う」と反論したのが早知さんでした。自分の損得は考えず、人のことを第一に考えた兼太郎が、戦争に手を貸したことに納得できなかったのでしょう。

【第12・13時】 <「片倉兼太郎は日露戦争の軍資金を出さなかった方がよかったのではないかな」についての話し合い>

早知：戦争にお金を出すということは、他国の兵士を殺せということだと思う。それは今まで言ってきた信頼ということには全くつながらない。もし、お金を出すなら飢えや生活に苦しんでいる人に出すべき。そして、戦争をやめる努力をするべきだと思う。

浩輔：苦しい人を助けたとしても、軍資金を出さなければ戦争に負けてさらに日本は苦しくなる。それに、国はもう戦争をする方向で動いている。片倉さんは、国に戦争をやめさせるような権力はもっていない。

隆次：もし戦争に負けてしまったら、ロシアが日本を植民地にする。この方が日本国民にとっては苦しい生活になるんだから。

悠梨：何で、戦争に負けたら植民地になるって分かるんですか。

隆次：植民地になるって決まっているわけではないけど、そうなる可能性が高いってことだと思う。

T：日清戦争後の中国や朝鮮がどんな道を歩んだか考えてみて。それを考えると、もし日本が負けたら植民地になっていた可能性はものすごく高いよね。

彩華：戦争に勝って賠償金をもらっても、それは国や政府のものになって貧しい人の生活は変わらないと思う。

早知：戦争を起こそうって考えの政府なんだから、国民のために思って賠償金を使うかなんて信用できない。

幹恵：疑問なんだけど、そもそも政府は戦争がいいと思っていたんですか。

浩輔：政府は、日本を守るために戦争をやると考えたでしょ。日本が植民地にされたら、それが一番大変なことなんだから。

T：兼太郎さんはどうなのかな。

隆次：兼太郎さんは、戦争のためにお金を使おうと思っていたかってこと？

T：そうだね。**兼太郎さんがお金を使おうと思った目的は何か考えてみよう。**

遥香：兼太郎さんは、国のためにお金を使おうと思っていた。国が、日本が強くなるために戦争をやると決めてしまったので、結果的に戦争のためにお金を使ったってことになったと思う。

浩輔：片倉さんは、戦争のためにお金を使ったり使われたりするのはいやだと思っていた。でも、戦争に負けて

国民の生活が苦しくならないように戦争のためにお金を使ったんだと思う。

俊彦：本当は兼太郎さんは戦争のために製糸業をやっていたわけではない。でも、植民地にならないように、戦争のためにお金を使うしかなかった。そういう時代だった。

○資料提示

鉄道中央東線の布設工事が、日露戦役に際し中止せられし時、率先有志の諸氏と相謀り、費用出途方法を講じ其の筋に請願し、工事費の若干を負担して、其工事を完成せしめたることあり。

T：日露戦争の時、国に一万円の軍資金を献納すると同時に、戦争のために中断していた鉄道開通に力を注いだんだね。この事実から何を感じましたか。

早知：岡谷の産業の発展のためにお金を使っていたんだ。

侑希：戦争のためではなく、岡谷のこと、諏訪や地元の地域のことを考えていた。

隆次：岡谷の人々のことや、岡谷の産業のこと、特に製糸業のことを考えているんだ。

浩輔：兼太郎さんは戦争のためではなく、製糸業の発展のためや、国民のために尽くしたかったんだと思う。

T：みんなが、ひどい待遇を受けてあまりにもかわいそうだと言っていた女工さんはどうだったの。

隆次：女工さんも、みんな、国が豊かになるように一生けんめい頑張っていたと思う。

修：国を豊かにするために、政府も、兼太郎さんも、女工さんたちも、日本中のみんなが努力していたと思う。

〈授業後の早知さんの感想〉

私は、片倉さんが軍資金を出したのは間違っていると思っていたけど、今日の討論で、私と違う意見の人は、そういう考えだったんだあと感心しました。本当のことはその時代の人じゃなきゃ分からないけど、今日みたいに、自分の意見で検討するのもいいなあと思いました。戦争の中で、岡谷の産業の発展を考えた兼太郎さんはすごいと思いました。

《考察》 軍資金を出さなかった方がよかったと考えた早知さんは、戦争にお金を使うことは決して信頼にはつながらないと主張しました。しかし、「兼太郎がお金を使おうと思った目的は何か考えてみよう」という学習課題について考えていく中で、日露戦争の時、国に一万円の軍資金を献納すると同時に、戦争のために中断していた鉄道開通に力を注いだという事実に触れた早知さんは、「兼太郎は、岡谷の製糸業のためにお金を使っていたんだ」という考えにたどり着きました。授業後の感想からも、自分と違う考えに納得し、戦争の中で岡谷の産業の発展を考えていた兼太郎に共感する様子が見えられました。

〈この単元を終えての早知さんの感想〉

私は、この学習をしてきて、いろんなことを学んだけど、片倉さんが日露戦争の中、岡谷の製糸業の発展を願って鉄道を開通させたというところが一番印象に残ったし、すごいと思いました。それに私は、岡谷がいかに製糸業で有名だったかというのを、岡谷に住みながらも分かっていませんでした。それも、この学習をしたら、片倉さんはじめ、2代目や3代目、女工さんの協力があった岡谷が有名になったんだということが分かりました。戦争をしてしまうような日本だったけど、片倉さんは家憲にそむくことなく、国のことを考えていたのは、本当にすごいことだと思いました。



〔蚕糸博物館見学の様子〕

《考察》 早知さんは、製糸王国岡谷と製糸王片倉兼太郎について考えることから、この時代の日本や世界の動きを学んでいきました。そして、追究を進めていく度に新たな事実に出会い、疑問が生じ、考えが揺さぶられていく中で、製糸家も女工も、この時代の誰もが国力向上のために苦難を乗り越え、努力を重ねていった姿に思いを寄せていきました。早知さんが何となく知っていた岡谷の製糸業は、この学習により、ふるさと岡谷の歴史を物語る製糸業へと変わっていったことでしょう。

5 学年 単元名『わたしたちの生活と工業』

➡ 「指導要領解説 P.62~65」「県手引書 P.154~161」

小単元名『超精密部品の命 熟練職人が支える金型作り』（20時間）

- 3・4年生で身近な地域の学習をしてきた子どもたちは5年生になると日本全体に目を向けた内容を学習します。「我が国の工業生産」では新たに「価格や費用」の取り扱いが加わりました。「製造の過程で様々な費用がかかること原材料の確保や製品の輸送のための費用がかかることやそれらの費用が価格に影響を与えていること」などを取り上げます。
- 社会科の学習は単元構想の練り上げが重要です。単元展開が筋の通ったものになれば指導案の大枠は完成したと言えるでしょう。その際教師がもっとも考えなければならないことが「子どもの意識の流れを大切にすること」です。事実認識から思考・判断まで子どもたちが「どうしてだろう?」「なぜだろう?」と社会的事象に対する疑問やズレを感じてそれを解決していくことができるような単元構想にしたいものです。
- 調査活動の方法は様々ですがなかでも社会的事象やそこに関わる人々に寄り添うことができる調査活動は「見学・体験活動」です。見学・体験活動を盛り込んだ学習は子どもたちの目の色を変え思い入れの深いものになるでしょう。
- 工業生産の学習と言っても製品の生産について学習しただけでは「共感」には至りません。子どもたちが社会科授業にのめり込むにはそこで働く人々の工夫や努力に迫っていくことが大切です。小学校の社会科は「人」です。人々の工夫や努力を通してその思いに打たれるような学習体験を積み重ねていけるように支援しましょう。
- 全教科の中でもっとも教材研究に手間のかかる教科が社会科かもしれません。確かに教材研究は大変ですが教師が教材研究を重ねた分だけ子どもたちの学習活動が充実したものになります。教師が惚れ込んで教材研究をした熱い思いは子どもたちに響きます。以下の事例は調査先の社長さんに嫌がられるくらい教師が何度も足を運び教材研究を行って取り組んだ事例です。

1 小単元の設定にあたって

(1) 子どもたちの意識のつながり

子どもたちは、5年生に入って日本の農業、水産業について学習してきた。岡谷市の農業、水産業について調べ考える中で、岡谷市は、地形・気候・環境の変化などの理由から農業も水産業も盛んに行っておらず他の地域に頼っていることを知った。また、そのような諸条件の中で工夫や努力をして米作りをしているKさんや様々な水産業の問題をかかえながら「うなぎの町岡谷」の各お店に送られてくるうなぎを養殖している愛知県一色町のEさんの工夫や努力にふれてきた。このように農業も水産業もあまり盛んではない岡谷。「では岡谷の特徴は何か」と考えた子どもたちは「蚕が盛んだったって聞いたことあるよ。」と言ったT児の声をきっかけにして製糸工業から精密工業へ変わっていったことや「東洋のスイス」と呼ばれ外国から視察団が来るほどの「工業都市」であることを知り岡谷市で作っている工業製品について興味を抱いていった。そして私たちの生活を支えている様々な工業製品や岡谷市の工業関係の会社について調べていくうちに、「工業都市」でありながら日本の工業地帯や地域に位置づけられていないことや、完成品ではなく小さい部品をつくらせている会社が多いこと、地形や気候を利用して物づくりを行っていることなど岡谷市の工業の特徴について気づいていった。グループ毎に調べた近所の工場調査で、もってきた小さな部品を見た子どもたちは、「どうやってこういう部品を作るのだろう。」と疑問をもち、子どもたちが見つけた工場の一つである「OS工場」に見学へ行くことになった。

(2) OS工場を教材化することの価値

子どもたちは、超精密を売りにしている「OS工場」で作る0.01mm~0.5mmの部品を見て、「どうやってこんなに小さいものを作るのか」「こんな小さい部品が何に使われるのか」と疑問をもち興味をもって調べ始めるだろう。また様々な製品を作るためには正確な金型作りが命であること、その金型作りは熟練職人の技が必要であるという事実を知るであろう。金型作りには焦点をあてて調べていく中で、その金型作りに関わっている人々の苦労や工夫、課題、部品を注文してくる大手会社との関係を理解していくことが期待できる。

そして、それらの様々な苦労や工夫が、OS工場のモットーである「良質、低価格、早い納品」につながっていること、『熟練の職人技を生かした金型作り』と『大量生産の部品作り』の両方を行うことが、たくさんのライバル会社があるレベルの高い日本の製造業界で生き残り、複数の大手企業からも注文がくるほどの工場になっていることを考えていくことができるであろう。

2 小単元展開の概要 () …時数

学習問題	○学習活動 と ●子どもの意識
<p>①工業都市岡谷ではどんなものを作っているのだろう。(7)</p>	<p>○家の周りの工業関係会社を調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように作っているか調査（電話・ネット・訪問）・工場マップ作り ・OS工業の特徴を考え合う。(全国の工業地帯地域との比較) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・工場が固まっていなくてバラバラしている。 →広くて平らな土地が少ないからかな。 ・いろいろな種類の工場があって協力し合っている。 ・従業員も少なく小さい会社が多い。 →大きなものを作る場所がない。 ・部品など小さいものを作っている。 →運送しやすい。(岡谷JCがある。) </div> <p>●（訪問でもらってきた小さな部品を見て）こんな小さい部品をどうやって作るのだろう。実際に見てみたいな。</p> <p>○超精密部品を作っているOS工場に見学に行こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと見てきたことを確認しながら思ったこと考えたことを語り合おう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や水産業よりもお金がかかりそう。 ・顕微鏡で見てやっとわかるくらいの0.01～0.5mmの部品を作るなんてすごいなあ。 ・いろいろな工夫がしてあるんだな（作業しやすく持ちやすくなど） ・たくさんの機械が動いていてびっくり。高そうな機械だな。 ・全国から注文が来ていてすごい。交通機関が止まったら大変。 ・職人がいなくなったら金型は作れないからあとつぎを作らなきゃだな。 ・最後は職人技で作る高価な金型はすごく貴重なんだろうな。その金型を売ればもうかるんじゃないのかな。売ればいいのに…売ってないんだ。 ・もったいないよ。自分でもっていれば何度も使えるじゃん。 ・OS工業の秘密がばれてしまうと困るんじゃないかな。 </div>
<p>②金型は高く売れるんだしそれを売ってもうけている会社もあるんだからOS工場は金型自身を売ればいいんじゃないか。(6)</p>	<p>○学習問題について各自の予想を交流し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">＜売ればいい＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうけが5%で少ないから金型を売れば一気に金が入る。 ・お金が入ってくると今は35人の小さい会社が大きくなっていい。 ・いろいろな会社にOS工場の金型が広まってまた改良を重ねていってもっといい金型ができるようになるよ。 ・いい金型がない会社は助かる。 ・真似されるのが心配だったらOS工場と協力している会社にだけ売ればいいんじゃない。 <p>●協力会社って存在するのかな？どのくらいの数があるのかな？どういう関係なのかな？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">＜売らないほうがいい＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金型を売ってしまえば部品を注文してきた会社に部品がいくのがおそくなって信頼が失われてしまう。そしてもうけが減る。 ・OS工場の技術が真似されて売った会社に部品の注文が行ってしまう。 ・もっとすごい金型を作ってもうけてしまったらずるい。 ・他の会社のために金型を作っていたら1～2月も作るのにかかるんだからすごい時間がかかってしまうよ。 </div> </div>





- OS工場に携帯の部品を注文している大手企業S社に聞いてみよう。
- 携帯を分解していくつの部品で出来ているか調べてみよう。(体験活動)
 - ・1つの携帯に関わる工場は600社 約100日で携帯が完成

○学習問題について話し合う。

<売ればいい>	<売らないほうがいい>
<ul style="list-style-type: none"> ・金型職人がいないところならいい。とにかくお金がもうかるからいい。 ・ぼくの親戚のおじさんは精密工場に勤めているんだけど金型は作ってないから買っているんだって。だから金型だけを売る会社があるんだからOS工場もそうすればいい。 ・いい金型がない会社は助かる。 ・真似されるのが心配だったらOS工場と協力している会社にだけ売ればいいんじゃない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・70個くらいの部品があるんだからたくさん会社を回って携帯ができるんだからいちいち作っていたら時間がかかる。 ・1つの金型を作るのは1、2ヶ月もかかるしOS工場には職人が5人しかいないんだから金型まで売っていたら大変になる。 ・分解したらみんな大きさも違うし形も違う部品の注文がこなくなってしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ●金型を売っている会社があるのになぜOS工場は売らないのかな。 ●5人の職人の中で超熟練職人は2人だけなんだな。すごい。どんな技なんだろう。 	

③金型を売らないOS工場の職人技はどのようなものだろう。(4)



- もう一度OS工場へ行って見たり聞いたりしてこよう。
- 分かったこと見てきたことを確認しながら思ったこと考えたことを語り合おう。

- ・顕微鏡と砥石だけを使って、職人のカンだけで0.001mmを削っていく。削りすぎたらすべてやり直し。ほとんど失敗はない。人数が足りないから大変だろうな。
- ・すごい金型を作るには手で調節することが大切なんだ。集中力がいるだろうな。完全に体にしみついてないとだめだな。米作りのときのKさんも「農薬の量は長年のカン」って言うんだけどやっぱりそういうカンは、どこの世界でもすごいな。しかも、上下ぴったり合わせるのもカンでやるからすごい。
- ・職人技の獲得には10~20年以上かかる。後継には、仕事をしながら教えていくから大変。
- ・Mさんのような熟練職人はこれから急には増えていかないだろうな。職人への道は長い。そんなに続けてやっているってことは、よっぽど金型作りが好きなんだな。
- ・あとつぎの育成は、仕事をしながら教えている。やりづらだろうな大変そう。
- ・現在金型作りは5人でぎりぎり。しかも最近は納品が早くなってきているので2週間で完成させなければならないこともあって残業が増えている。忙しいし簡単には職人は増えていかない。もっと増えるといいのにな。
- ・金型を作っても部品の注文がくるとは限らない。部品をたくさん作って利益をあげている。少ない職人でやっているんだから、時間を有効に使わないといけいな。
- ・1分間で400個の部品を作るプレス機短い時間でたくさんできて楽だな。
- ・指が1本なかったNさん超熟練職人の一人なのに、金型を作るとき不便だろうな。けがしても作り続けていてすごいな。
- ・部品270種以上金型はそれ以上作るってことだからすごい大変なことだな。
- 金型を売るとOS工場の金型作りの技術が出てしまうって言うんだけど 長年の研究で得た技術(超精密・9個同時に部品ができる金型)が出ていっても、伝達するのが難しく20年以上もかかる職人技は、簡単には真似されないんじゃないかな。
- 職人がいる工場に売ってしまえば同じものやそれ以上のものが作れてしまうよ。
- じゃあ、金型専門に売っている会社は、技術が出て行くことは困らないのかな。
- OS工場は部品も作っているからだね。
- なぜOS工場は、大変なのに金型と部品の両方を作っているんだろう。



④なぜOS工場は職人さんの人数が少なく大変なのに金型と部品の両方を作っているのだろう。(2) 本時 ●OS工場は、金型を生かして超精密部品を大量生産し、メーカーのニーズに応えようとしているんだな。					
⑤長年の技術と職人技を合わせた金型を生かして部品を作っていることは分かったけど最新の機械を入れれば職人さんの負担は軽くなるのだからOS工場も最新の機械を使っ て金型を作ればいいんじゃないか。 (1)	○学習問題について話し合う。 ● OS工場は、金型を作る最新の機械を使っていないんだ。なぜだろう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"><最新の機械を使えばいい></td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><使わない方がいい></td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の機械を使えば、熟練職人が2人しかいないんだから、楽になるよ。 ・モットーの1つである『早い納品』がもっと早くできるんじゃないかな。 ・後継を作るのに時間がかかるから、最新の機械があれば、それを心配する必要がないんじゃないかな。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・職人が必要じゃなくなっちゃうじゃん。 ・最新の機械を買ったら、その分部品が高くなっちゃって、『低価格』にならなくなるよ。 ・OS工場は、部品を作る会社で、部品を作るためのすごいプレス機があるんだから金型を作る機械にはお金をかけたくないんじゃないかな。 </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●職人技こそが3つモットーを支えているんだよ。そこには自信と誇りがある。だから信頼される。MさんとNさんが世界に認められているってことなんだな。すごいぞ。岡谷市にそんな人がいたなんてうれしいな。 ●だからこそ益々職人技を若い人に受け継いでもらいたいな。 	<最新の機械を使えばいい>	<使わない方がいい>	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の機械を使えば、熟練職人が2人しかいないんだから、楽になるよ。 ・モットーの1つである『早い納品』がもっと早くできるんじゃないかな。 ・後継を作るのに時間がかかるから、最新の機械があれば、それを心配する必要がないんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職人が必要じゃなくなっちゃうじゃん。 ・最新の機械を買ったら、その分部品が高くなっちゃって、『低価格』にならなくなるよ。 ・OS工場は、部品を作る会社で、部品を作るためのすごいプレス機があるんだから金型を作る機械にはお金をかけたくないんじゃないかな。
<最新の機械を使えばいい>	<使わない方がいい>				
<ul style="list-style-type: none"> ・最新の機械を使えば、熟練職人が2人しかいないんだから、楽になるよ。 ・モットーの1つである『早い納品』がもっと早くできるんじゃないかな。 ・後継を作るのに時間がかかるから、最新の機械があれば、それを心配する必要がないんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職人が必要じゃなくなっちゃうじゃん。 ・最新の機械を買ったら、その分部品が高くなっちゃって、『低価格』にならなくなるよ。 ・OS工場は、部品を作る会社で、部品を作るためのすごいプレス機があるんだから金型を作る機械にはお金をかけたくないんじゃないかな。 				

3 本時案

(1) 小単元名『超精密部品の命 熟練職人が支える金型作り』

(2) 本時の主眼

OS工場はなぜ金型と部品の両方を作っているのか考える場面でOS工業のモットー（高品質・低価格・早い納品）と大手メーカーがOS工業を選んだ理由が一致していることや最新の機械を使わず職人技と組み合わせて金型を作っている事実を関連させて話し合うことを通して、OS工業は、長年の研究の成果で得た技術と長年の経験から身につけた熟練職人技が合わさってできた金型を生かして、超精密部品を大量生産し、メーカーのニーズに応えようとしていることを理解することができる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
OS工業は、がんばって研究してきた技術と20年以上のやり続	1. 学習問題について話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習問題】OS工場は、職人さんの人数が少なく大変なのに、なぜ金型と部品の両方を作っているのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ OS工場は、がんばって研究してきた技術と20年以上やり続けて身につけた職人技の両方をつまんだ金型でいい部品を作ろうと頑張っているんだな。 ・金型を買うより自分で作っていた方がお金がかからなくていい。 ・金型作りは5人でぎりぎりだと言っていたから金型専門会社になる余裕はないんじゃないかな。 ・熟練職人のあとつぎはすぐには作れないから、部品も作っていかないとやっていけないんだ 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について話し合う場を設け、今までみんな考えを交流させてきたことや調査・見学により分かった事実とつなげて考えられるように支援する。 ・「職人の人数の少なさ」に注目している子を第1発言者として指名しまずは仕事の大変さに着目して

けて身につけた職人技の両方がつまった金型でいい部品を作ろうと頑張っているんだな。3つのモットーにもっとヒントがありそうだな。

OS工場は、がんばって研究してきた技術と20年以上やり続けた職人技の両方がつまった金型でいい部品を作ろうと頑張っているんだな。

と思う。
 ・長年の研究の結果である技術が出るから金型でもうけることはできないなら部品でもうけるしかないと思う。
 ・すごい金型さえ作ってしまえば、後は1分間に400個も一度に作れるプレス機があるから、いい部品がどんどんできるよね。
 ・自分のところで金型を作って、すぐ部品を作れば、早くメーカーに届くよ。
 ・3つのモットーは、すべてメーカーの希望に合うようなものだな。OS工業はメーカーのことをよく考えているんだな。金型と部品の両方を作っているヒントがありそうだ。

考え合えるようにする。
 ・OS工業の3つのモットーに関わる考えが出始めたら資料（OS工場の3つのモットー）を提示し金型と部品の両方を作っていることと3つのモットーを関連させて考えていくようにする。

2. 3つのモットーとつなげながら学習問題について話し合う。

【学習課題】OS工場の3つのモットーと関連させて考えよう。

○3つのモットーのためには、金型と部品に両方を作ることが大事なんだな。
 ・0.0001mmの調節をしてまで正確な金型を作ることとは部品の品質がよくなるってことなんだな。
 ・残業を増やしてまで2週間で金型を作ることもあるって言ってたから、メーカーは早く部品がほしいんだな。
 ・他の会社に作ってもらっていたら、本当にいい品質か分からないもんね。
 ・超精密部品を作るには、正確な金型を作らないとできない。そのために0.0001mmを削る職人技がすごく大切なんだな。
 ・他の会社の作った金型だと信頼できないし、もしいい部品ができなかったらまたやり直して手間もかかるんじゃないかな。
 ・金型を自分で作るから、安くできるんじゃないかな。他で買っていたら高くなってしまいうよ。
 ・自慢の金型にお金をかけないかわりに部品の価格を下げて、メーカーの希望に応えようとしているんだな。
 ・自分のもうけが減ることを考えるのではなくて、まずメーカーのために安くしているなんてすごいな。
 ・だから遠くから注文が来るくらい信頼されているんだね。
 ・自慢の金型を一番高くしたいだろうにメーカーは部品がほしいから、メーカーの希望に応えているんだな。
 ・低価格にすればメーカーも喜ぶけど、OS工場は大量生産できるんだから、もうけにはつながっていくからいいんだな
 ・メーカーの希望に応えることができると、OS工場への信頼につながってくるからいっぱい注文がくるようになって、OS工場にとってもいいんだな。
 ・3つのモットーのために部品と金型の両方を作っているんだな。

20

○3つのモットーとつなげながら考え合う場を設け、金型と部品の両方を作っている理由がメーカーのニーズに応えるためであることに気づくように支援していく。
 ・高品質な超精密部品と熟練職人技の関係を明確にしていく。
 ・「熟練職人技の意味」を再認識し「低価格」に注目した意見が出たら資料①を提示する。

【資料①】最新の機械を使わず職人技と組み合わせることで金型を作るという事実

・3つのモットーはメーカーのニーズに応えるためのもので、それが金型と部品の両方を作る理由につながっていることが分かってきたら資料②を提示する。

【資料②】OS工場のモットーと大手メーカーがOS工場を選んだ理由が一致していること（大手メーカーからの返信メール）

	<p>3. OS工場について、今思っていることを学習カードに記入する。</p> <p>○メーカーの希望につながるモットーのために、金型と部品の両方を作りながらいろいろな工夫や努力をしてがんばっている会社なんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自慢の金型のコストを下げるなんて悲しいだろうな。 ・お客さんは部品がほしいから、その注文に応えるために、一生懸命考えて工夫しているんだな。 ・すごい技術と職人技を持っているOS工場はすごいな。こんなすごい会社が岡谷市にあっとうれしいな。 ・小さい会社でも、こうやって工夫をしてやっているからびっくりした。 ・だから大阪とか遠くから注文が来るんだな。 ・長年やり続けて得た技術と職人技はすごいもの。やり続けることが大事なんだな。 ・それでも最新の機械を導入すれば職人さんの負担は軽くなるんじゃないかなあ。 	10	<p>○今感じていることを学習カードに記入しこの時間の学習内容を振り返るようにする。</p> <p>-----</p> <p>長年の研究の成果で得た技術と経験から身につけた熟練技が合わさってできた金型を生かしてメーカーのニーズに応えようとしていることが分かったか。</p> <p>発言の様子や吹き学習カードに記入してある内容からとらえる。</p> <p>-----</p>
--	---	----	--

4 実際の授業から

資料②を提示し、OS工場の3つのモットーが大手メーカーに受け入れられている事実を知って心から喜び、OS工業を誇りに感じていった子どもたち

<p><資料② 大手メーカーからの返信メール></p>	
<p><質問1></p>	<p>なぜ大阪にある貴社がわざわざ長野県にまで部品を注文するのか。</p>
<p><回答></p>	<p>現在の産業は世界的な視点で動いています。当社においても同様に部品一つとっても日本はもとより世界の魅力あるメーカー様と取引させて頂いております。</p>
<p><質問2></p>	<p>近くの阪神工業地帯には超精密部品を作っている会社はないのか。</p>
<p><回答></p>	<p>阪神工業地帯にも同様の部品を作られている会社はありますが、魅力あるメーカー様であれば地理（距離）的な条件は問題ではございません。</p>
<p><質問3></p>	<p>OS工場に何か魅力があるのか。</p>
<p><回答></p>	<p>OS工業様の部品は品質もよく納期も早く低価格であり総合的に見て優秀であると判断し発注しております。</p>

<p><学習カードより></p>
<p>◆OS工場は、たくさんある世界の会社の中から選ばれていてすごい。しかも、こんなに小さい会社だってことの方がもっとすごい！！OS工場の大事にしていることがお客さんに分かってもらっているなんてむずかしいことなのにすごい。それにお客さんに「優秀」なんて言われるなんてすごく信頼されているし、特別だと思われているってことだからすごい。OS工場はどう考えてもすごすぎる！！</p>
<p>◆OS工場が世界の中で選ばれたってことは、OS工場働いている人たちが大事にしていることがしっかり全部できていてことだからすごくうれしく思っているだろうな。</p>
<p>◆OS工場は、お客さんの信頼を大事にしているし職人技もあるからもうかっているのかな。</p>

○子どもたちは、資料の「返信メール」を読みながら、拍手をする子、「お～」と歓声を挙げる子、「すごい！」と感嘆する子など、様々な反応を見せた。今まで友だちとともに学習問題について追究し、2回の見学で熟練職人のMさんとNさんと修行中のYさんの苦労を知り、職人技のすごさに触れてきた積み重ねがあるからこそ、心を動かし、OS工場のすばらしさをより深く感じる事ができたのではないかと。自分たちの住んでいる岡谷は農業も水産業もあまり盛んではないと学習してきた子どもたちが日本の工業との関連の中で今度は胸をはって誇れる学習になったのではないかと。

単元名 「火災からみんなを守れ」

【内容(4)ア イ】

地域社会における火災の防止について、関係諸機関として消防署の他に消防団に着目させ、自分の地域にとっての消防団の重要性に目を向けるようにすることを通して、人々の安全を守るために、関係機関がどのような働きをしているのかを考えるようにした事例。

単元展開については、消防署の数や中心司令室からの連絡系統の違いなどにより、三つの展開例を示した。

1 単元設定の理由（略）

2 単元の目標

(1) 主目標

消防署や消防団の訓練などの見学、警察署や電力会社などへの調査を通して、火災発生時は近隣の消防署だけではなく警察や電力会社、ガス会社、消防団などが駆けつけることを知り、地域の様々な機関や人々が協力するとともに、関係の諸機関相互が連携して未然の防止と緊急時の対処を行い、火災から私たちを守るための工夫や努力をしていることが分かる。

(2) 具体目標（評価規準）（略）

3 単元の展開

(1) 展開例① <消防署が遠く、数が少ない地域の場合>（下伊那などの山間僻地）

学習問題	学習内容 学習活動	指導	時	資料
1 119番に連絡したらどこにつながるのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災時、どこに電話をするか考える。 ・119番に電話をしたらどこにつながるかを予想し、話し合う。 ・消防署ではなく、通信司令室につながることに疑問をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「消防署につながる」という子どもの考えと、通信司令室につながる事実とのずれから、その背景・要因を追究する学習問題を設定する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話
2 消防署に直接連絡が入った方がすぐに出勤できるのに、なぜ通信司	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署を中心に、警察、電力会社、ガス会社、消防団などの関係機関が相互に連携して、火災が発生したときには一刻を争って対処していることを調べる。 ・自分の地域には消防署が少ないので、 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関の一つとして消防団に着目させ、自分の地域にとっての重要性に目を向けるようにする。 	2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の消防署（調査） ・火災が起きたときの連絡体制

令室につながるのだろう。	消防団に早く連絡する必要があることや、消防団は、消防署と協力して重要な働きをしていることを知る。		5	・消防署数
3 なぜ、電力会社やガス会社、消防団は火災の時に、すぐに行動できるのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・諸機関が普段から施設・設備の整備や点検，訓練，広報活動などに取り組み，火災の予防や発生時に対する備えをしていることを調べる。 ・消防団の入団人数が年々減少していることを知り，その中で訓練がどのように行われているかを調べる。 	・調査活動から，緊急時における素早い対応は，火災の予防や発生時に対する日ごろの備えによるものであることを理解できるようにする。	6 7 8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・電力会社，ガス会社（調査） ・消防団員数の変化 ・消防団訓練（調査）
4 団員が減っている中，消防団は本当に火災に備えたり，火災時の被害を最小限に防いだりできるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・効率よく動くための消防団の訓練，消防団を中心とした地域住民の防災訓練，消防団による設備の点検，地域の見回り活動，火災時における消防団の動きなどを関連付けて考え，話し合う中で，消防団の存在意義，地域の安全は互いに協力したり助け合ったりして守ること，自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることに気付く。 	・消防団の重要性という子どもの認識と，団員減少という事実とのずれから生まれた学習問題を追究する場を設け，関係諸機関の連携と，地域の人々との協力について理解できるようにする。	12 13 14 15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・火災時における消防団の動き（ビデオ） ・地域の防災訓練（ビデオ）

(2) 展開例② <消防署が近く，数も多い地域で，火災時には中央司令室からの連絡系統によって，多くの消防署が駆けつける地域の場合>（現在の岡谷広域消防）

学習問題	学習内容 学習活動	指導	時	資料
1 119番に連絡したらどこにつながるのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災時，どこに電話をするか考える。 ・119番に電話をしたらどこにつながるかを予想し，話し合う。 ・近隣の消防署につながるという予想に反し，通信司令室につながることに疑問をもつ。 	・「近くの消防署につながる」という子どもの考えと，通信司令室につながる事実とのずれから，その背景・要因を追究する学習問題を設定する。	1	・携帯電話
2 消防署に直接連絡が入った方がすぐに出動できるのに，なぜ通信司令室につながるのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署を中心に，警察，電力会社，ガス会社，消防団など関係機関が相互に連携して，火災が発生したときには一刻を争って対処していることを調べる。 ・火災発生時は，消火するだけでなく，人や車の整理，ガスや電気，水道を止めることなど，相互間の連携が必 	・調査活動から，消火活動には，消防署を中心とした関係諸機関の連携が必要なことを確かめるようにする。	2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷消防署調べ ・火災が起きたときの連絡体制

う。	要なことを知る。			
3 なぜ、電力会社やガス会社、消防団は火災の時に、すぐに行動できるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸機関が普段から施設・設備の整備や点検，訓練，広報活動などに取り組み，火災の予防や発生時に対する備えをしていることを調べる。 ・ 地域には消防団があり，消防署と協力して重要な働きをしていることを知る。 ・ 消防団の入団人数が年々減少していることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査活動から，緊急時における素早い対応は，火災の予防や発生時に対する日ごろの備えによるものであることを理解できるようにする。 	5 6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電力会社，ガス会社調べ ・ 消防団員数の変化
4 実際にどのようにして火を消しているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡谷は近隣の消防署が多く，出火時にはたくさんの消防署が集まって消火活動を行っていることを調べる。 ・ 大きな火災や災害時は近隣の消防署がすぐに駆けつけて火災に対処していることを知り，消防団の存在意義について疑問をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係諸機関の一つとして消防団を見だし，消防署と協力して消火活動を行っていることに着目させる中で，消防団の存在意義を考えていくようにする。 	9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消火内容調べ ・ 消防署数 ・ 消防団数
5 こんなに消防署が多くて火を消してくれているのだから，消防団の人数が減っていても大丈夫じゃないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率よく動くための消防団の訓練，消防団を中心とした地域住民の防災訓練，消防団による設備の点検，地域の見回り活動，火災時における消防団の動きなどを調べる。 ・ 調べたことと，それまで学習してきたことを関連付けて考え，話し合う中で，消防団の存在意義，地域の安全は互いに協力したり助け合ったりして守ること，自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部は消防署の数が多く，出火時にはたくさんの消防署から消防士が来るといいう子どもの認識と，消防団の団員減少という事実とのずれから生まれた学習問題を追究する場を設け，関係諸機関の連携と，地域の人々との協力について理解できるようにする。 	12 13 14 15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団の訓練や活動内容の調査 ・ 火災時における消防団の動き ・ 消防団の訓練（VTR）

(3) 展開例③ <消防署が近く，数も多いが，中央司令室がそれぞれの消防署内にあり，火災時には一つの消防署が駆けつけ消火活動を行う地域の場合>（かつての岡谷消防署）

学習問題	学習内容 学習活動	指導	時	資料
1 火災のとき，119番に連絡したら，	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災時，どこに電話をかけるかを考える。 ・ 119番に電話をしたら，どこにつな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「近くの消防署だけから駆けつける」という子どもの考えと， 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話

<p>誰が来てくれるのだろう。</p>	<p>がり誰が来るのかを予想し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の消防署だけが駆けつけるという予想に反し、警察、電力会社、ガス会社、消防団なども駆けつけることに疑問をもつ。 	<p>消防署だけではなく関係諸機関の人たちも駆けつける事実とのずれから、その背景・要因を追究する学習問題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集『わたしたちの岡谷』
<p>2 消防署の他に、どうして警察、電力会社、ガス会社、消防団などが来るのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署を中心に、警察、電力会社、ガス会社、消防団など関係機関が相互に連携して、緊急事態が発生したときには一刻を争って対処していることを調べる。 ・火災発生時は消火するだけでなく、人や車の整理、ガスや電気、水道を止めることなど、相互の連携が必要なことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動から、消火活動には、消防署を中心とした関係諸機関の連携が必要なことを確かめるようにする。 	<p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡谷消防署調査（見学） ・火災が起きたときの連絡体制
<p>3 なぜ、電力会社やガス会社、消防団は火災の時すぐに行動できるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸機関が普段から施設・設備の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防や発生時に対する備えをしていることを調べる。 ・地域には消防団があり、消防署と協力して重要な働きをしていることを知る。 ・岡谷を含む諏訪広域消防では、緊急司令室がそれぞれの消防署内にあり、個々に出動するのに対し、松本など他の都市部では、広域消防の通信司令室からの連絡により、たくさん消防署が駆けつけて消火活動を行っているという事実から、遠い場所で火災が起きた場合の消火活動はどうなっているのか疑問をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動から、緊急時における素早い対応は、火災の予防や発生時に対する日ごろの備えによるものであることを理解できるようにする。 ・調査活動から、諏訪広域消防では、他の都市部の広域消防とは違い、それぞれの市町村内で発生した火災に、遠い場所であってもほとんど一つの署で対処しているという事実を確かめるようにする。 	<p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力会社、ガス会社調査 ・消防団訓練の様子（VTR） ・松本広域消防の消火活動体制 ・岡谷市全図
<p>4 すぐに駆けつけてくれるとはいっても、火を消してくれるプロは岡谷消防署だけなのだから、遠いところはこ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効率よく動くための消防団の訓練、消防団を中心とした地域住民の防災訓練、消防団による設備の点検、地域の見回り活動、火災時における消防団の動きなどを調べる。 ・地域の消防団について調べたことと、それまで学習してきたことを関連付けて考え、話し合う中で、岡谷は特に消防団の存在が大きい地域であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷消防署は、日ごろの備えにより、火災が起こるとすぐに対処してくれるという子どもの認識と、まわりの消防署も駆けつける松本などは違い、岡谷は一つの消防署しか来ないという事実のずれか 	<p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団調査（分団長さんの話） ・火災時における消防団の動き（VTR） ・消防団員数の変化

れで本当に大丈夫だろうか。	・消防団の入団人数が年々減少していることを知り、消防団にかかる負担の大きさを考える。	ら生まれた学習問題を追究する場を設け、消防団が果たす役割と存在意義を考えていくようにする。	14	
5 こんなに消防団の人数が減っているのだから、消防団は負担が大きすぎるんじゃないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を火災から守るために、消防署や消防団、地域に住む人々が協力したり、助け合ったりしていることを考える。 ・調べたことと、これまで学習してきたことを関連付けて考え、話し合う中で、消防団の存在意義、地域の安全は互いに協力したり助け合ったりして守ること、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷は消防団の存在が重要で、団員もそれに応えようと訓練し活動しているという子どもの認識と、団員減少という事実とのずれから生まれた学習問題を追究する場を設け、関係諸機関の連携と地域の人々との協力について理解できるようにする。 	15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員のお話 ・地域の防災訓練の様子 ・学校の避難訓練の様子

4 本時案（単元展開例③の場合）

(1) 主眼

消防団への負担から、その存在意義を考える場面で、分団長さんが消防団を続けてきてよかったと感じているわけを確かめたり、自分たちの学校の避難訓練や地域の防災訓練の様子を見たりすることを通して、地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることが分かる。

(2) 本時の位置（全16時間中の第16時）

前時：学習問題を設定し、自分の考えをノートにまとめた。

(3) 指導上の留意点

- ・これまでに学習してきたことを想起したり、自分の発言の根拠を指し示したりすることができるように、今までの授業での板書の模造紙を教室の壁に掲示しておく。

(4) 展開

段階	○学習活動 ・予想される児童の反応	指導 評価	時間	資料
問題把握／	○学習問題について話し合う。		10	学習問題に対する自分の考えをまとめた学習ノート
	<p>【学習問題】こんなに消防団の人数が減っているのだから、消防団は負担が大きすぎるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡谷は消防署が一つしかなくて消防団の存在が大切なのに、消防団員の数が減っていたらとても大変だと思う。 ・消防団は自分の仕事があって、その中で消防団をやっているんだから大変だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に設定した学習問題と自分の考えを確かめるようにする。 ・これまでに学習してきたことを基に、自分の判断の根拠を 		

問 題 の 究 明 ／ 整 理 発 展	<ul style="list-style-type: none"> • どんなに大変でも、消防団がなければ困る。だから訓練して頑張っていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合うことで、消防団の存在意義を確かめるようにする。 	10	
	<p>【学習課題】消防団の人たちはどんなことにやり甲斐を感じているのか、話し合ったり調べたりしよう。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> • 消防署も自分たちを守ってくれるけど、自分たちの地域を一番近くで守ってくれるのは消防団だ。 • 消防団は大変だけど、自分たちが地域を守るんだという強い気持ちでやっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 分団長さんが消防団を続けてきてよかったと思っている理由を確かめ、大変な活動だがそれ以上にやり甲斐を感じて取り組んでいる分団長さんの思いに触れるようにする。 	10	分団長さんへのインタビュー VTR
	<p>○分団長さんが、消防団を続けてきてよかったと思っているわけを確かめる。(VTR)</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> • 仲間との絆や、地域とのつながりが深くなったんだ。 • 消防団の人たちも、地域の人たちから力ももらって頑張っているんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 消防団は地域を知り、地域から学び、地域の人々とかかわり合う中で地域の安全を守っていることが分かるようにする。 	10	避難訓練 VTR
	<p>○自分たちの避難訓練、地域の防災訓練の様子をみる。(VTR)</p>		5	地域の防災訓練 VTR
	<ul style="list-style-type: none"> • 自分たちもしっかり訓練をして、備えておくことが大切だと思う。 • 火災を起こさないように、日ごろから気をつけることも忘れちゃだめだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科日記に学習したことのまとめを書く。 		

5 教材研究

(1) 学習指導要領の内容

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、火災や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

(2) 児童の実態 (略)

(3) 素材研究

①岡谷消防署への聞き取り調査

諏訪広域消防 岡谷消防署への聞き取り調査

○119番に電話をすると、どこにつながるか。 → 通信司令室（岡谷消防署内）

○諏訪は、6市町村の消防署内にそれぞれ通信司令室がある。その後、ガス会社、電力会社、警察、消防団、市役所の福祉課（一人暮らしの高齢者がいる場合）などに連絡。（全て電話による連絡）

○消防団は、連絡網を使って電話で流す。（11分団＋消防本部）

- 防災メールは消防署員が打つが、出動を優先するので、すぐに情報を流すことはできない。
- 防災ラジオは市役所が流す。だから夜間は流せない。
- 携帯電話からの119番だけは、全て諏訪消防署の通信司令室に入る。その後、それぞれ近隣の消防署に配信される。
- 電話会社の都合で、携帯の配信箇所は各地区一カ所にしてほしいということで、諏訪地方はたまたま諏訪消防署になっている。連絡にタイムラグが生じてしまうため、他の諏訪広域の消防署にとって、携帯の119番が諏訪消防署に入るメリットはない。本来なら、それぞれの消防署に連絡が直接入った方が早く出動できる。

○諏訪広域消防の岡谷消防署、下諏訪消防署、諏訪消防署、富士見消防署、原消防署は分署を一つも持っていない。茅野消防署は山を抱えているので分署が二つある。

- 本当は、分署があった方が火災現場に早く駆けつけることができる。しかし、各市町村とも、財政的にも分署をつくって人を雇用し、機材を備える余裕はない。
- 本当は、通信司令室も諏訪広域で一本化した方がよい。

<一本化のメリット>

- ・ガス、電力、警察、消防団への連絡系統が整う。
- ・各消防署の中間地点付近で火災が発生した場合、より近い方の署が出動できる。また、同時に出動し、倍の機能で消火ができる。加えて、こちらの署は梯子車を用意し、そちらの署はポンプ車を用意するといった役割分担ができ、効率化につながる。(人材、資材の効率的な利用)

○分署もなく、通信司令室も一本化していない諏訪広域消防はどうしているのか。

- 率直にいうと、諏訪はこれで何とかなっているということ。
- 諏訪の平は山に住宅地が少ないので、各消防署ともに、一番端の地区であっても15分程度で到着することができる。岡谷消防署でいえば、川岸地区の一番外れまで15分で着く。(出動は常に1分以内) 全国平均の到着時間は7分だが、岡谷は一つの消防署でこれを保つことができている。
- 岡谷で一番遠い場所は、山を含めれば諏訪湖の森と高ボッチ。諏訪湖の森までは30分以上、高ボッチまでは40分以上かかってしまう。諏訪湖の森は、諏訪消防署から向かって同じくらいの時間がかかってしまうが、高ボッチは明らかに塩尻の消防署が行った方が近い。

<マイナス面を補うための工夫>

- ・各署からの距離を考えると、赤砂の辺りは岡谷署よりも下諏訪署の方が近い。大和も諏訪署より下諏訪署の方が近い。木落とし坂の辺りはバイパスが開いたので、下諏訪署よりも岡谷署の方が近くなった。そういう場合は広域連合ということで、連絡を取り合い、近い方が向かうようにしている。
- ・諏訪という場所は、消防団の存在は大きい地区だといえる。
- ・長野県は通信司令室の一本化を図ろうとしている。どこに本部をもっていくかは様々な問題があるため、一本化ないしは二～三本化になるだろう。
- ・広域化を進めて、より迅速な、より効率的な消火活動をしようと工夫している。

○消防団には、どんな協力をしてもらっているか。

- ①放水②鎮火後、再び火の手があがらないように、現場に残って警戒活動をしてもらう。③交通整理は、本来警察の仕事。
- 消防団はボランティアでやってもらっている。消防団は地元のことをよく知っている。現場に行くと、地元の人しか知らないようなこともある。細かいことは消防団に聞く。地元を知り尽くしている強み。
- 消防団はとにかく地域密着。(人が分かる。火災が起きた家に誰が住んでいるか、どんな家族構成か。年寄りがいるか、子どもがいるか。隣近所の住民は誰か、どんな人か。) だから、放水までの安全確認は消防団は長けている。
- 消防署員には人数の限りがある。また、機材も限りがある。消火は一分一秒を争う。消防署だけ

で消すよりも、消防団にも協力してもらった方が、多くの人数、多くの機材で迅速に消すことができる。

- 消防団は、普段から防災のための訓練や勉強をしてくれているので、いざというときに役立つ。これがいい加減ならば、協力してもらうことはできない。
- 消防団は他地区の消防団との交流があり、ネットワークや協力体制が整っている。

○火災防止のために

- 「消火栓、防火水槽の位置確認・点検整備」「車両機材の点検、整備」「24時間の勤務態勢」「日ごろの訓練」「広報活動」「立入検査」「学校や企業の避難訓練」「救急救命法講習」

②消防団への聞き取り調査

岡谷市消防団第二分団部長への聞き取り調査

○消防団の日ごろの活動

- ①防火のPR活動…火災予防の広報 ②消火栓の安全確認 ③一人暮らしの老人宅の火気点検
- ④降雪時の消火栓、防火水槽の雪かき ⑤河川の氾濫に備えた土嚢（どのう）作り
- ⑥お祭りの警備 ⑦操法大会に向けての練習 ⑧地区によっては少年消防団を組織

○火災が発生すると？

- 市の防災無線が流れる。 → それを聞いた団員から分団所に行く。同時に団員に電話連絡。
→ 4名集まったところで、ポンプ車出動。 → 現場に向かう。

○消火現場での活動

- ①消防署と協力して消火活動をする。 ②警察と協力して交通整理。
- ③火が鎮火しても、しばらくは現場に残る。火が再び燃え上がらないかどうかをずっと確認する。
- ④怪我をした人の応急処置。大怪我を負えば救急車で搬送。（消防署は火を消すことに集中）

○火災以外の災害時は？

- ①河川の氾濫、家屋の床上浸水…土嚢積み、水のせき止め ②豪雨災害…避難の広報活動
- 岡谷の豪雨災害の際は、湊地区で消防団員が亡くなってしまった。「避難してください」と一軒一軒呼びかけてまわっている最中に、土石流に飲まれてしまった。

○その他の仕事

- ①冬場の雪かき ②行方不明者の捜索…警察→消防署→消防団 ③山の遭難者の捜索

○消防団員の苦労と努力

- ①いつでも出動できるように気持ちと身体を整えておく。
火災は時間を選んでくれない。いつでも出動できる態勢を整えておく。
- ②みんなが自分の仕事をもちながら活動している。
昔は自営業の人が多かったが、今はほとんどが会社員。火事の時、会社が出してくれる場合もあれば、出してくれない場合もある。
- ③いろいろな種類の訓練
例えば、土嚢を作るにも作り方がある。ヒモを縛るにも縛り方がある。それを身に付ける。
・操法訓練 ・ロープワーク訓練 ・中継訓練（市の訓練、各分団の訓練）
また、操法練習などは、みんなが会社に行く前の朝早い時間から始める。練習のための早起きも辛いことの一つ。
- ④土日返上で活動
お祭りの警備は、ほとんどが土日。多くの土日休みを消防団活動に当てている。

○どうして消防団をやっているのか。

- 一番は仲間とのつながり。一緒にやっていて楽しいという人間関係のつながり。
- 消防団に入っている、さぼって出ないことだってできるわけだから、やはり、よい仲間がいる

からやっつけられる。

○消防団の問題点

○団員の減少

名簿上はあまり減少していないが、実際に出てきて活動できる人がとても少なくなっている。新しい人が入らないので、団員の年齢が高くなってきている。是非、若い人に入ってもらいたい。

(4) 素材の教材化

関係機関は地域の人々と協力して、火災の防止に努めていることと、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることが理解できるように、消防署の通信司令系統に着目した。すると、地域によって連絡系統に違いがあることが分かった。なかでも諏訪広域消防のように、通信司令室が署内にある地区では、火災時に駆けつける消防署数が少ないことから、消防団の存在が大きいことが見えてきた。そこで、関係諸機関の一つとして消防団に着目させ、自分の地域にとっての重要性に目を向けるようにする。

子どもたちは、消防団について調べ、団員の努力や苦勞に触れることで、消防団の重要性を認識するであろう。しかし、それだけ重要な役割を担う組織であるにもかかわらず、どの地区の消防団も団員の減少という問題を抱えている。消防団はその地域に根付いた組織であり、地域や人を熟知している。消防団の方々に話を聞いてみると、その地域ならではの様々な工夫や努力に出会う。

関係諸機関の一つとして消防団を取り上げることは、地域の安全は互いに協力し合って守ることや、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることを考えることにつながるであろう。

6 授業の記録（単元展開例③）

【第10時】＜岡谷消防署と松本広域消防の通信系統の違いから見いだした学習問題について考える＞

T : 堯士君は、感想で「通信司令室はハイテクだと思っていたけど、そうでもなかった」って言ってたよね。これは松本広域消防局の通信司令室だよ。(渚の通信司令室の写真を見せる)

堯士 : 岡谷の通信司令室に比べると、松本はすごいね。すごいハイテク。

稜治 : 一度に二カ所で火災が起きたときとか、岡谷は大丈夫かな。

勇斗 : 消防団がいるよ。だから消防団が大切なんだよ。

駿太 : 火災の場所が、消防署から遠いときだって困るよ。

T : 高ボッチまでいくには40分以上かかってしまうんだよ。

尚昭 : 大火災のときだって大変じゃない。

T : 消防署や消防団、ガス会社や警察などが、すぐに駆けつけてくれるけど、火を消すプロは誰なの。

大輝 : プロは消防署だけだよ。

蒼 : 消防団も火を消すよ。

堯士 : でも、消防団はみんな他に仕事を持っている人たちだから、プロじゃないよ。火を消すのが仕事なのは消防署だけだよ。



[消防署の場所を確かめている様子]

【学習問題】すぐに駆けつけてくれるといっても、プロは消防署の人だけなのだから、大火災のときや一度に二カ所火災が起こったとき、火災の場所が消防署から遠いときは、本当に大丈夫なのか。

蒼 : 大丈夫じゃないと思う。消防団も手伝いに行くけど、それでも人数が足りなくて困ると思う。

太：岡谷は消防署が一カ所しかないんだから、遠いところは大丈夫じゃないよ。
 優季：大火災や山火事は、大人数で消さなければ消えないと思うよ。
 大輝：消防団に活躍してもらわなければいけないよ。
 礼子：たとえ火災が小さくても大丈夫じゃないよ。火災は時間がかかれば広がっちゃうし。
 稜治：僕は大丈夫だと思う。災害が大きいときは、他の消防署にも来てもらうから。
 駿太：でも、他の消防署から来たんじゃないよ。
 堯士：他の消防署は自分の地域が優先だからさあ。
 T：みんなが一番心配していることは何。
 加奈：人が少ないってことです。
 T：でも、今現在、岡谷や諏訪は、これでやってるんでしょ。
 勇斗：みんな本気でやっているから、やれていると思う。
 大輝：全力なんだよ。消防署の人も消防団の人も、他の電力会社の人もベストを尽くしているんだよ。
 蘭子：火を消すってことは、遊び半分な気持ちでやっていたら、自分の命もなくなってしまいます。
 優季：人の命にも自分の命にもかかわることだと思う。
 大輝：岡谷には消防団が11分団あるから、助けてくれる。
 駿太：うん。手伝ってくれるっていうか、協力してくれる。
 T：よし、じゃあ、消防団についてもっと調べようか。
 駿太：消防団がどのような働きをしているか、調べるってことだ。

〈社会科日記〉

○今日分かったことは、松本は消防署がいっぱいあって、火災があってもいっぱい駆けつけるけど、岡谷は消防署が少ないから大変だと分かりました。(勇斗)
 ○今日は、一度に二カ所で火災が起きたら大丈夫？と考えました。ほとんどの人は大丈夫じゃないけど、勇斗君は、消防団が11分団あるんだから大丈夫と言っていました。(堯士)

《考察》 火災が起きたとき、消防署だけではなく関係諸機関が相互に連携をとって対処していることや、それぞれが火災を未然に防ぐための努力をしていることを知った子どもたちは、自分たちの生活が守られていることに安心感を抱きました。そこで、より最新の通信指令システムで火災に対応している地域があることを伝え、子どもたちの認識を揺さぶりました。すると子どもたちは、自分たちの地域では消防団の存在が大切なことに気付き始めました。消防団活動についてより詳しく追究していくことが必要だと感じた子どもたちは、意欲的に調査活動へと向かっていきました。

【第11～13時】〈消防団の取組についての調査活動〉

- 岡谷市の消防団について調べる。
 - ①岡谷市3分団合同訓練兼子ども体験学習（小学校の校庭で実施してもらった）のVTRを見る。
 - ②女性消防団員として活躍しているの蒼君のお母さんが作ってくれた手作り資料を配り、蒼君に内容を発表してもらおう。
 - ③それらのVTRや資料から分かったことを付箋に書き、模造紙に貼っていく。
 - ④次の時間に学区の第3分団長さんを授業にお呼びすることを伝え、自分たちで調べてみても分からなかったことや、質問したいことをグループごとにまとめる。



〔市3分団合同訓練 子ども消防団体験〕

○岡谷市消防団第3分団長をお呼びし、消防団活動についてお聞きする。

子どもたちが分団長に聞いたことと、答えていただいたこと（抜粋）

Q：岡谷市の消防団は、全部で何人ですか。

A：定員は549名で、実員（実際に入っている人）が538人です。だから、11人足りないということです。

Q：出動してから現場までは、速く行けるんですか。

A：出動してから火を消すまでは、いつも訓練をしているので時間はかかりません。

T：いつも訓練をしているとおっしゃいましたが、どんな訓練をしているのか教えてください。

A：ポンプ操法といって、競技大会があります。どれだけ速く正確に水を当てることができるかを競う大会です。その大会に向けて、4月～6月の朝4:30から小学校の校庭で練習しているんですよ。

Q：消防団をやっていて大変なことは何ですか。

A：夜でも、何か起こったら出て行くことが大変ですね。みんな仕事をもっているのに、訓練や練習は、朝早くにやります。早起きも辛いですね。

Q：仕事を抜け出して怒られたことはありますか。

A：たくさんあります。でも、火災を消しに行くのは大切な消防団の仕事なので、「ごめんなさい」と会社に謝って許してもらっています。

Q：近くの消防団と協力していますか。

A：岡谷市の消防団はもちろんですが、市や町が違っても協力しています。

Q：消防団も24時間ですか。

A：24時間いつでも出動できるように準備しています。

Q：火を消すこと以外に、どんなことをしていますか。

A：パトロールや警戒活動をしています。夜警といって、夜、消防車で火災を起こさないように地域に呼びかけています。

C：朝早い練習に遅れる人はいないんですか。

A：たくさんいます。みんな仕事をもっているから辛いんですよ。

辛いといえば、平成18年の岡谷の大災害のときは、もうパニックでした。消防団はみんな1週間以上、被災地に泊まり込みました。

Q：消防団は、火災以外も行くってことですか。

A：水害や行方不明者の捜索が、とても多いんです。今朝も、行方不明者の捜索要請があったんですよ。でも、出ようとしたら見つかったということなので、結局出ませんでした。

T：平成18年の岡谷の災害のとき、消防団の方が亡くなってしまったんですよ。

A：消防団員が、土石流という土や石に巻き込まれて亡くなってしまいました。私も現場に行きましたが、家も人も何もなし。跡形もありませんでした。



【第3分団長をお招きした授業】

《考察》 地区の消防団にお願いして実施していただいた合同訓練（兼 子ども体験学習）は、消防団の仕事と団員の真剣さを子どもたちに伝えてくれました。女性団員として長年活躍してきた蒼君のお母さんは、熱い気持ちで消防団の活動内容を記した資料を作ってくれました。分団長さんをお招きしての学習では、消防団の仕事内容に加え、この地域ならではの苦労や努力についてお聞きすることができました。また、ここまでの調査活動の中で疑問として残ったことを直接質問することができたので、子どもたちは、要点的に消防団活動についてまとめていくことができました。

【第14時】＜学習問題について、学習してきたことを活用して考え合う「話し合い」＞

【学習問題】すぐに駆けつけてくれるといっても、プロは消防署の人だけなのだから、大火災のときや一度に二カ所火災が起こったとき、火災の場所が消防署から遠いときは、本当に大丈夫なのか。（第10時から続き）

直樹：別々の場所で同時に火災が起きたときだって、消防団長の指示で分かれて行って言ったし、大丈夫だと思います。

蒼 : 消防団も11分団あるし、近い消防団が行くんだから大丈夫です。
勇斗 : でも、遠ければ遅れると思います。
大輝 : 付け足しで、遠ければ遅れて燃え広がってしまうと思います。
駿太 : 消防団は、火災の現場が遠くても全力で行って全力で消しています。それに、消防団と消防署は丸になっ
ています。
尚昭 : 消せない火はないって言ってました。
T : 大丈夫じゃないって人たちは、山火事や遠いときは、消防団の到着が遅くなって燃え広がってしまう
ってことだね。大丈夫だって人たちはどういうこと。
駿太 : 遠くても山火事でも消しているし、近くに土がなくても砂を使って消している。それに協力が来るし、県
のヘリコプターも来る。
T : 協力って？
C : 他の地区や市町村からも応援が来るってこと。諏訪の6市町村。岡谷の11分団も。
堯士 : こんなに対策がとれているんだから大丈夫でしょ。
C : だから、消防署や消防団の人が協力して、えっと協力し合っただよ、岡谷市を守ってくれているってこと。
駿太 : 消防署と消防団だけじゃないよ。
C : そうそう、警察やガス会社や電力会社や、いろいろなところの協力がある。
T : 大丈夫じゃないって考えていた人たちはどうだろう。
大輝 : 平成18年のときの災害で消防団の人が亡くなってしまったのも、人の命を助けるためだったんだよね。
勇斗 : やっぱり守られていると思う。
駿太 : みんなを守るのは大変な仕事だなあ。
T : 駿太君は、特にどんな人たちが大変だと思うの。
駿太 : 消防署も消防団も警察もガス会社も電力会社も大変だと思うけど、やっぱり僕は、消防団が一番大変だと思
う。
T : どうしてそう思うの。
駿太 : だって、消防団は他の仕事をやっているのに岡谷市を守っているんだから。
堯士 : 夜も、24時間で守っているんだもん。
大輝 : 自分の地域も、みんなの命も守っている。
勇斗 : 仕事を抜けて行かなきゃいけないし、命がけで助けているんだから。
加奈 : 疲れているのね。
駿太 : それにねえ、消防団の人はプロじゃないけど頑張っているよ。
大輝 : 自分の命も大事だけど、人の命も大事にしている。

〈社会科日記〉

岡谷は消防署が一カ所しかないから、遠くで火事が起こったときは大丈夫じゃないと思っていたけど、消防団の活躍について調べたら、僕たちは守られているなって思いました。消防団は火を消すプロじゃないけど、自分の仕事があるのに火事が起きたら来てくれるし、一番大変だと思いました。(駿太)

《考察》 火災の際、松本などの広域消防とは違い、岡谷は一つの消防署で対応していることから、自分たちが本当に守られているか不安を抱いていた子どもたちでしたが、調査活動を通して、地域の消防団の役割や苦勞、努力を知ること、関係諸機関が協力し合い、災害から人々を守ってくれていることを強く感じるようになりました。中でも子どもたちは、消防団が自分の仕事をもっているのに、それでも消防署と協力して地域を守ってくれていることや、地域の人々の命を守ってくれていることに対し、本当に大変な仕事だと感じていました。消防団が地域にとって欠くことのできない存在であることは、どの子の目にもはっきりと映り始めました。

【第15時】＜資料から、新たな学習問題を設定＞

T : 実は昨日の授業が終わった後で、分団長さんが、消防団は困っていることもあるって言ってたんだ。何が困っているのか、話してくれているところをビデオに撮ってきたから見てください。

【岡谷市消防団第3分団長さんのお話】(VTR)

- ・岡谷市の消防団は定員549人に対して実員が538人なので、形の上では11人足りないだけだが、実際に出てきて活動しているのは、その半以下である。
- ・なかなか若い人が入団してくれないので、消防団員の年齢が高くなってきている。本当は主力が20代であってほしいが、実情は30代～40代が主力になっている。
- ・みんなには、大人になったら是非、消防団に入ってほしいと願っている。

優季：え～、本当なの。本当に大丈夫なの。

大輝：だけど、少ない分、訓練して頑張っているから。

勇斗：来ない人の分まで、来ている人が頑張ってる必死になってやっているんだよ。

駿太：ちゃんとみんな来てほしいね。

大輝：疲れとか早起きとか仕事が遅くまでで眠いとか、ストレスとかが原因じゃないの。

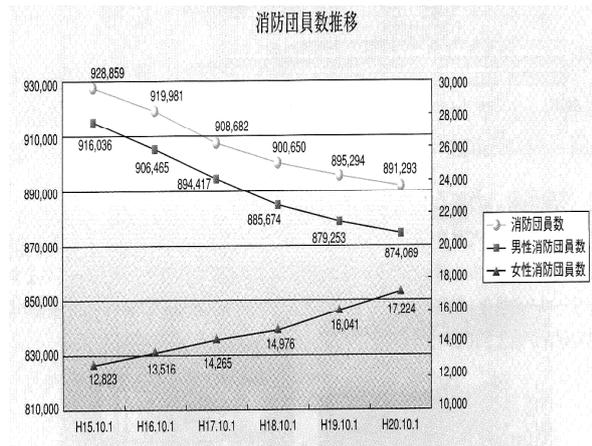
T : 第3分団の定員は何人だったか。

C : 35人。

T : 実際に入っている人は何人か、このプリントを見てください。

3 消防団の情勢 (平成21年10月1日現在) (人)

種別	所属	分団											合計	
		本部	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団	第6分団	第7分団	第8分団	第9分団	第10分団		第11分団
定数		39	35	35	35	35	45	55	55	45	70	60	40	549
実員		34	35	35	35	34	45	55	50	45	70	60	40	538
	うち女性団員	17		5	3	2				5		5	3	40
	うち機能別団員		1	1		6	10		1		10	13		42



出典：『守れわがまち』21年度版 (財団法人日本消防協会)

堯士：実員も35人だ。第3分団は大丈夫だ。

T : でも、この前の市3分団合同訓練のとき、第3分団長さんは、消防団長に参加何名って報告してた。

C : あっ、9名だ。35人中、9名しか練習に来なかったってことかあ。

C : 日本中、消防団の数も消防団員の数も減っているね。

T : みんな思うことは？

C : 訓練が朝早くて眠すぎる。自分の仕事もあって疲れている。

C : ストレスもある。年齢が高くなれば体が弱る。

C : 大人は仕事がいっぱいある。訓練も厳しい。病気になっちゃう。

T : 今、みんなが言ったことをまとめて言えばどうなる。

C : 大変すぎる。苦勞しすぎる。

T : まとめて学習問題にしてみよう。

【学習問題】実際に活動している消防団の人数が減っているし、年齢が高くなってしまっているのだから、消防団は大変すぎるのではないか。

○学習問題に対する自分の考えをノートに書く。

【考察】 子どもたちは、これまでの学習の中で、岡谷の消防団は消防署をはじめとする関係諸機関と連携し、命がけで地域を守ってくれていますが、それだけに本当に大変な仕事であると感じていました。そこに、消防団の実働員数が定員の半以下になっていることと、団員が高齢化している事実を提示しました。すると、活動が大変な上に人数が減少しているなんてどうなってしまうんだという驚きと不安の声が子どもたちの中から湧いてきました。子どもたちは、消防団にかかる負担に着目し、消防団の存在意義をもう一度考えていこうと動き出しました。

【第16時】＜学習問題について、学習してきたことを活用して考え合う「話し合い」②＞

【学習問題】 実際に活動している消防団の人数が減っているし、年齢が高くなってしまっているのだから、消防団は大変すぎるのではないか。(第15時からの続き)

蘭子：消防団は大変すぎると思うけど、頑張らないと火災になったときに、火が消せなくなるから頑張っているんだと思います。

駿太：だから、消防団は体に気をつけなきゃいけないね。

C：消防団だけじゃないよ。消防署の人も警察も。ガス会社も電力会社も。

T：蘭さんが、消防団は大変すぎると思うけど、頑張らないといけなくて言ってくれたね。消防団は大変すぎるけど、それでも地域の安全のために頑張っていることについて考えてみよう。

大輝：頑張らないと、怪我人が出てしまうよ。

蒼：人を助けなければいけないんだから、それに人の命を助けるのも消防団の仕事なんだから、その気持ちがあるんだから。

堯士：自分の命のことも考えて、気をつけないといけないと思う。火災現場は危険なんだから。

T：この前の分団長さんのお話の中で、もう一度みんなに聞いてもらいたいことがあるんだ。(VTR)

【VTR】 分団長さんは、どうして消防団に入ったんですか。(たかや)

→ 強引に入れられたんです。でも、今は入ってよかったあとと思っています。

- <理由>
- ・まず、区のいろいろな人たちと友達になれた。
 - ・先輩も後輩もたくさんきて、仲間がたくさんできた。
 - ・岡谷の地域のことを、とてもよく分かるようになった。ここにはこんな道があった、ここにはこんな人が住んでいたってね。
 - ・他のいろいろな所の人と友達になれる。長地の人や、もっと遠くの諏訪の人とかね。仲間が増えるってことですね。

○VTRの中で、分団長さんが言っていたことを子どもたちに復唱させ、黒板にまとめる。

駿太：消防団をやっていて嬉しい、楽しいって感じだね。

蒼：消防団の仕事は大変なんだけど、仲間ができたりするのがいいんだよ。

駿太：それに地域のことを知ったり、辰野さんは、やっていてよかったなあと思っている。

T：やり甲斐って分かる？

加奈：分かる。消防団の仕事はやり甲斐があるんだと思う。

駿太：苦しいときもあるけど、続けていてよかったなあって思っていると思うよ。

稜治：大変すぎても、仲間と一緒にうれしいし。

T：消防団の仕事ってどう。

駿太：消防団の仕事はすごい。

蒼：人を助けることは、かっこいい。

T：ここでもう一つ、見てほしいVTRがあります。

○岡谷小学校避難訓練のVTRを見る。

T：これは何をしているところ。

悟：いつ火災が起こってもいいように、自分たちが訓練をしているところ。

T : 岡谷市の防災訓練が、この前あったね。

C : 知ってる、知ってる。小学校の校庭でやってた。

T : 今、悟君が自分たちが訓練をしているって言ったけど、自分たちって誰のこと。

C : 僕たち、子ども。市の防災訓練は、大人も子どもも。地域の人。

C : 消防団や消防署の人も、防災訓練、一緒にするよ。お年寄りもする。

堯士：備えることが大事ってことだよ。

優季：自分たちもしっかり訓練して、いつ火災が起きてもいいようにすることが大事だと思う。

加奈：自分の命を自分で守るってことが大切です。

T : 備えるって、火災が起きたときのために備えるだけかな。

優季：火災を起こさないようにする。

T : 誰が。

C : みんなだよ。自分たち一人一人。

蒼 : みんなが普段から気をつけて生活することで、火災は減ると思う。

大輝：消防団や消防署の人に頼ってばかりじゃいけないと思う。自分たちで、できる限りのことをしないとけないと思います。

稜治：消火器や消火栓の使い方を、もっと勉強したい。

勇斗：自分たちで何とかしようと努力しなきゃいけないと思う。

蘭子：消防署も消防団も、命を助けなきゃいけないし24時間だし、忙しいから、自分たちでできることはしなきゃいけないと思う。

優季：みんなで火災を起こさないように協力するとか、勉強するとかしたいです。

〈社会科日記〉（本単元を通しての感想）

○この勉強をして思ったことは、消防団や消防署の人たちは、僕たちの倍疲れていたり、努力していたり、苦労している。だけど、分団長さんは人と友達になれていい、地域の道が分かっていると言っていました。それで、火を消すことは難しいし疲れるし大変だけど、いくら疲れていても、火の中に人がいたら休んでられない。頑張って火を消さなきゃ、そういう気持ちがあるからこそ、人を助ける仕事が好きになったり、自分の命がなくなるかもしれないのに、人の命を助けることができると思いました。あと、消防団の人たちや消防署の人たちは疲れているから、なるべく自分たちの近くで小さい火災が起きたら、消防団の人や消防署の人たちが来る前に、なるべく自分たちで消さなきゃいけないと思いました。見学に行ったりみんなと考え合ったりして、本当に楽しかったです。（蒼）

○消防団や消防署は大変だけど、頑張っていてすごいカッコいいと思いました。でも、それでも大変だと分かりました。だから、僕たちは、なるべく火災を出さない努力をしたいです。でも、もし火災が起きたら消火器で火を消して、なるべく消防団を出さないようにしたいです。そのためには、避難訓練や、火災を出さないためにはどうすればいいのかを考えないといけないと分かりました。（尚昭）

《考察》 負担のかかる消防団の活動に加え、消防団の人数が減少していることや、高齢化の事実に触れた子どもたちは、消防団はあまりにも大変すぎるのではないかと考えていきました。そこで、分団長さんがおっしゃった、「消防団に入ってよかったと思っている」ということの意味を考え合うことにしました。そこには、大変なことであっても、地域のため、地域の人々のため、その命を救うために活躍している消防団に、「カッコよさ」を感じる子どもたちの姿がありました。その後、「自分たちの避難訓練の様子」のVTRを見た子どもたちは、自分たちもしっかりと訓練をして火災に備えることが大切であることに気付き始めました。お母さんが女性消防団員として頑張ってきた姿を見てきた蒼君は、単元の最後に、命の現場に身を置いて真剣に取り組んでいる消防団員の思いを想像し、ノートに書き留めました。

【ロボット体験学習】

- 1 単元名 「それいけ カニロボちゃん」
- 2 ねらい

テクノプラザ岡谷で、たわしやゴムなどの身近な材料を使ったロボット製作体験をした子どもたちが、多脚ロボット（カニロボちゃん）の部品の金属板を、自身がペンチを使って曲げたものと工場で成型加工されたものの曲がり方の比較をしたり、様々な大きさのねじ締め体験をしたりすることを通して、多脚ロボットがパソコン上のプログラミングにより遠隔操作で動くおもしろさや不思議さを感じ、ふるさと岡谷の特色である工業やものづくりに対する興味や関心を抱くことができる。

3 学習の実際

学習活動	子どもたちの様子
<p>1 カニロボちゃんと出会う。</p> <p>①事前に教師がプログラミングしたコマンドの通りにパソコン上の遠隔操作で動く多脚ロボットと出会う。</p> <p>2 身近な材料でお掃除ロボを製作する。 【材料】たわし、モーター、電池ボックス、電池、導線、ゴムチューブ、ねじ、セロハンテープ</p> <p>①説明書を見ながら製作の手順を確認する。 ②手順に沿って製作する。 ③完成したら、電池を入れて動かしてみる。 ④感想を聞き合う。 ⑤片付けをする。</p>  <p>3 お掃除ロボと遊びながら、ロボットの仕組みを考える。</p> <p>①お掃除ロボはどんな部品からできているか考える。 ②お掃除ロボとカニロボちゃんを比較し、対応する仕組みを考える。 ・特に取り上げる部品：電池、モーター、フレーム</p>	<p>・「わあ、動いた！」と声を上げ、遠隔操作で手を振って動く多脚ロボを、身を乗り出すようにして見ている。</p> <p>・「たわしでロボットが作れるの？」と、材料を見て驚き、本当に完成するのか疑問を持ちながらも、にこやかな表情からはどんなロボットが完成するのか期待を抱いている。</p> <p>・「動いた！うわ～変な動き」、「クルクル回っておもしろいね」とつぶやき、電池を入れると回転するねじの働きで、机の上を様々な動きで走り回るお掃除ロボの様子をうれしそうに眺めている。モーターの位置などによって動き方が違うため、友だちのロボと動き方を見比べたり、真っ直ぐ走らそうと熱心に位置の調節をしたりする。</p> <p>・「カニロボちゃんもこのお掃除ロボと一緒になんだね」と、自分が作ったお掃除ロボと、精密なカニロボちゃんとは、同じような仕組みで作られていることに気づく。</p>
<p>4 金属板を手で曲げたり、道具（万力）を使って曲げたりする。</p> <p>①カニロボちゃんの複雑な形状の部品は、もともとは平らな金属板だったことを確かめ、どのようにして複雑な形状にしたのか予想する。</p> <p>②自分の素手で金属板を曲げることができるか試す。 ③万力で固定した金属板をペンチを使って曲げることができるか試す。</p>  <p>④道具を使って曲げた金属板とカニロボちゃんの部品との曲がり方を比較し、その違いを考える。</p> <p>⑤こうした部品を作る工場が岡谷市内にあることを知り、その加工の様子をビデオ映像で見る。 ・大きな金属板から必要な分をレーザー技術で切り取る工程 ・何トンもの圧力で固い金属板を曲げる工程</p>	<p>・「叩いて曲げたと思う」、「熱を加えて曲げたと思う」と、これまでの経験をもとに予想をする。</p> <p>・自分の力だけで曲げようと張り切って取り組んだが、「固い。全然曲がらないよ」と、金属板の想像以上の固さに驚き、人の力だけでは曲げることは難しいのではないかと考えている。</p> <p>・ペンチを使うことでぐにゃっと曲がる金属板の様子やその手応えを感じ、「すごい。ぐにゃって曲がったよ」とつぶやく。</p> <p>・「カニロボちゃんはカクカクしてるけど、自分たちの丸いよ」と、金属板が曲がったことは同じでも、その曲がり方に大きな違いがあることに気づく。</p> <p>・普段見たことのないレーザーで必要な金属片を切り取る様子や、平らな金属板をあっという間に角を立てて曲げる様子を見て、「あっ、曲がった」と声を上げる。</p>

<p>⑥機械の圧力がかかる実際の刃の部分を持つてみる。</p> <p>5 カニロボちゃんですべてに使われている部品同士を、ねじを使って接続する。</p> <p>①カニロボちゃんの部品同士はどのようにして接続しているのか予想する。</p> <p>②カニロボちゃんの接続方法であるねじ止めによって、金属板同士を接続する。</p>  <p>③カニロボちゃんですべてに使われている部品同士をねじ止めして接続する。</p> <p>④カニロボちゃんを組み立てるために、細かなねじ止めを実際にはどれくらい行うのかを確認する。</p> <p>6 パソコン上でプログラミングし、カニロボちゃんを遠隔操作する。</p> <p>①操作方法を確認する。</p> <p>②3人グループで、パソコン上でプログラミングし、カニロボちゃんを遠隔操作する。</p> <p>③感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に圧力がかかる刃を持ち、「うわっ、重たい」と声を出した子どもたちは、非常に大きな力、重さを加えることによって、カニロボちゃんの角が立った部品が作られていることに気づく。 ・「このイスみたいに熱でくっつけている」、「ボンドみたいなものでくっつけている」、「ねじでくっつけている」と、これまでの経験や身の回りの工業製品の様子を根拠にしなが予想を立てる。 ・「簡単にできたよ」と、子どもたちは、ねじ穴にねじが入っていく手ごたえを確かめながら、比較的スムーズにねじを締めていく。 ・直前のねじ止め体験のねじの大きさとカニロボちゃんですべてに使われているねじの大きさを比較し、「ねじが小さすぎだよ」と、その細かさに驚きを感じる。うまくねじが入らなくても何度でも挑戦し、細かいからこそ付けてみたいという意欲が高まっていく。 ・「そんなにも多いんだ」と、細かいねじ止めを実際に経験したからこそ、カニロボちゃんの精密さに対する驚きを強く感じていく。 ・「こんにちは」と、カニロボちゃんに語りかけ、目の前のロボットを「もの」ではなく、「新しい友だち」にも似た存在として捉えていく。 ・「じゃあまたね、カニロボちゃん」とつぶやきながら手を振り、名残惜しそうに教室を去る。
---	--

4 活動後の子どもの振り返り

<p>最初にカニロボちゃんを見て、手をふったりして、「かわいいなあ」と思いました。でも、次にやったおそうじロボも、「かわいいなあ」と思って、持ち帰ることができると言われてうれしかったです。名前は、「ハリー」にしようと思います。ハリネズミみたいだからです。カニロボちゃんが、こっちに来たり、『ダンス〜』したり、見ていておもしろかったです。この授業で、「工業についての見方が少し変わったな」と思っています。岡谷はすごいなあ、またあらためて感じました。またあると思うと、すごく楽しみです。ありがとうございました。今後の授業も楽しみに待っています。(Sさん)</p> <p>ねじどめは本当に小さくて手がふるえてしまったけど、鉄まげはぐによっとまがってとても楽しかったです。カニロボちゃんは、思いどおりに動かしてとても楽しかったです。岡谷にそんな工場があるとも思いませんでした。とてもびっくりしました。このものづくりが未来へつづいてほしいです。私は機械作りなどが大好きなので、とても楽しかったです。またすぐやりたいです。またこういう授業をやりたいです。(Yさん)</p>	
--	---

5 考察

工業製品に囲まれて生活をしているにも関わらず、工業へのなじみや関心が高くはない子どもたちであるが、身近な材料（たわし）を用いたお掃除ロボットの作製や鉄板曲げ、ねじ締め体験をしながらすることで、ものづくりや工業技術の一端を手ごたえや感触から鋭敏に感じ取っていた。その上で、精密な多脚ロボットを自身のプログラミングによって遠隔操作したことで、岡谷の工業技術の凄さというものへの気づきが生まれた。このようにして、工業自体や高い工業技術を有する多数の企業を抱える岡谷市に対する一人ひとりの見方が変わり、ものづくりへの興味・関心が生まれ、心の距離感が近づいたことは、多脚ロボットを「もの」ではなく、「もの以上の存在」と見て語りかける児童の姿が物語っていた。

■ コラム 遠足での地図活用

「国土地理院の地形図」を活用して遠足を楽しもう！！

フィールドで「地図記号」「縮尺」「等高線」を習得しよう！！

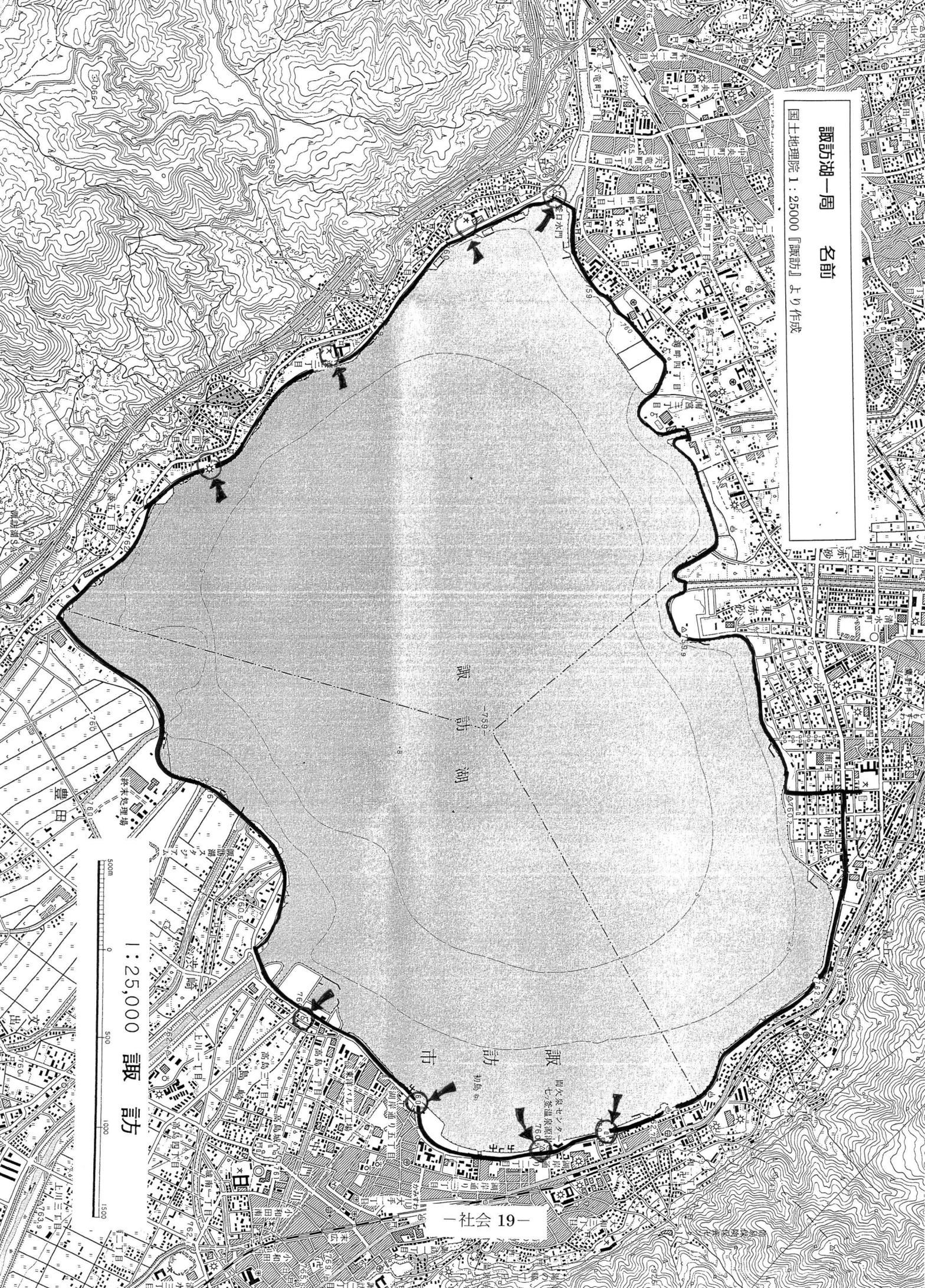
- 児童が理解しにくい「等高線」・「縮尺」だが、定着させる最良の方法は実際にその場に行き体感し、使用して有効性を知ることである。
- 地図記号を活用した4学年の「諏訪湖一周遠足」を紹介する。
- 「国土地理院発行地形図」の活用で地図を学ぶとともに遠足をより充実した行事にすることを提案したい。

事例「地図記号」を利用し、自分の位置を確認して歩いた『諏訪湖一周遠足』

【4学年】 使用地形図 1：25000 『諏訪』

- ◆ 諏訪湖の一周約 16km は起伏が無く変化に乏しいコースのため無目的に歩くだけで終わってしまう。だが 1：25000 地形図を使い3学年で学んだ地図記号から現在地を確認することで児童は楽しく一周できた。
- ◆ 事前学習で児童にコースに赤線を引かせ、コース上にある目標物をチェックさせた。児童が着目したのは「学校」「煙突」「電波塔」「石碑」の地図記号だった。遠足で実際に歩くと「電波塔」は格好の目標物だった。諏訪建設事務所釜口水門・SBC 放送局の高いアンテナは遠くからも見通せた。また「旧味澤製糸」の「煙突」は道中で一番高い目標物だった。こうして児童は目標物を手がかりに自分の現在地を認識した。また、湊小学校や岡谷南部中学校、三角点の場所を確認し、石碑をも手がかりにした。さらに児童は地図記号だけでなく諏訪湖に流れ込む川にも着目し、限られた地形条件から現在地を読み取るスキルを身に付けた。

諏訪湖一周 名前
国土地理院 1:25000 『諏訪』より作成



1:25,000 諏訪方

【生活科 「わたしたちの北庭」から（2年生）】

【子どもたちの姿のとらえ】

1年生時から継続的に北庭での活動を続けてきた。春夏秋冬、四季折々の北庭で活動を重ねていく中で、子どもたちにとって、北庭は思い入れのある大切な場所になっていった。また、2年目は、1年生のときには気がつかなかった自然のよさを感じている姿や、北庭の自然を生かした遊びをつくり出す姿などが現れてきた。

【教師の見通しと願い】

子どもたちは、楽しさを実感できたときに動き出すであろう。ここまでの活動の積み重ねの中で、北庭は自分たちの居場所であり、放っておいてもものめり込める場所になっている。自分たちの北庭に冬が来た。そこで、冬の北庭のよさやそこでの遊びの楽しさを味わってほしいと願い、冬の北庭遊びを計画した。

子どもたちの様子

2月に入り、朝の会から2時間目休みまで北庭で過ごす時間をとった。

野球に夢中になっているF男とU男は、前の日から野球の道具を持ってきていいか担任に尋ね、北庭で野球をすることを楽しみにしていた。当日、朝の会が終わったあとも、太い枝を拾ってきてバットの代わりにし、ボールを使って広場で野球を楽しんでいた。

担任が、しばらく他のグループとともに山の中で遊びを楽しんでいるとK子が氷を見せにきた。

K子：「見て、ここが七色になってるでしょ！特別な氷なの！」

見ると、欠けた部分が光の具合で七色に光っていた。まだまだたくさん氷があるから見に来てほしいとのことだったので、担任もK子のところへ行くことにした。

K子は、M子・R子・H子とお家ごっこをしていた。それは、F男・U男が野球をしている広場と隣合わせになっている。広場に行ってみると、担任も予想できないほどの数の氷が置いてあった。

担任がただただ驚いていると、そこへU男が大きな氷を誇らしげに運んできた。聞くと、北体育館の裏で採っているとのこと。

見に行くと、野球をしていた男子や他の遊びをしていた女子、クラスの4分の3が集まって氷を採っていた。H子・K子・M子・R子でお家ごっこをする中で、お料理の材料がほしくなり、前回、氷が採れた場所へ行ってみたようだ。

すると前回とは違って、屋根に積もった雪の固まりが落ちたものが何個もあり、さらにそれが凍りついていて、その中でも採りやすいものを採ってステーキに見立て、お家ごっこをしていたのだが、それを見た男子も加わり、「いかに大きい塊の氷を採るか」という遊びに発展していったようだった。

教師の思いと立ち位置

担任としては、もう少し「北庭らし遊び」や「自然」へ目が向くといいと思いつつも、その遊びでこの長い時間を遊びきれぬのか見届けたいという気持ちもあり、そのまま野球を続けさせた。

男の子たちは、きっと自分たちの思い入れのある北庭に、今、夢中になっている野球をもち込みたいのだろう。

氷とは、冬らしい物を見つけてきたなあ。欠けた部分の光り具合が特別と言うK子に感心し、「きれいだね。すごい発見！！」と気持ちを伝えた。

先生を遊びに巻き込みたくなるK子と、子どもたちの遊びに興味を抱く教師

こんなにたくさんの、しかも大きな氷をどうやって、どこから入手したのか？4人の女の子たちだけで運べる量ではない。

「なるほど。前回、僅かな氷が採れた場所を覚えていて、そこに行ってみたんだ。」「野球をしていたはずの男子も氷採りに加わっているぞ。」

大きな氷を誇らしげに運ぶ様子にU男の動き出す姿を見る。

はじめは野球をしていた男子も、お家ごっこをしていた女子も、氷採りの面白さに触れて遊びが変わっていった。冬の北庭の楽しさを感じ、自分たちの遊びをつくり上げている様子を見る。

とらえ

子どもの意欲と意識を教師が大切にする。

子どもの感覚のよさに感心した教師が、そのよさを認める声がけをする。

子どもたちの活動に教師が驚かされる。

既習の経験を生かしていることや、友との関わりが広がったことを教師がとらえる。

子どもたちが、教師が見通したねらいを子どもたちが達成していく。

足で蹴って氷を採る子、太い枝を使って氷を採る子、採り方も様々だった。採った氷は必ず K 子のところへせっせと運ぶ姿がおもしろい。なぜだか「氷を採る子」や「運ぶ子」と役割も決まっていた。その中でも、F 男は氷を採る係で、先ほど野球でバット代わりにしていた枝を使って、氷を採っていた。

担任が、「さっきまでバットにしていた棒を氷を割るのに使っているんだ。」と F 男に話しかけると、「この棒ね、とっても便利なんだよ。」と嬉しそうな表情で答えてくれた。

この遊びの中では K 子がリーダー的存在になっている。リーダーができて、その中で役割が生まれていることを感じる。

F 男の満足そうな表情に嬉しくなり、担任も近くから棒を見つけてきて、F 男といっしょに氷採りをした

邪魔はしないけれど、そこにある教師の立ち位置、存在を感じるけれど、感じない教師の立ち位置

役割分担など、活動の中から関係性が生まれる。

教師自身も動き出し、活動に加わる。

【子どもたちと共に創る授業をするために、教師が自分の中でゴーサインを出す】
＜教師が自分自身の中でゴーサインを出すためには＞

子どもたちが活動の見通しをもてば動き出すように、教師が、「ねらい」を持ち、子どもと共に活動する立ち位置の中で、「めりはり」をつけ、教科や単元、その時間の目標を達成したことを「見とどけ」る。

北庭にはたくさんの「材」があり、その「材」は季節によって、または日によって姿を変える。今回の北庭の学習では、前回までなかった「大きな氷」という材が生まれた。子どもたちは、採れた氷の割れ目が七色に光る不思議さや、いかに大きな氷を採るか、採った氷を何に見立てて遊ぶか等、「自然の持つ材」に触れることや、自分たちで楽しさを発見したことの喜びから、氷採りに夢中になっていった。そこには一つの動き出しがあった。

また、自然に役割分担が決まっている様子、採った氷は必ず K 子のところへ運ぶ姿を見てみると、個々の遊びの楽しさも味わいつつ、「たくさんの友だちと関わり合いながら遊ぶことの楽しさ」を感じているように思えた。協力しながら氷を採り、運んでいる子どもたちは、とても生き生きとして楽しそうだった。担任が驚くほどの数や大きさの氷を採るほど遊びに夢中になった陰には、「子どもたちが楽しさを実感したこと」、「友のよさや友と活動する楽しさに気づいたこと」があるように思う。

子どもの動き出しは連続した意識の流れや課題意識の中にある。活動に関わってみることで、その活動のよさに気づき始めたと同時に課題が見えてくる。その課題を解決する方法を考え、行動し、達成できたことにより、満足感を得る。また同時に、次の課題が浮かび上がってくる。

このような連続した課題意識や、単元全体、あるいは一時間の授業における子どもの意識の流れを教師が自分の中にもち、日々の授業改善を行っていくことで、教師が「子どもが動き出す姿」をイメージできるようにしていきたい。



担任も驚くほどの数と大きさの氷たち



枝で氷を採ろうとするU男

生活科学習指導案

1 単元名 「元気にそだって ぼくのおかいこさん、わたしのおかいこさん」

2 単元が生まれるまで

2年生の生活科を始めるにあたって、子どもたちに今年はどうな活動をしてみたいかと問いかけた。その際、「虫を探したい。」「春探しをしたい。」という子どもたちの意見が出てきた。そこで虫という発言につなげて「蚕って知ってる？」と尋ねると約半数の子どもたちが手を挙げた。「保育園のときに飼ったことがある」という子どもも数名いた。しかし子どもたちから「蚕を飼ってみたい」という積極的な声は聞かれず、北庭に虫探しに出かけていく子どもたちであった。

蚕のまち「岡谷」なので、蚕を容易に手に入れることができる環境にある。この蚕の飼育から、生き物に心を寄せる活動はできないかと考えた。そこで子どもたちが蚕や繭に触れるような環境を設定した。読み聞かせの時間に暗くした会議室に移動し、まず繭の糸で作られたランプシェードの灯りをつけた。子どもたちは「わー」「きれい」とランプから漏れるほのかな光の美しさに声をあげた。ランプシェードの説明は特にせず、暗くした部屋のまま、『かいくんと虹色のまゆ』という蚕が主人公の絵本の読み聞かせをした。読み聞かせ中、主人公の蚕が繭を作ろうとする場面では、「そうだよ。蚕って繭を作るんだよ。」というつぶやきが子どもたちから聞かれた。蚕の特徴に触れた展開を予想しながら物語を楽しんで聞く姿が見られた。読み聞かせの後、ランプシェードを指さして「実はこのランプの周りのこの部分は蚕の糸で作っているんだよ。」と話すと、「えー」「本当？」と声をあげて、ランプに近づいて行き、よく見たい、触れたいと考える子どもたちの姿が見られた。また、用意していた繭で作った人形や繭工作の作品を見たり触れたりする時間をとった。人形を手にとつて、転がるおもちゃを転がしては遊ぶ姿が見られた。

最後に感想を聞く場をとったところ、「繭ってきれいだな。」「自分たちで蚕を飼ってみたい。」「繭でいろいろ作ってみたい。」という声が上がった。

3 単元設定の理由（素材の教材化）

(1) 子どもの実態

2年2部の子どもたちは、北庭など自然の中で遊ぶことが好きな子どもたちが多い。1年生の頃より、進んで外に出て、お尻が泥で汚れても気にせず、体全体で遊ぶ姿がたくさん見られた。そのような中、外でいろいろな虫やカエルなどの小動物を捕まえてきて、飼育しようと試みるが、自分本位の関わりとなってしまう、結果としてその生き物の命を失ってしまう姿がたびたび見られた。

春の遠足で出かけた公園では、下着が濡れることも気にしないほどカエル採りに夢中になり、カエルとともにカエルの卵も採って袋に入れて帰ってきた。「この水槽で飼いたい」と言うので、学校の水槽に入れてやった。翌日から教室の水そうで飼育を始め、2日目に孵化してオタマジャクシとなった姿を見て、それまで以上に心にとめて関わろうとする子どもが増えた。しかし、大きくしてあげたいと考え、たくさん食べさせたいと、多くの子が餌を次々と上げた結果、水質を悪化させてしまい、オタマジャクシになって3日後に全て死んでしまった。「あーあ」と、死んでしまったことを残念がってはいるが、オタマジャクシについて悲しいという気持ちを持つまでに至っていないように感じられた。

(2) 素材としての価値

関わりが持ちやすい

- 大きな動物と違い，“自分のお蚕さま”という1対1の意識を持って関わるができる。
- 自分の働きかけ（桑の葉をやる）に対して、餌を食べてくれるなどの働き返しがすぐある。また、成長のスピードも速く、「育てている」「蚕が喜んでくれている」という実感や愛着を持ちながら世話ができる。
- 触ったり、葉を食べる音を聞いたり、匂いをかいだりといろいろな感じ方で触れ合うことができる。
- 人に危害を与えず、飛ばない、動かないので虫が苦手な子どもにも、愛着を持ちやすく、比較的、飼育が簡単である。動きが少なく、餌をあげたり、糞を始末したりすることも2年生の子どもが自分の力で十分に行うことができる。

命について考えることができる

- 脱皮を繰り返し成長していく姿、繭をつくる姿などを近くで見ること、生命の不思議さやすごさを感じることができる。
- 繭をつくってさなぎになった蚕の命を止めて繭を残すか、そのまま蛾にするか、さらに交尾をさせて卵をうませるか、という決断を子どもたち一人一人が迫られる。大切に育ててきたものの命を止めなくてはいけない矛盾した状況に自分なりに折り合いをつけていく中で、命について、深く考える機会を持つことができる。

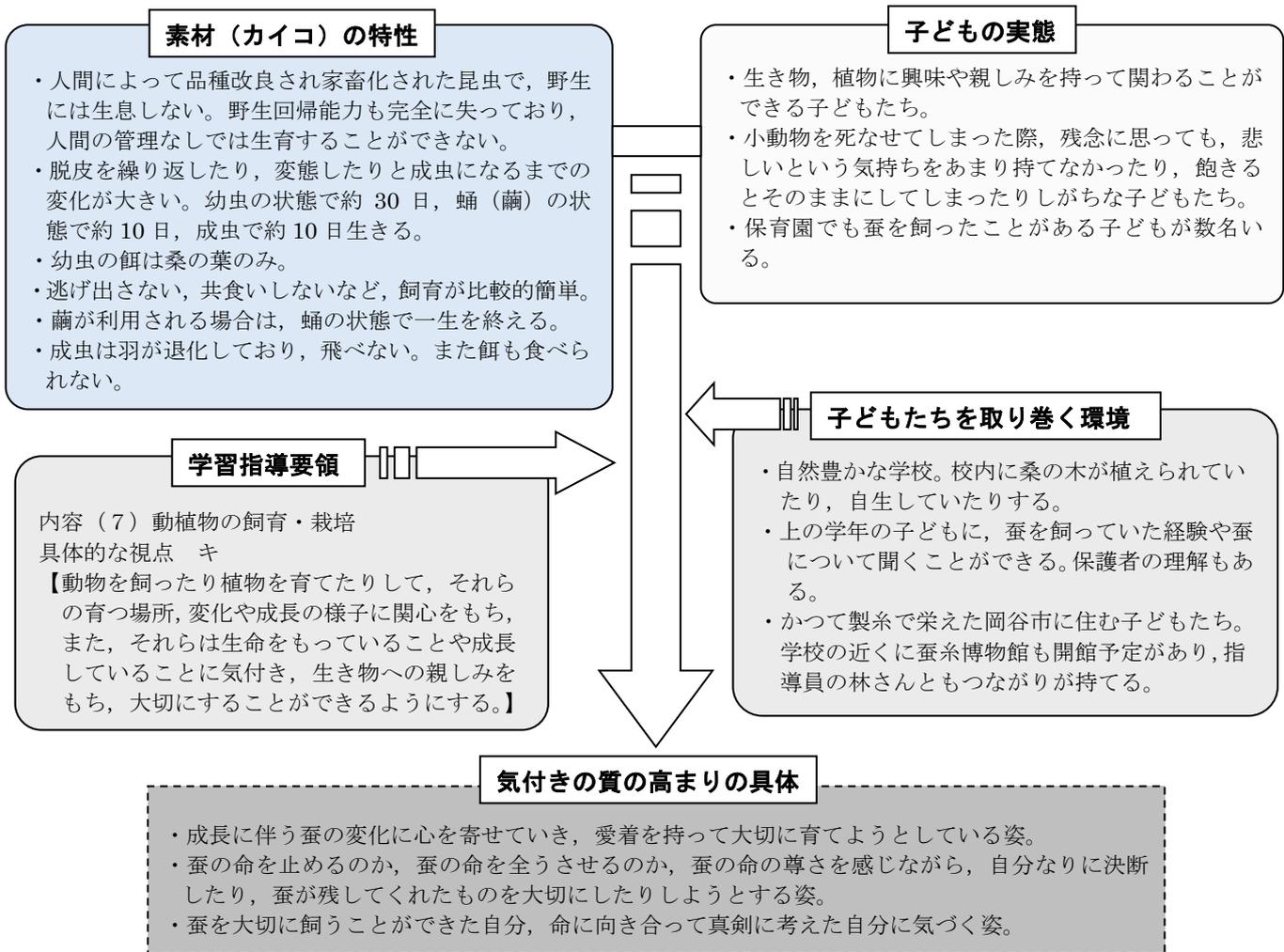
子どもたちを取り巻く環境のよさ

- 蚕と深いかかわりのある岡谷市の学校であり、蚕の餌となる桑の木も校内に数本植えられていたり、自生したりしているので、容易に餌を用意できる。
- 兄弟が本校で蚕を飼育した経験があり、飼育の助言を得られる。保育園、幼稚園で蚕を飼育した経験を持つ子どもがおり、蚕を飼うことに対して保護者の理解や協力も得られやすい。
- 自分たちの地域が、蚕と関わりが深いことを知り、自分たちの住む地域に目を向けていくきっかけとなる発展性がある。
- 学校の近くに蚕糸博物館があり、指導員の林さんに教えていただくことで、飼育についての困難点を乗り越えることができる。また、地域の人である林さんと蚕を通じて積極的に関わっていくことができる。

(3) 教師の願い

生き物に興味があっても、自分本位の関わりになってしまいがちな子どもたちが、自分がお父さん、お母さんとなってお蚕さまを育てることを通して、お蚕さまに心を寄せて関わり、命と向き合ってもらいたい。

(4) 素材の教材化



4 単元の目標

(1) 主目標

蚕に出会った子どもたちが、自分の「お蚕さま」を飼う中で、餌やりや糞、食べ残しの始末などの世話をしながら、日々の変化を見ることによって、蚕が成長していることに気付き、蚕への思いを深め、大切にしようとするすることができる。

(2) 具体目標

- ①「ぼくがかいこだったらうれしいな」と蚕に自分を重ねながら、自分から親しみを持って蚕の世話をすることができる。
- ②蚕の成長に合わせた世話の仕方を考えたり、調べたりして、蚕にとって居心地のいい環境を考え、関わっていくことができる。
- ③蚕の成長の変化を見たり、蚕の命をどうするかを考え合ったりすることを通して、家族に囲まれて成長してきた自分と重ねながら蚕の命を考えることができる。
- ④繭や繭からとり出した蛹に対して、自分が育ててきた蚕に思いをよせながら、大切に育ててきた自分自身の成長に気付くことができる。

	A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分についての気付き
本単元の評価基準に盛り込むべき事項	動植物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、生き物に親しんだり、大切にしようとしたりしている。 キ	動物を飼ったり植物を育てたりすることについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。 キ	生き物は生命をもっていることや成長していること、生き物と自分との関わりに気付いている。 キ
単元の評価基準	進んで蚕に関わり、蚕の立場に立って世話をしようとしている。	蚕の成長に合わせた世話の仕方や、蚕にとって居心地のいい環境を考え、丁寧に世話をしている。	蚕の成長の変化や、蚕にも生命があることが分かり、その関わりから自分自身の成長に気付いている。
学習活動における具体的評価基準	<p>①蚕を育てる環境を整えようとしている。蚕の成長を楽しみしながら世話を続けようとしている。餌やり、糞の始末などを積極的にして、大切に育てようとしている。</p> <p>②蚕に思いを寄せて、一緒にやってみたいことをしたり、蚕について感じたことを書きとめたりしようとしている。</p> <p>③蚕の変態（繭作り）に合わせて、必要な世話の内容を調べたり、よりよい環境をつくろうとしたりしている。</p> <p>④蚕の命と向き合い、自分なりの結論を出そうとしている。</p> <p>⑤繭から出した蛹となった蚕や蚕が残してくれた繭をしっかりと見つめ、大切にしようとしている。</p>	<p>①蚕の変化や成長に合わせて、餌である桑の葉の量や質を変えたり、飼育場の環境を整え、糞の始末をこまめにしようとしていたりしている。</p> <p>②蚕が喜んでくれそうなことを、蚕の立場に立って考え、行動しようとしている。蚕に思いを寄せて感じたことを書きとめている。</p> <p>③調べたことや分かったことを記録したり、よりよい環境を作ったりしている。</p> <p>④自分と蚕との関わりを思い起こしながら、蚕の命を止めるかどうかを悩み、考え、自分なりの結論を出している。</p> <p>⑤蚕の気持ちを考え、大切に蛹を扱ったり、繭を使ってストラップなどを作ったりしている。</p>	<p>①蚕が脱皮をしながら、だんだんと大きくなっていく様子の変化に気付いている。餌の食べ具合や蚕の様子から餌のあげるタイミングや量に気付いている。</p> <p>②蚕の様子をよく見たり、触れて遊んだりすることを通して、蚕が大事な存在であることに気付いている。</p> <p>③蚕が繭を作って蛾（成虫）になる準備をすることに気付いている。成虫が子孫を残すことや、そのまま飼育を続けることの困難さに気付いている。</p> <p>④蚕から繭（蛹）になる成長を喜んだり、死を悲しんだりすることを通して、蚕も生命を持っていることに気付いている。</p> <p>⑤繭から出てきた蛹や繭の様子から、蚕が懸命に生きようとしていたことに気付いている。蚕を繭にするまで親代わりとなってやさしく育てられた自分に気付いている。</p>

6 単元展開の概要 (全26時間)

意識の流れ	学習活動	学習内容	○支援 ◇評価	時数
<p>蚕ってどんな生き物なのかな。どうやって飼うのかな。</p> <p>早く一人一人て飼いたいな。</p> <p>自分のお蚕さまを元気に育てたいな。</p> <p>お蚕さまって不思議だな。</p>	<p>林先生からお蚕さまについて教えてもらおう。</p> <p>お蚕さまをどうやって育てていくか考えよう。</p> <p>お蚕さまの世話をしよう。</p>	<p>○蚕がどんな生き物なのか、実際に見たり、お話を聴いたりして知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 蚕は昔から大事にされてきたんだ。 思ったより小さくてかわいいな。 早く大きくしたいな。 <p>○100匹以上いるお蚕さまをどうやって飼っていくか考えよう。</p> <p>○一人一人て飼うか、みんなで飼うか、グループで飼うか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> お父さんやお母さんになったつもりで、一人一人飼いたい。 グループで助け合いながら一緒に飼いたい。 虫が苦手だからクラスのみんなで飼いたい。 <p>○世話をしている気付いたことを出し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べるスピードが速くなった。 いっぱい食べるようになった。 糞も大きくなった。 “眠”をしているのがいた。 <p>○脱皮する映像を見て感じたことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビュッと頭が出てきてびっくりした。 お蚕さまがすごくがんばっていた。 	<p>○蚕についてのお話を聞いたり、子どもたちがもつ疑問や不安を聞いてもらったりできるように蚕糸博物館の林さんとの出会いの場を設定する。</p> <p>○えさのやり方や糞の始末など、蚕の飼い方の基本を子どもたち全員で共通理解し、経験を積んでいけるよう、蚕がまだか弱い3歳の段階ではクラスみんなで飼う。</p> <p>○家に持ち帰ってもしっかりと世話ができるように、学年通信、学級通信でお家の方にお知らせし、サポートしてもらえる環境を作っておく。</p> <p>○知りたくなかったことをすぐに自分で調べることができるよう蚕に関わる本を教室に置いておく。情報交換が活発にできるようにワンプレートホームワークなどで、自主的に調べてきた子どもがいたら、クラス全体に紹介し広める。</p> <p>○子どもたちが、蚕の生き物としての不思議さに興味を持てるように、写真や図、映像を用いて、蚕の生態を紹介する。</p> <p style="text-align: right;">A-① B-① C-①</p>	8
<p>お蚕さまともっとくなくないかな。</p> <p>お蚕さまが食べている桑の葉っておいしいのかな。</p> <p>桑の葉が無くなったのでどうしよう。</p>	<p>お蚕さまとやってみよう。</p> <p>お蚕さまがおいしい桑の葉を食べてみよう。</p> <p>桑の葉がもっとないか探そう。</p>	<p>○お蚕さまと一緒にやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外に連れて行ってあげたい。 岡谷小のいい景色を見せてあげたい。 体に乗せて遊びたい。 <p>○おいしい桑の葉を見つけて、お蚕さまに食べさせてあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> おいしい桑の葉を食べてくれてうれしいな。 ぼくも食べてみたくなった。 クワの葉って人間も食べられるんだ。 栄養満点なんだね。 お蚕さまのおいしく食べている気持ちがわかったな。 新鮮な桑の葉をいっぱいあげたいな。 <p>○自分たちでとれる桑の葉が足りなくなってきた。もっと他に桑の木がないか探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> この葉っぱの形はきっと桑だ。 知らなかったけど、学校にはたくさん桑の木があるね。 	<p>○お蚕さまの気持ちに寄り添って考えられるように声掛けする。振り返りの場面では、それぞれがどんなことをお蚕さまにしてあげられたのか、情報交換する場を設定する。</p> <p>○お蚕さまが食べている桑の葉っておいしいのかなと興味をもった子どもがいたら、桑の葉は人も食べられることを投げかけてみる。</p> <p>○桑の葉の素材の味が分かるように、簡単な桑の葉の料理を作って素材をじっくり味わう機会をもつ。</p> <p>○蚕の気持ちを共有できるように桑の葉を食べてみた感想を語り合う場を設定する。</p> <p>○葉が足りなくて困っている場合には、校舎外で、桑の木を一緒になって探す。</p> <p style="text-align: right;">A-② B-② C-②</p>	4

<p>5 齢にな ったお蚕 さまは、こ のあとど うなるの かな。</p>	<p>繭をつく り始める お蚕さま への世話 を考えよ う。</p>	<p>○繭を作る準備をするお蚕さまにして あげられることを考えよう。 ・眠のときは触っちゃいけない。 ・トイレットペーパーの筒があるとい って聞いたよ。 ・林先生に聞いてみたい。 ○林先生から繭を作るお蚕さまにつ いて話を聴き、知りたいことを質問し よう。 ・いつから糸を吐き出すのかな？ ・お部屋にはいつ入れてやればいいか な。</p>	<p>○今後の見通しがもてるように、繭作り について心配している子どもやす でに繭作りについて調べている子 どもの意見を伝え合う場を設定す る。 ○繭を作り始めるお蚕さまにどのよ うな変化があるのか、どんな準備が必 要なのか調べたり考えたりする場を 設定する。 ○情報交換しながら自分たちで準備が できるように支援する。 ○林先生にお話を聞く場を設定する。 A-③ B-③ C-③</p>	<p>4</p>
<p>お蚕さま の命、ど うしたら いいのだ ろう。</p>	<p>お蚕さま の命をど うする か考えよ う。</p>	<p>○繭になったお蚕さまはこれからど うなるのだろう。 ○繭をつくったお蚕さまの命をどう するか考えよう。 ・繭工作をつくりたいから命を止める。 ・このまま飼いつづけて、蛾になら せる。 ・蛾にして卵を産ませる。 ・大切に育ててきたぼくのお蚕さま の命を止めることはできないよ。 ・お父さんやおかあさんは子ども の命を奪ったりしないよ。</p>	<p>○林先生にお話を聞く場を設定する。 ○繭で命を止めずに蛾にするという 子どもに対して、最後までどのよ うに責任を持つのか、問いかける。 ○交尾をさせずに命を全うさせるた めの方法など、子どもたちの必要感 にに応じて、林先生に相談する機 会をもつ。 ○どの選択をしても、命を大切に考 えた子どもたちなりの結論を受け とめ、声掛けをする。 A-④ B-④ C-④</p>	<p>4</p>
<p>お蚕さま の残して くれた繭 を大切に したい。 お蚕さま との思い 出を大切 にしたい な。</p>	<p>繭からお 蚕さまを 出そう。 (本時) 繭で思い 出に残る ものを作 ろう。 お蚕さま にお手紙 を書こう。</p>	<p>○繭からお蚕さまの蛹を取り出し、よ く見て、感じたことを語り合おう。 ・繭の中でもお蚕さまはがんばって 蛹になっていたんだな。 ・きれいな繭を一生懸命作ったんだ ね。 ・蛾になって出てきたかったのに、 ごめんね。 ・見晴しのいい所、お蚕さまとの思 い出の場所に埋めてあげたいな。 ○お蚕さまが命の代わりに残してく れた繭を使って思い出に残るもの を作ろう。 ・お蚕さまが残してくれた、ストラ ップ、大切にしたいな。 ・お蚕さまにお手紙を書こう。 ・ごめんね。大事にするよ。</p>	<p>○繭をどうするか話し合う場を設定 し、子どもたちの希望に合わせて 林先生に講師として来ていただく。 ○写真やそれまでの学習カードをも とにお蚕さまと過ごした日々を振 り返えられるように、お蚕さまと 一人一人の記念写真を事前に撮 っておく。 ○お蚕さまと自分との関わりを振 り返ることができるように、最後 に振り返りの場を設定する。 A-⑤ B-⑤ C-⑤</p>	<p>6</p>

7 本時案

1 本時のねらい

繭を切って蛹を取り出し、お蚕さまとの思い出に残るものを作りたい、蛾になるお蚕さまの準備をしたいと願っている子どもたちが、繭から出てきた蛹やカイコ蛾、繭の中を見つめたり触ったりすることを通して、自分の育ててきたお蚕さまの新たな一面に気付くことができる。

2 本時の位置 26時間中第21時

(1) 前時：繭で作りたいものを考え、どのように繭を切るか考えた。(繭工作)

蛾となったお蚕さまの部屋やお家を考え、作り始めた。(蛾のお部屋作り)

(2) 次時：自分のお蚕さまが、一番喜んでくれると思うことを考え、自分のやりたいことをやっていくだろう。

3 指導上の留意点

- ・一緒に過ごしてきた日々を思い返すことができるように、学習の過程が分かる教室掲示しておく。
- ・個人の願いを大事にして、決めかねている子どもには、どうしたいのか問いかけながら願いに沿うように助言する。

4 展開

	学習活動	○学習内容・予想される子どもの反応	○支援 ◇評価	時
願いをもち	○やりたいことを確認しよう。	○どんなことをしたいか確かめよう。 ・お蚕さまを傷つけないように、気をつけて繭を切りたいな。 ・繭をきれいなままで切りたいな。 ・中の蛹はどうなっているのかな。 ・僕は全部蛾にすることにしたけど、蛹ってどんな感じのかな。見てみたいな。 ・上の階を付け加えてお蚕さまの蛾の家を大きくするぞ。 ・蛾が過ごしやすい部屋を作ってあげたいな。	○危険がないように繭の切り方、鉋の使い方を確認する。 ○蛾と一緒に過ごしたいと決め出した子どもには、やりたいことを確認し、必要に応じて、やりたいことをできる場を保障する。	5
		繭を切ってお蚕さまを出そう	蛾になるお蚕さまの準備をしよう	
自分のやりたいことに取り組み	○繭から取り出したお蚕さまをじっくり見よう。	○繭からお蚕さまの蛹を取り出そう。 ・中からお蚕さまが見えてきた。 ・茶色くって思ったよりちっちゃいな。 ・蚕の時と全然体が違って、小さくなっている。 ・体がプニプニしている。 ・体が伸びたり縮んだりするよ。 ・脱皮した皮が入っていたよ。がんばって中で蛹になっていたんだ。	○繭から出てきた蛹に対する子どもたちの心の動きに寄り添い、共感する。 ○うまく切れない子どもには、一緒に切るなど援助する。 ○蛾のお部屋やお家を作っている子どもたちには、お蚕さまを意識して活動できるように「お蚕さま喜ぶかな」と声をかける。	25
気付いたことを伝え合い		○自分の気付いたことを伝え合おう。 ・茶色くなっている。 ・蛹にかおができていた。 ・さわったらプニプニしていた。 ・体が曲がったり、伸びたりしたよ。 ・お蚕の時にあった息をする場所が残っている。 ・体が曲がるのは前のお蚕さまと同じだね。 ・おなかが大きくてメスだとわかった。 ・繭の中も白くてきれいだった。 ・思ったより繭が厚くてびっくりした。 ・お蚕さまは、形は変わったけど、残っているところもあるね。	○お蚕への気付きを伝え合う場をつくる。 ○新しい一面に対する具体的な気付きした子を紹介したり、具体的な気付きを問いかけたりする。 ◇自分の育ててきたお蚕さまの新たな一面気づくことができたか。(発言・繭の切り方・蛹を見つめる様子より)	10

活動を振り返る	○今日の活動を振り返り、お蚕さま日記を書く。	○今日のお蚕様日記を書こう。 <ul style="list-style-type: none"> ・お蚕さまが残してくれたきれいな繭を使って繭工作を作りたいな。 ・お蚕さまをうまく出してあげられてよかったな。 ・お蚕さまの蛹をどうしようかな。 ・蛹を土に埋めてあげたいな。 ・いつ蛾が出てきても大丈夫だよ。 ・もっと蛾になったお蚕さまが楽しく過ごせるお家にパワーアップさせたいな。 	○蛹をどうしたいかについて考えている子どもの発言を取り上げ、次時にやりたいことを問いかける。 ○蛾と過ごした子どもや蛾のために準備した子どもにも今日したことやその感想を問いかけ、他の子どもたちに活動や思いを広める。	5
---------	------------------------	--	--	---

1 「元気にそだって、ぼくのおかいこさま、わたしのおかいこさま」(2年2部)

(1) 教師としての自分自身の変容を願い、自ら学びの主体として探究し続ける教師の姿

生活科の研究を進めるにあたって、授業者の武田教諭が考えたことは、「生活科の研究を通して、教師としての自分を成長させ、学級の子どもたちとの関係性を変えてきたい」という思いである。2年2部の担任の武田教諭は、この学級を1年次から担任している。子どもたちが目を輝かせて探究するような授業を願い、日々の授業づくりには相当の時間を費やし、そのための労力は惜しまずに取り組んできた。しかし、その教師の思いとは裏腹に、教師の願いと子どもの思いとに少しずつずれが生じ、「先生は分かっている」という子どもたちの意識が膨らみ始め、思うような学級経営ができずに悩んでいたのである。そこで、この生活科の授業研究を、教師自身が変容していくための機会と考え、授業研究をスタートさせたのである。

まず、武田教諭が取り組んだのは、毎日の子ども姿や出来事を記録し、そこで教師がどんな働きかけをし、何を感じたのかを綴った「ぼくと 子どもと おかいこ日記」の蓄積である。この記録を通して、教師自身が自分の行為を内省し、子ども観を編み直しながら自身の変容を具現しようと考えたのである。そういう武田教諭の教師としてのものがきを、単元の展開を追いながら読み解いていきたい。

「ぼくと 子どもと おかいこ日記」は、次のような内容から始まった。

5月27日(火)

朝から、航介君がたんぼぼの根を掘って持ってきていた。業間休みに、京汰君が誘いに来て、たんぼぼの根を掘りに行く。近くにいた敬君も一緒に行こうと誘って北校舎横の庭に行く。タンポポはすぐに見つかるが、スコップを誰も持っておらず、二人は木切れで掘ろうとする。あまりうまく掘れないが、それほど本気になって掘り起こそうという感じでもなく、根の方を木切れで叩いて楽しんでいる様子。敬君が私に木切れをくれ、「ここに指をかけるとちょうどいい」と握り方を教えてくれる。私自身もその木切れで掘ろうとしてみるが、根っこがすぐ切れてしまいうまく掘れない。次がダンスの連学年練習だったので、「あと10分だ」と言うと、「時間のことを言うと楽しくないじゃん。言わないで」と京汰君に注意を受ける。まさしく京汰君の言う通りで自分も次のことが気になって十分に楽しんでいない。その後、泥と水で泥だんご作りを始めていた峻司君、拓也君、空君、航介君のグループと合流して、みんなで泥水遊びが始まる。私も一緒に土を練っていたが、また、「これで手を洗ったり、片づけたりしていたら・・・」と時間が気になり、時計をちらっと見た。すると、こちらが何を言ったわけでもないのに京汰君が、それをしっかり見ていたようで、「先生また時計見ている」と厳しい突っ込みが入る。一緒に遊んでいない私をよく見ていることに驚かされた。

自分自身が子どもたちと遊びを共有しているように動いていながら、ともに活動に浸りこむことなく、逆に、子どもたちが「浸りこむ」ことを邪魔している存在であることを改めて感じる。ともに浸りこむとはどういうことなのか。時間を忘れて、遊びに熱中し、子どもたちと一緒に「あっ、いけねえ。遅れちゃう！」といっしょに慌てるようになってはいけないのだと反省する。が、そう簡単に自分の大人の見方、とらわれている枠を取り外せそうもないことも感じている。

日記を綴り始めた武田教諭は、思いのずれが大きかった数人の男子とのかかわりを取り上げて、その出来事を記している。武田教諭は、この出来事の振り返りを通して、「一緒にいるようで一緒にいない」自分自身への気付きから、子どもたちと自分との間にある距離感に気付いた。そして、「大人の見方をしている自分」「取り外せない枠をもっている自分」という自分の内にある既成の枠組みに気付き、まず、それを受け入れようとするところから動き始めていった。

翌日の5月28日の日記には、次のような言葉が綴られている。

5月28日(水)

2 時間目の体育のダンスの練習の休憩時間に、峻司君が幼虫を発見して持ってくる。桑の木の近くの体育館の壁にくっついてたのを発見したのだそうだ。5分もない休憩時間の中で見つけてくるところがさすが虫好き、生き物好きの峻司君だなと感心させられる。幼虫の正体はクワコか？クワコだったらお蚕さまの学習にもつながるという下心もあり、丁重に預かる。生活科の授業を構想中でない、今までの私なら峻司君が幼虫を見つけてきた時点で、「今は虫を見つける時間じゃない！」と言って、幼虫には目もくれず、捨てさせていたように思う。生活の中のいろいろな場面で活動の芽があるんだなということを改めて感じる。教師がアンテナを張っておくと、活動の幅を広げることができることを感じる。

武田教諭の、子どもたちへのまなざしが変わり始めていく。「今までの私なら」という言葉からも分かるように、これまでの自分の見方が少しずつ変容し、「さすが虫好き、生き物好きの峻司君だな」と、教師が子どもに関心をもち、もっと子どもを知りたいとその触手を伸ばそうとしていることが分かる。

この日記の中に「生活科の授業を構想中」という言葉が出てきているが、このとき、教師は生活科の授業で取り組む素材として「蚕」に注目し、教材研究を進めていた。「蚕」にかかわる本を集めて読んだり、生活科の授業で実践した経験のある小林教諭に「蚕」という素材や、素材としての価値についていろいろな話を聞いたりしていた。さらに、蚕糸博物館で指導員をしている林久美子さんから「蚕」についての話を聞いたり、学校の敷地内を歩き回り、「蚕」の餌となる「桑の葉」のある場所を探したりしていた。武田教諭が「蚕」という素材に関心をもち、「蚕」に入り込み始めていたことも、教師が子どもに関心をもち、対象との接点を見いだせないかという願いをもって子どもと向き合うことにつながったと考えられる。教師が素材を求め、素材に入り込んでいくことは、素材との間柄を変えていくことにとどまらず、同時に子どもに関心を向け、その接点を探ろうとする教師のからだをつくっていくのである。

5月30日。いよいよ教師は、素材を「蚕」に決め、子どもたちの思いが「蚕」に向いていく場をしつらえた。「しつらえ」とは、千利休が大切にした利休七則にある言葉で、客人と気持ちよく茶のひとときを過ごせるために、万全を期して準備をするという茶道の理念となる言葉である。相手に思いを寄せ、心を尽くして準備をするというこの言葉の意味を踏まえ、子どもをみようとする教師の繊細なまなざしと、実感のある教材研究のもとに位置付けられた活動の場を「しつらえ」と考え、特別な意味をもたせている)

5月30日（金）

子どもたちの気持ちを「お蚕さまを飼いたい」という気持ちに向けることができるか不安に思いつつも、昼の読書の時間に会議室で読み聞かせを行った。暗くした部屋でランプシェードを点灯させると「うわーきれい！」と声が上がった。プラネタリウムを期待した子もいたが、虹色に光るシェードのあかりの近くに来て触ろうとする空君。蒼士君は「アトラクションみたい」とつぶやいた。絵本「かいくんと虹色のまゆ」を読み始める。反応しながら、よくお話を聴いている。かいくんが糸を吐くところで、みんなが「すごい！」と言うと、峻司君が「そうだよ、アゲハも吐くよ」と言っている。まゆになったところで話は終わっているが、「さがしてみたい」と京汰君が言う。ランプシェードの糸はお蚕さまの糸を巻いたものであることを伝える。「えー」「すごい！」と声上がる。「他にも、お蚕さまのまゆからこんなのできるんだって」と言って、まゆの人形や、キーホルダーやおもちゃを見せる。みんなが集まってきて順番にそれぞれを見たり触ったりする。「お兄ちゃんもつくっていた。」「これつくってみたい」という声が聞かれる。

京汰君は「お蚕さまを飼ってみたい、おじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみたらいい」、峻司君は、「アゲハとかと一緒に飼いたい！」と発言。空君は「ぜったいぜったい飼う！」と力強く宣言する。加世子さん、愛佳さん、寛太君からは「虫をあんまり飼ったことがないから飼ってみたい」と発言がある。朝、「お蚕さまとか気持ち悪いから飼いたくない」と言っていた蒼生さんも「飼ってみたい」との発言がある。みんなの意見に「そんなに見つかるかな？」と京汰くんが心配そうにつぶやく。「なかなかみんなの分を探すのは難しいよね。お蚕さまの赤ちゃんをもらえるところがないか聞いてみるね」「この土日でお家の人に聞いたり、本で調べたりしてみてね」と伝える。

以前、話題に上った時には、飼ってみたいという積極的な声が上がらなかったが、ランプシェードやまゆ工作の作品などのお蚕さまを飼うことによって得られる魅力的な産物、そしてお蚕さまが登場する物語の読み聞かせといった環境を設定したことが、子どもたちが「お蚕さま」により近づき、飼ってみたいという思いをもつことにつながったのではないか。

武田教諭は、読み聞かせの場での「蚕」に関心をもって向かってこようとする子どもたちの姿に手応えを感じ、「飼ってみたい」という思いが醸成されていくことに期待感をもった。しかし、この日の日記の後半には、次のような省察も述べられている。

子どもたちに「どうしたらお蚕さまを手に入れられるかな。」というように問いかけ、子どもたちが調べてくる時間を取りたいところであったが、時間を十分にかけることができなかった。出会いの部分をもう少し丁寧に時間を取って、子どもたちが「自分たちががんばってお蚕さまに出会えた」という思いをもてるようなかわりが必要だったが、教師のほうで準備してしまうだけになってしまった。まゆでいろいろ工作をしたいという気持ちと、お蚕さまを飼ってみたいという気持ちのどちらが子どもたちの中で強いのかと後で振り返ってみて思った。子どもたちの発言には、「作ってみたい」ではなく、「飼ってみたい」という言葉が出ているが、一部の子どもの声で「飼う」という流れに何となく乗っている子どもたちもいるのではないかと思った。

確かに「飼ってみたい」という声は聞かれたが、本当にそうか、本当にそれだけの思いの高まりを子どもの内に生み出すことができたのか。武田教諭は、そう自分自身に問いかけている。教師の思惑に乗ってくる都合の良い子どもだけの姿をとらえて、「よし、子どもの期待感が高まってきたぞ」とはしていない教師の姿を読み解くことができる。心底やってみたいという思いになっているのかどうか、本当に子どもが動き出そうとしているのかと、子どもの姿に関心を寄せ、子どもを理解しようとする教師のからだになってきているからこそ、このような言葉が綴られていくのではないだろうか。子どもの姿に関心を向けていく教師は、目で見て分かる表面的な姿からだけでなく、その子の内に目を向け、どんな思いが生まれ、何を求めようとしているのかにまで思いを巡らせていくのである。

6月上旬。教師と「蚕」との間柄が変わっていく出来事が綴られている。

6月7日（土）

この週末は私自身にお蚕さまの命がかかっているので、「しっかりと世話をしないといけない」と気が引き締まる。餌の桑の葉を多めに取って箱ごと自宅に持ち帰る。「餌は朝昼夕の1日3回でいい」と林先生から教えてもらっていたが、お蚕さまがボーっとしている様子を見ていると餌が足りていないのではないかと不安になり、ついつい餌をやってしまう。

6月8日（日）

お蚕さまがさらに大きくなっているのを感じる。灰色っぽかった体が、青白く、お蚕さまらしい色、形になってきている。すでに2齢から3齢への脱皮をしてしまったのか。気持ちがいい食べっぷりで、入れた桑の葉がまたたく間に食べつくされていく様子をついつい見てしまう私がいる。桑の葉を食べるときのクツクツツツというような爽快感が何とも言えない。



6月10日（火）

放課後、帰宅間際に「眠」の状態を写真にしっかり撮っていないことに気付き、教室に戻る。見てみると何頭も脱皮を完了している。ビデオで脱皮の瞬間を撮れるチャンスかもと、ビデオを用意して目星をつけたお蚕さまの撮影を試みる。粘っているとついに、脱皮を始める。皮を脱ぐ姿は少しグロテスクでもあるが、お蚕さまのがんばりが伝わる。頭の殻が取れる瞬間も撮ることができ、見せてくれたお蚕さまに思わずありがとと言いた

くなる。撮影を始めて1時間。子どもたちに見せたらどんな反応を見せてくれるか楽しみに思いながら帰宅する。

6月14日(土)

桑の葉を食べることになるかもしれないので、試しに、南体育館裏の桑の葉を私が3枚食べてみた。ゆでて食べただけがいやな苦みがなく、ほのかに甘みもあり、野菜代わりに食べてもいいくらいに意外と食べやすい。その後、体の調子も特に変化なく、インターネットで調べても、桑のアレルギーはないということだったので、子どもたちとも食べられそうと構想を巡らす。

「蚕」との生活を続けていくうちに、教師自身が対象にのめり込み、対象に熱いまなざしを送るようになっていくことが分かる。子どもに探究してほしいと願う以上、まず教師が探究心をもって素材とかかわり、その味わいを知っておくことは、子どもの探究の道すじを描くためには必要不可欠なことである。対象について、その表面を触った程度の教材研究では、およそ教師は自分の構想に子どもをあてがっていきだろろうし、目の前の子どもの学びの深層にせまっていくことやその子の育ちをとらえていくことは難しい。

このことにかかわって、松木健一先生から次のようなお話をいただいた。

子どもの成長と教師の成長、授業の実践の中でこの二つが編み込まれていく話だなと思いますので、先生が書かれたものはそれそのものを表現されていたなと思います。それでいいなあとと思います。生活や総合なんかでいちばん大切にしたいなあと思うのは、子どもに寄り添って、子どもがどう思っていくのかなあって思っていくのと、もう一つ、教師自身の探究心じゃないかなと思うんです。昨日読ませていただいた本の中に書かれていたものの中には、先生自身が探究している姿がたくさん書かれていました。先生自身が不思議に思って、どうしたらいいのかなあって考えていたことがいっぱい書かれていたなって思うんですよね。そういう意味でいくと、両者のベクトルの和が活動の発展への教師の見通しであったり、子どもの発言をどういうところで拾えるかっていうところにかかってくるんじゃないかなと思うんですよね。何が言いたいかという、教師の材への探究心、これがないと活動の発展への読みもないし、あるいは、子どもの発言を拾うこともできないんじゃないかなっていうふうに思うんです。先生自身が蚕を育てることを不思議がって、探究しながらやっていることが、子どもの発言に対しても敏感に反応できるセンスを磨いていくことにもなるなあって思いますし、これからどんな活動の展開が期待できるかなあってことを、イメージを広げていくことにもなるんじゃないかあとと思います。それで、やればやるほど分からないことがいっぱい出てくるので、教師って限りなく探究し続ける、そういう存在なんだろうっていうふうに思いますね。それをやめたら子どもが見えなくなっちゃう、子どもの発言を拾えなくなっちゃうんじゃないかなと思います。

松木健一先生からも示唆をいただいた教材研究が教師のからだにもたらすものについて、6月10日と13日の日記から、武田教諭が、子どもの育ちを願い葛藤していく姿や、子どもの変容からその子の育ちをとらえていこうとする姿として読み解いていくことができる。

6月10日(火)

5時間目の生活科の時間に再びお蚕さまをどうやって分けて育てるかについて話し合う。まだグループで飼いたいという子どもたちがいる。話し合う中で、拓也くんから「名前をつけたい」という発言があり、「一人で飼っていくと一頭一頭名まえをつけて見分けられるほどになるかもしれないよね。」と答える。拓也君の発言は「お父さん、お母さんとしての意識」とつながる発言だと感じたが、私の“出”があいまいでその意識を広めることができなかった。拓也君にどうして名前をつけたいと思ったのか尋ねたら、拓也君の一頭一頭を大切に育てたいという気持ちをもっと明確に引き出せたかもしれない。

確認してみると、22人中6人が1人ずつではなく、グループで飼いたいという思いを持っていることがわかる。特に京汰君や峻司君、空君、敬君という、虫が好きなメンバーがグループで飼いたいと言っているのが、悩みの種である。このまま、子どもたちの気持ちを大事にグループで飼わせることも考えるが、特にこの子たちには、一人一人、しっかりとお蚕さまと向き合ってもらいたいと思っているので、「じゃあそれぞれ好きにやろうか」とは言えなかった。

6月13日(金)

瑚都さんが「一頭いなくなっちゃった。」と言ってくる。もう一頭あげることはできるが、簡単に渡すのはどうかと悩む。「蚕は他の虫と違って、逃げ出しても自分では桑の葉をさがしたりできないから、いなくなっちゃったってことは、餌を食べられたくてもう死んじゃうってことだよ。おかあさんとして、しっかり見てあげないとかわいそうじゃない？」と尋ねると神妙にうなずいている。

教師は、子どもにこういう姿になってほしいという願いをもって授業を構想し、授業の中でかかわっていく。しかし、子どもには子どもの思いや願いがあり、思うようにはいかない出来事が当然起こってくる。この2つの日記に綴られているように、武田教諭は、「子どもはこうしたいと言っている」、「しかしそれでは本当に大事なことは向き合えないのではないかと」、この思いの間で葛藤していたのである。授業の中で何かを越えようとしている子どもとともに、教師も葛藤しながら同じようにそれを乗り越えようとしている存在として子どもの前に居るのである。子どもと同じまなざしをもって対象と向き合い、子どもが動き出す場の中にそういうからだをもった教師が居ること、そのことが大切であると考えた。

次に、6月12日の日記からである。

6月12日(木)

朝から蚕の様子を見たり、餌をやったりしている。日陽さんが下校の準備をしているときに「フンを触ったら柔らかかったんだけど・・・」と心配そうに声をかけてくる。林先生のお話の中で、フンが固まっていないときは病気の心配があるということを知っていたのかと思われる。その時はバタバタとしていて「フンが出たばかりでやわらかかったんじゃない？大丈夫だと思うよ」と言って流してしまう。フンを自分で触って確かめて、お蚕さまの病気の心配をしている日陽さんの行為の価値をきちんとその場で評価できなかった。他の児童にも日陽さんのお蚕さまへのかかわりの深さを伝えることができたはずであった。下校に間に合うようにという思いが強すぎ、余裕をもって日陽さんの声を聞くことができなかった。

さらに記録写真を見返してみると、最初にお蚕さまを林先生からいただいた日に、日陽さんがお蚕さまのフンを指に乗せうれしそうに見せてくれている写真があった。最初の出会いの場面から日陽さんはフンに対する抵抗感もなく、感動をもって接している。そんな日陽さんだからこそ、お蚕さまの健康のバロメーターとしてのフンのかすかな変化にも気付くことができたのだろう。日陽さんがなぜフンの固さにこだわっていたのか。そこには、日陽さんが一貫して持っていたフンに対する思いとかかわりがあったからではないかととらえることができる。一人一人の意識のつながりという視点をもって子どもを捉えていく大切さが分かった。私も一緒に日陽さんが心配しているフンを触ってその違いを感じてみる、そして心配が必要な柔らかさなのか、いっしょに考える、悩む。そのようなスタンスで子どもと向き合えたらと思う。



武田教諭は、フンを触ってお蚕さまの心配をしている日陽さんの行為に関心を寄せ、日陽さんの前の姿を見ようと記録を見返した。つまり、武田教諭は、フンの変化からお蚕さまの状態を探っていこうとする日陽さんの育ちを、前の姿からの変容としてみようとしているのである。この姿から、武田教諭が、日陽さんの「フンのかすかな変化も見逃さず、それを健康のバロメーターにする」という行為を、一貫したフンに対する思いとフンのかかわりという文脈の中で生み出した知の獲得としてとらえていることが分かる。子どもたちに、新たな問題と直面したり、未知の他者と出会ったりしたときに、自ら考えよりよく問題を解決する力をつけたいと願う私たちにあって、大切なのはどれだけたくさんの知を獲得したのかではなく、どのような出来事を通して知を生み出したのか、である。子どもが学びの主体として、自分の体験と友の言葉をつなぎ、紡ぎ合わせながら知を



生み出していく姿を具現していくために、教師は、具体的な文脈の中での子どもの育ちをみていくことが大切になるのである。

7月2日。子どもたちは、蚕糸博物館の林久美子先生から「繭をきれいに使うためにはお蚕さまの命を止めなくてはならない」というお話を聞いた。そして、翌日の7月3日には、学級で「お蚕さまの命をどうするか」という話し合いを行った。その結論が出たのは、7月7日での話し合いである。その日の日記には、次のように書かれていた。

7月7日（月）

改めて自分の考えをまとめる時間を取る。蛾にするのを諦めていた空くんや蒼士くん、凌くん、諒汰くんは蛾として命を全うさせる道を選んだ。特に、凌君は全てのお蚕さまを蛾にすると決めており、「大人にしたい」という思いを強く持っていたが、500頭も飼えないからと諦めていたことが伝わってきた。一方まだ、「卵を産ませる」と言う意見を変えずに持っている峻司くんや京汰くん、敬くん、航介くんは桑の葉も集められるし、育てられると言っている。一番早く繭を作った愛佳さん、朋子さんは、話し合いの後、「命を止める」という気持ちは変わらないということで命を止める準備を進め、午後に調理室にそれぞれのお蚕さまを持って行き、冷凍庫に入れた。特に私が「こうしたら」ということは言わなかったが、手紙を書いたり、繭を入れる筒を折り紙で作ったりして、お蚕さまを送る準備を2人で話し合いながら進めていた。愛佳さん、朋子さんと私の3人で調理室に向かったが、入り口で冷凍庫への入れ方の説明をして、お別れは一人ずつ冷凍庫の前でするように話をし、私も調理室から出て、一人でお蚕さまと向き合う時間を持てるようにした。こちらが一緒についてどんな顔でどんなお別れをするのか見てみたい気持ちもあったが、私自身も他の人がいたら物を言わないお蚕さまと向き合ってきたらと別れることはできないと思ったので、邪魔をしてはいけないと感じた。「時間かかってもいいから、自分でちゃんとお別れをして、冷凍庫に自分でいれて部屋から出て来てね。」と声をかけて、調理室の前で待った。最初は愛佳さんだったが、いつもは元気でおしゃまな愛佳さんが少し照れつつも神妙な顔で部屋から出て来た。「ちゃんとお別れできた？」と聞くとうなずき、一人で教室に歩いて戻る愛佳さんの後ろ姿が見られた。いつもは走って帰るイメージだが、静かに歩いて帰る後ろ姿に一生懸命育ててきたお蚕さまとの別れを今、受け止め、感じているのかなと感じた。続く朋子さんもお別れをして出てきた。しばらくだまって歩いて戻るが、途中で「朋子さん、いつもよく面倒見ていっぱい餌あげていたよね。お蚕さまうれしかったと思うよ」と声をかけると「うん」と答えが返ってきた。



子どもが命を止めるそのときに、同じまなざしをもって、一緒に乗り越えようとする存在として立ち会う武田教諭の姿がここには書かれている。このような教師の姿が生まれた背景には、次のような出来事があった。武田教諭は、7月5日の日記に次のように書いている。

7月5日（土）

まゆ工作の教材研究のため、前もって自分の育てていたお蚕さまをいくつか冷凍庫に入れ、命を止める。今、手の中にある命を、自分の手で止めてしまうことの重さを感じる。冷凍庫に入れる時、冷凍庫を閉める時が最も切なく罪悪感を持つ時であると感じた。「ごめんね」「これまでしっかり生きてくれてありがとう」という気持ちで別れを告げる。子どもたちとお蚕さまの別れの場面でも、まとめてではなくて、一人一人自分の手を使って自分の別れがもてるようにお別れの時間を大切にもちたい。

教材研究を通して、今、子どもが乗り越えようとするときが、どのようなときなのかを実感している教師だからこそ、その子に寄り添いながら、自分の手を使って別れの時間をもつ子どもを、「あなたのやっていることは、こういうことだよ」と後押ししようとしていることが分かる。そして、子どもたちは、それぞれに自分の願い

を実現するための活動を進めていった。

7月11日。繭を切って蛹を取り出し、繭の中の様子を見たり触ったりする活動に取り組んだ。

7月11日（金）

本時は繭を切る活動と、お蚕さまの家を作る活動に子どもたちの活動が分かれて展開することになった。一匹でも蛾（成虫）になるお蚕さまがいたら、家を作る活動に取り組む子どもたちにとっても、張り合いがでて、成虫の動きを確かめながら、実際のお蚕さまのことももっと考えながら活動することもできていただろうと残念に思う。また、繭を切る子どもたちにとっても、生きている成虫となったお蚕さまの姿を見た上で、命を止めた蛹のお蚕さまを見るのでは、生と死のコントラストがより鮮明となり、感じることも大きく違ってくるのではないかと思った。休み明け、友だちの蛾になったお蚕さまの姿を見て、子どもたちがどう感じるのだろうか。

気付いたことを話し合う場面では、これまでに脱皮した時との皮の様子の違いから、「繭の中のスペース」について考えていく子どもたちの姿に驚かされた。私は、脱いだ皮が出てきたのを見ても、小さくまとまっているなど言うことしか考えなかった。これまでの脱皮と違い、幼虫から蛹に大きく体を変える脱皮なので、脱いだ皮の様子も違ってくるのかもしれないが、狭い繭の中で脱皮をしていくことがあのコンパクトになった脱皮した皮と関係していることも十分に考えられる。お家作りに取り組んでいながらも、蛹になったお蚕さまの姿から考えることができる発想豊かな敬君や京汰君。またその話から、「自分が繭を切ってしまったのは、繭の中のスペースが狭かったから」と自分の体験を友だちの意見から編み直す発言をした日陽さん。狭い繭の中で脱皮をして、成虫になる準備をしていたお蚕さまの姿に近づくことができたことを感じた。

研究会では、お家を作るグループの活動がみんなから認められる場面を作れていなかったことについて、繭の中のお蚕さまについて、子どもたちは繭を切る前にどうとらえていたのかという点について意見をいただき、その通りだなあと足りなかったところが見えてきた。「繭を切ったら蛹が出てくる」ということは、前もって試してみた私からすれば当然のことであるが、子どもたちにとっては、繭の中は全くの未知の世界であり、あの自分が育ててきたお蚕さまがどうなっているのか、想像もつかなかった子どもたちがたくさんいたのだろう。その部分の戸惑いを大事に受け止められるような支援が必要であった。自分が育ててきたかわいかったお蚕さま、触ると柔らかくて気持ちよかったお蚕さまと、大きく変わってしまった蛹になったお蚕さま、命を止められたお蚕さまとの大きなギャップをつなぐ手だてが必要であった。



この授業は、子どもたちが、繭を自分の手で切り、出てきた蛹や繭の中を見つめたり触ったりすることを通して、自分の育ててきたお蚕さまの新たな一面を知り、さらに思いを深めていくことを願い、構想した授業である。教師は、この授業を構想するにあたり、実際に繭を切って蛹を取り出す教材研究を行い、子どもと蛹との心揺さぶるような出会いを思い描きながら本時の場をしつらえてきた。しかし、それでもまだ教師が願う学びの姿と出会うことはできなかった。目の前の子どもたちの教師を越えていく気付きや、豊かな発想に圧倒され、自分の子どもの姿のとらえの未熟さや支援の不十分さを突きつけられた。武田教諭はそう振り返っている。しかし、この問題の本質はそこにあるのであろうか。果たして、子どもの姿をよくとらえて、ここにあるような支援が構想されていれば願う学びの姿は生まれてきたのだろうか。このことについて、畔上一康先生から次のようなお話をいただいた。

先生は、先生と子どもと一本の糸でどうやってつなげていこうか、それを一本の糸をうんと編んで太くしていこうという心がけをしているってのは分かるんだけど、教室の文化っていうか、学びの文化をつくるってのは、先生が横糸になって、縦糸は子どもたち同士でつないでいかないと学習になっていかないの。だから、困

った時には、先生は子どもにイニシアチブを譲渡して、思いきって、「もうどこに行こうと構わない」くらいの思いになって、子どもたちが見つけた事実を、きちんと取り上げて、先生が共感する。または、先生もただの意見者としてそこにいるだけで、全く違う様相が生まれてくる。そこだと思うんだよ。だから思いきって深く子どもを信じて渡せるかっていうか。先生が主流に立ち続けると彼は我流になってどんどん解離していくから、「今回は思い切って蒼士くんを主流にしよう」それくらいの覚悟でやっていくことが、施す教育ではなくて紡ぐ教育って言ったわけです。今日の会ですごく思うんだけど、(子どもは、自分が)出した糸しか織れないです。こちらからどんなに立派なものを持ってきても、子どもたちも全部1本1本糸を持っていて、それをどうやって編んでいるかってのが授業なわけだから、このきれいな糸をどうやってみんなで感動できるかっていうライトを真っ赤にするだけでその糸が糸として見える。そういう丁寧さをどうやって子どもたちのまなざしに立って、どう感動できるかってところをつくっていくことが教師にとってとても重要な、と思いました。思いきってがんばって下さい。歩んでいる方向は間違っていないから。やさしく子どもを受け止める仏さんの私じゃなくて、子どもに寄り添うということは、子どもにこれはおかしいと思ったら意見者としては一んと言っている。子どもたち同士がどうやって意見を絡ませながらやっていくか。必要なのは子どもたち同士がつくりあげていく文化をどうやってつくりだすかが一番大事な。そこんことを子どもたちに任せておいて、私たちはしっかりとした座標軸をもって、「あなたが言いたいのがここなんだね」って言ってあげたい。それが材であり授業構成だと思う。それもなくて、今日気付きって言った時に、先生は座標軸をもってなかったわけでしょ。子どもたちこれだけもっていたから授業やりたいなって思っちゃいました。そういう感じを受けたので。教室に入った時なんて書いたかっていうと、「子どもたちがキラキラしてる」って書いたの。ぎらぎらになったりべたべたになったりしていくことあるかもしれないけど、きらきらの状況をどうやっていくかってことは先生のしつらえ次第かなと思います。積極的に指導していいんですから。だけど子どもの目線に立って。

教師と子どもとの糸をつなぐのが授業ではなく、子ども同士がどう糸を紡ぎ合っていくか。そこに授業の本質がある。そして、そこでの教師の役割は、子ども同士が自ら糸を紡ぎ合っていくための場をどうしつらえていくのか、そこにある。子どもが必要感をもって自ら動き出し、子ども自らが知を紡ぎ出していく学びの背景には、そうなる必然性を生み出す場がしつらえられていて、そして、その学びを責任をもって見とどける教師がその場に居ることが大切なのである。このことを本時の授業で考えると、子ども同士がお蚕さまにもっている感情を差し出しあい、そして、目の前で起こる感動を共有していくような子ども同士のかかわりをどうやって位置付ければよかったのか。そのために教師はどのような場をしつらえればよかったのか。そこが授業の核になっていたのではないだろうか。

さらに、畔上一康先生は、この「ぼくと 子どもと おかいこ日記」について、次のようなお話をされた。

この日記読ませてもらった時に、武田先生本当にご自身リニューアルしてやられようとしているんだってこと。この学年の子どもたちをもった時の向き合い方っていうのは、今まで教員人生十何年かやっている中で、本当に大きな転換を図ろうっていうチャレンジだったんじゃないかなってことを思っ、おととい手紙が届いて、手紙に一昨年ここで話したことが、こんなにも武田先生の中に言葉として残っていたというのが、まさに自己改善と向き合っていらっしゃることかなと。責任の重さも感じるんですけど、5月から始めてずっと書かれていてひとつひとつがそれなりに子どもたちとの世界をつくっている重要な部分で、歩みをしているのがよくよく分かりました。いちばんは、今までは、ある答えにたどり着かせようという発想で、もっと言うと、先生の中には、思いにそぐわない子はいらない子。自分が書いた指導案なりに道すじを埋めていくという、それでねらいを達成したという、その間に切り刻まれて捨てられた子どもたちが山ほどいたっていう。おそらくね、極論を言うと、そういうご自身の歩みがどこかにあったことへの懺悔と共に、子どもたちへの向き合い方に新しく歩みだそうというのがよくわかる。

また、松木健一先生は、次のようなお話をされた。

武田先生がお書きになった、この一連の活動の流れを書いたものを昨日いただきました。昨日一晩、ずっとそれを読んで、とても楽しかったです。改めて先生の文章を読ませていただいて、素敵だなあって思ったのは、

子どものこともさることながら、半分はご自身のことなんですね。ご自身の振り返りが半分書かれていました。教育って相互性だから、子どもだけが成長するわけじゃなくて、子どもにかかわりながら教師が成長する話でもあるんで、ああいう文体で書かれても納得できる話だなんて。これでもうひとひねりして、最後に先生がどう思ってこられたのかってことを書いた上で、今度は一人一人の子どもがどんなふうに成長しているのかわかって、子どもの筋でもう一回、例えばもう一回蚕の実践を組み立ててみて表現してみようなんてことができると、今まで見えてこなかった部分がまた見えてくるんじゃないかって気がします。一回一回の実践で先生ご自身が何を考え、何を悩んだかってことがこの間見せていただいた文章には綴られていました。とても正直に書かれていた文章だなと思います。

松木健一先生、畔上一康先生は、武田先生の教師としての自己改革や学級経営へのものがきを受け止め、意味付けてくださっている。この半年間、武田教諭は、教師自身の記録を蓄積しながら自分の姿を内省し、教材研究に没頭しながら授業づくりを進めてきた。それでも、授業の本質がとらえきれない自分がいることに直面し、さらなる変容を願い日々葛藤している。それだけ、教師が変わるということは頭で考えるほど簡単なことではないということである。しかし、武田教諭の目の前の子どもの事実への謙虚さ、そして、素材に自らのめり込んでいこうとする教師のからだ。子どもと共に歩んでいく教師の姿は、自らも学びの主体として探究し続ける教師の姿ではないかと、私たちは考えている。

〈この事例から示唆されたこと〉

- ① 教師が素材を求め、素材に入り込んでいくことは、素材との間柄を変えていくことにとどまらず、同時に子どもに関心を向け、その接点を探ろうとする教師のからだをつくっていく。そして、子どもの姿に関心を向けていく教師は、目で見えて分かる表面的な姿からだけでなく、その子の内に目を向け、どんな思いが生まれ、何を求めようとしているのかにまで思いを巡らせていく。
- ② 子どもに探究してほしいと願う以上、まず教師が探究心をもって素材とかかわり、その味わいを知っておくことは、子どもの探究の道すじを描くためには必要不可欠なことである。対象について、その表面を触った程度の教材研究では、およそ教師は自分の構想に子どもにあてがっていきたくらうし、目の前の子どもの学びの深層にせまっていくことやその子の育ちをとらえていくことは難しい。
- ③ 授業の中で何かを越えようとしている子どもとともに、教師も葛藤しながら同じようにそれを乗り越えようとしている存在として子どもの前に居るのである。子どもと同じまなざしをもって対象と向き合い、子どもが動き出す場の中にそういうからだをもった教師が居ること、そのことが大切である。
- ④ 子どもたちに、新たな問題と直面したり、未知の他者と出会ったりしたときに、自ら考えよりよく問題を解決する力をつけたいと願う私たちにとって、大切なのはどれだけたくさんの知を獲得したのかではなく、どのような出来事を通して知を生み出したのか、である。子どもが学びの主体として、自分の体験と友の言葉をつなぎ、紡ぎ合わせながら知を生み出していく姿を具現していくために、教師は、具体的な文脈の中での子どもの育ちをみていくことが大切になる。
- ⑤ 教師と子どもとの糸をつなぐのが授業ではなく、子ども同士がどう糸を紡ぎ合っていくか。そこに授業の本質がある。そして、そこでの教師の役割は、子ども同士が自ら糸を紡ぎ合っていくための場をどうしつらえていくのか、そこにある。子どもが必要感をもって自ら動き出し、子ども自らが知を紡ぎ出していく学びの背景には、そうなる必然性を生み出す場がしつらえられていて、そして、その学びを責任をもって見とどける教師がその場に居ることが大切なのである。
- ⑥ 教師が変わるということは頭で考えるほど簡単なことではない。しかし、目の前の子どもの事実への謙虚であり、そして、素材に自らのめり込んでいこうとするからだになること。子どもと共に歩んでいく教師の姿は、自らも学びの主体として探究し続ける教師の姿ではないかと考えたい。

(2) 対話を通して、教師同士がつながりながら、互いを成長させていく同僚性

武田教諭は、この授業実践の中で、自分が考えたことや感じたことを研究部会はもちろんであるが、同じ学年

の濱教諭との対話を通して、次の構想を練り、授業を進めていった。同じ2学年の濱教諭の学級でも、素材として「蚕」を選定し、生活科の授業を進めていた。毎日、放課後になると職員室で、今日起こった出来事やそこでの子どもの姿を伝え合い、そこからどんなことが見えてきたのか、そして次の日にどう支援をしていけばよいのかを考え合っていた。その時間は、数時間に及ぶこともあった。単元の学習が進んでいるのだが、毎日が教材研究であり、日々変わっていく子どもの意識をていねいに捉えていこうとする姿は、まわりの教師にも強く伝わってきた。そして、濱教諭は、このときの対話について次のように振り返っている。

武田先生からお蚕様の飼育の仕方や活動の様子（桑の葉の場所、葉っぱの種類、子どもたちの様子等）、お蚕様の特徴等を教えてもらったり、お蚕さまの成長について情報交換をしたりしていました。お蚕さまという共通の材を通して一緒に考えたり活動できたりしたことは貴重なことでした。お蚕さまを育てていると、桑をむしゃむしゃ食べ、日に日に大きくなっていくお蚕様への愛着が生まれ、わが子のようにかわいがって育てていた気がします。子どもたちと同じように、繭になってしまうとお世話することが減ってなんだか物足りなさやさみしさを感じたり、繭の中で命をとめてしまう時には悲しくなり、蛾になった時は喜んだり思いを共有することができました。クワコがいたことを教えて頂いたこと、驚きと共に喜びでした。桑の葉をゆでて食べたとき意外とおいしかったこと。お蚕さまが脱皮をした頭の皮を見せてもらったことは、驚きと感動でした。

濱教諭は、日々起きる出来事の感動を武田教諭と分かち合いながら、自分自身も対象とのかかわりに浸り込んでいった。そして、「一緒に考えたり活動できたりしたことが貴重なことだった」と、その対話自体に大きな意味があったことを綴っている。

この教師の同僚性について、松木健一先生から次のようなお話をいただいた。

実際にやってみて、それを何とかして振り返りながら言葉にして、組み立て直しをしてみる。このたゆまない繰り返しの中で成り立つ知の方が、教師の知の中では中心を占めているんじゃないかなと思うんです。そういう意味でいくと、語って初めて身に付くものなんですよ。子どものやっていることを何とかして言葉にしよう、あるいは、自分の経験したことを何とか言葉にして人に伝えようとする中で成り立つ知であって、それは裏を返して言うと、聞いてくれる人がいないと成り立たない知なんだろうと思うんです。つまり、教師って一人では教師になれないってことなんです。同僚がいて、ねえねえ、ちょっと聞いてやって、人の実践に耳を傾けてくれる人がいて、初めて自分の実践の意味が分かってくる。言葉に置き直していくってことができる。そういうことじゃないかなって思うんです。教師がつながっていく、それは教師が育っていくための基本的大前提だと思うんです。同僚同士で、子どものことについて語り合っていく、そういうことをやっぱり前提にしないと、教師は育っていかないし、力もつかないんじゃないかと思うんです。教師のもっている力、あの、熟練した力ってのは何なのかなと考えたときに、自分の経験したことをもとにして、きちんと実践をするってことだと思うんです、まずは。人から借りてきたことを、人に言われて思ったことをそのままやるような実践のやり方は、子どもに対して不誠実だと思うんです。自分が経験して、これがいいなって確信をもってやれることがいちばん重要だなって思うんですが、そうなる、一人一人は自分の経験を越えていけないことになっちゃいますよね。自分が責任をもって子どもに対応するってことは、自分の経験に基づいてやるべきだと。って言ったら、その人の経験は他の人は味わうことはできないわけだから、その人の中だけで閉じちゃうことになっちゃいますよね。そしたら自分を越えていくことができなくなっちゃいますよね。でも、できるんです。その矛盾をどうやって解決するかって言うと、先生方が話し合うってことなんです。同僚と話をしているときに、これも、ここで何度か繰り返し言っていますが、先生方はプロだから、プロの方が語り合っているときって、カウンセラーのような聞き方はしないんです。カウンセラーの話の聞き方は、可能な限り自分を鏡のようにして返していこうとします。そんな聞き方をする人なんて、誰もいないと思うんです。同僚同士で話をしているときはね。どんなふうに聞いているかと言うと、人の話を聞いているのは半分、あとの半分は人の話を聞きながら自分のことを振り返っています。人の話を聞きながら、ああそうだよなあ、それがいいんだよなあって思いながら聞いていたりするわけですよ。ああすればいいよなあって思いながら聞いているってこ

とは、何をしながら聞いているかと言うと、自分の実践を振り返っているわけですね。自分の実践を新しく意味付けし直しているんですよ。過去においてうまくいかなかった実践であっても、思い出したくないって思う実践であっても、今、人の話を聞いた瞬間に、それを補っていくと意味のある実践事例として自分の中に位置付けていくんです。失敗した事例で、もう思い出したくないと思う事例で仮にあったとしても、人の話を聞いて、そこを補ってみると、こうすればいいんだっていう実践として自分の中に位置付けていくんです。教師は、自分の実践を超えていくことはできないんです。だけど、自分の経験そのものは、絶えず新しく作り直していくことができます。新しい意味が付与されて、新しい意味付けがなされた実践事例として作り直しをしていくことができます。教師は、そうやって過去をつくり直すことで、明日に向かって歩いていく、そういう専門職です。だから、責任をもって対応していくことができる、だから、先生方はつながっていかなくちゃいけない。語りを聞いてくれる人がいなくちゃいけない。語りを聞くチャンスがなきゃだめ、ということになります。語らないと分からない。経験しただけでは分からない。経験したことを言葉に出そうとしたり、あるいは、言葉で聞いたことをもう一回経験で裏打ちをすることで分かっていく知が、先生方の知の中心なんじゃないかなと思うんです。それは、専門職のコミュニティができていないと進まない話でもあります。絶えず、みんなが子どものことについて「あのさあ」って言える雰囲気をつくり出していくことが、先生方の成長を支えているって思っています。

私たちが日々語り合っていくことは、自分の実践を意味付け、教師に必要な知を紡ぎ出していくことにつながっていく。子どもたちが、分からないことを言葉にして分かっていくように、教師もまた、自分が出会った子どもの姿を言葉にしていくことで、子どもを理解し、子どもに近づいていくことにつながっていく。まさに、前述した武田教諭の子どもへのまなざしが変わっていったように、自分の実践を言葉にしていくことで、教師のからだも変わっていくのである。そして、そのためには、自分の実践や出会った子どもの姿を語り合う教師の同僚性が重要なのである。

〈この事例から示唆されたこと〉

私たちが日々語り合っていくことは、自分の実践を意味付け、教師に必要な知を紡ぎ出していくことにつながっていく。子どもたちが、分からないことを言葉にして分かっていくように、教師もまた、自分が出会った子どもの姿を言葉にしていくことで、子どもを理解し、子どもに近づいていくことにつながっていく。そして、そのためには、自分の実践や出会った子どもの姿を語り合う教師の同僚性が重要なのである。

1 対象と子どもをつなぐ教師のあり様と実感のある教材研究

- (1) 教師が素材を求め、素材に入り込んでいくことは、素材との間柄を変えていくことにとどまらず、同時に子どもに関心を向け、その接点を探ろうとする教師のからだをつくっていく。そして、子どもの姿に関心を向けていく教師は、目で見て分かる表面的な姿からだけでなく、その子の内に目を向け、どんな思いが生まれ、何を求めようとしているのかにまで思いを巡らせていく。
- (2) 子どもに探究してほしいと願う以上、まず教師が探究心をもって素材とかかわり、その味わいを知っておくことは、子どもの探究の道すじを描くためには必要不可欠なことである。
- (3) 授業の中で何かを越えようとしている子どもとともに、教師も葛藤しながら同じようにそれを乗り越えようとしている存在として子どもの前に居るのである。子どもと同じまなざしをもって対象と向き合い、子どもが動き出す場の中にそういうからだをもった教師が居ること、そのことが大切である。
- (4) 大切なのはどれだけたくさんの知を獲得したのかではなく、どのような出来事を通して知を生み出したのか、である。子どもが学びの主体として、自分の体験と友の言葉をつなぎ、紡ぎ合わせながら知を生み出していく姿を具現していくために、教師は、具体的な文脈の中で子どもの育ちをみていくことが大切になる。
- (5) 教師と子どもとの糸をつなぐのが授業ではなく、子ども同士がどう糸を紡ぎ合っていくか。そこに授業の本質がある。そして、そこでの教師の役割は、子ども同士が自ら糸を紡ぎ合っていくための場をどうしつ

らえていくのか、そこにある。子どもが必要感をもって自ら動き出し、子ども自らが知を紡ぎ出していく学びの背景には、そうなる必然性を生み出す場がしつらえられていて、そして、その学びを責任をもって見とどける教師がその場に居ることが大切なのである。

- (6) 教師が自身のもつ教科観を編み直していくきっかけは、1時間の授業を通して、目の前の子どもたちにどんな力をつけていきたいのか、そのことを自分自身に問いかけたときに生まれてくるのではないか。そのことが明確になって初めて、子どもと獲得したい何かが具体的に描かれ、そして、そこに子どもと教師が共に向かっていく道すじが教材研究を通して構築されていくのではないだろうか。
- (7) 私たちが日々語り合っていくことは、自分の実践を意味付け、教師に必要な知を紡ぎ出していくことにつながっていく。子どもたちが、分からないことを言葉にして分かろうとしていくように、教師もまた、自分が出会った子どもの姿を言葉にしていくことで、子どもを理解し、子どもに近づいていくことにつながっていく。そして、そのためには、自分の実践や出会った子どもの姿を語り合う教師の同僚性が重要なのである。

2 新たな知を自分たちの言葉で紡ぎ出していく子どもを具現するための支援にかかわって

- (1) 子どもは、うまく言葉にならないものや簡単に言葉にできないものを、言語化していくという行為を通して、これまで考えられなかったことを考えられるようにしていく。このような、言葉にならないものを言葉にしていく行為そのものが言語活動であり、子どもは未知のものを様々な方法で言語化することで理解しようとしていく。
- (2) 対象との実感のあるかかわりが体験として位置付いていることは、友と考え合う必要感を生み出し、その体験にもとづいた根拠を明確にした言語活動が行われ、伝え合いによって新たな知が紡ぎ出されていくことにつながっていく。
- (3) 子どもは、互いに考えを伝え合っている友の言葉を手がかりにし、友の考えと自分の思考とをつなぎながら自分の考えをつくっていく。
- (4) 子どもたちは、いろいろな分かり方が差し出されていく中で、その友の言葉や表現を聞いたり見たりし、その接点を探りながら分かろうとしていく。そして、このような関係性の中でこそ、理解の程度に差があったとしても共に学習できる協働学習の場が生み出されていく。

3 自分と他者とのつながりを実感し、自己の学びを意味付けていく子どもを具現するための支援にかかわって

- (1) 1時間の終わりに、その時間の出来事を自分なりに意味付けていくことは、自分の学びを自覚化し、具体的な文脈をもつ出来事として記し、次の学習への意欲を高めていく。
- (2) 自分が今まで獲得してきた知へ新たな意味を付加し、見方や考え方の変容が起きたり、分かり直したという実感をもったりすることが、子どもにとって学ぶ楽しさや喜びにつながっていく。
- (3) 一時間の授業を終えて、今自分が感じていることや考えていることが生まれるに至った道すじの中に、共に学んだ他者の痕跡がはっきりと残されていることを自覚することは、「みんなで考えるっていいな」「一緒に活動するって楽しいな」という協働学習への主体的な態度を培うことにもつながっていく。

おわりに

武田教諭が綴った「ぼくと 子どもと おかいこ日記」には、7月7日（月）の出来事が次のように記されている。

7月7日（月）

朝、泰志君が「先生、お蚕さま、黒い血が出て死んでいたから、お墓作って埋めてきた」と声をかけてきた。「繭を作れなかったお蚕さま？」と尋ねると「そう」と答えた。「やっぱり蛹になれなかったんだ。すぐにお墓作ってあげて優しいね。先生の繭を作れなかったお蚕さまも死んじゃったみたいなんだよね」と話すと、「じゃあ、一緒にお墓作ってあげる」と言ってくれたので、「いいの？お願いね」と休み時間に一緒に行く約束をする。休み時間には、泰志君と二人で、私の死んでしまったお蚕さまを持っていこうとしていると、拓也君、航介君、京汰君が、「どうしたの？」



と声をかけてきた。事情を話すと、「ぼくも手伝ってあげる」といっしょに来てくれることになった。小雨が降る中みんながグラウンドに向かうが、その道中、傘を持っている泰志君が傘を持たずに濡れて歩いていた私に傘をかけてくれようとした。「泰志君が濡れちゃうから先生はいいよ」と声をかけると「でもお蚕さまも濡れちゃうじゃん」と、私がお蚕さまを持って死んでしまったお蚕さまを泰志君が気遣って声をかけてくれた。「そうか、お蚕さま濡らしちゃったらいけなかったよね。ありがとう。じゃ泰志君、お蚕さま持ってくれる？」と聞くと「いいよ」と答えてくれたので、お蚕さまを持ってもらった。6月30日に泰志君と繭を作れなかったお蚕さまについていっしょに悩みを共有したことがこのような泰志君の姿につながっているのかは定かではないが、泰志君のお蚕さまへの心遣いにうれしくなる。グラウンドに着くと、泰志君は私のお蚕さまも自分のお蚕さまの横に埋めてくれた。泰志君が埋めていた場所は石碑の裏側で、「どうしてここにしたの？」と尋ねると、「ここなら雨が降っても流されないから」と答えた。「場所も覚えていられるし、踏まれる場所じゃないし、いい所だね」と声をかけた。泰志君は最後に「ちょっと待って！」と言ってアカツメグサを近くから摘んできてお墓の上に乗せてくれた。お祈りをみんなですて、お別れを告げた。「雨の中、みんなありがとうね」と声をかけ、みんなが教室に戻った。今回自分からお墓を作っていたり、私のお蚕さまのお墓を一生懸命作ってくれたりする姿から、お蚕さまを最後まで大事にしようという優しい気持ちが伝わってきた。

雨に濡れないようにと教師をおもんばかりの子どもと、その行為に心を動かされる教師が、一緒になって雨の中を歩いている姿が書かれている。教師自身が「蚕」という素材にのめり込み、そして子どもと共に探究の道すじを歩んできた。だからこそ、教師は子どもと同じまなざしで、「お蚕さま」との別れのこのときを分かち合うことができたのだと思う。決して平坦な道のりではないのだけれど、思いを込めて活動してきたからこそ、思いがけない出来事に会おう。そういう体験こそが、教師のからだを変え、子どもと共に創る授業を具現していくのだろう。

III 資料



岡谷田中小学校の研究のスタートにあたって

河 西

**大きなサイクルを 1 回まわす研究から、
小さなサイクルをたくさんまわす研究へ**

指導案づくりに膨大な時間をかけて、1 年間に 1～2 回の研究授業を行う。そして、研究授業が終わると、授業者が授業を振り返っての「反省」をまとめ、その年の研究を閉じる。指導案づくりももちろん大切なことではあるが、これでは、教師の力量形成にも、子どもに返る研究にも、研究の日常化にもなかなかつながらない。1 回の授業を振り返り、子どもの姿を見返し、そこから次の授業を構想する。この小さなサイクルをたくさんまわすことで、1 回 1 回の授業をつなぐ文脈（ストーリー）が生まれてくる。そこから見えてくる、テストでは測れない相対値として見えてくる子どもの育ち、日々の授業と自分の〈観〉－教師観、教科観、子ども観－とのつながり。研究授業を何回やったかではなく、子どもの学びを語り合いながら、教師が互いの〈観〉を問い合い、編み直すような場面をどれだけつくれたか。そこに「研究」の軸足を置きたい。

1 研究主任としての私の思い

○教師がつながってこそ、子どもは育つ。

子どもの育ちを願い、様々な教育研究に取り組んできて思うことは、素材選びや教材研究、授業展開の工夫、教師の手立が子どもの育ちに重要な意味をもつことに間違いはないが、その前提として、教師同士がつながっていることが非常に重要であることを実感してきました。そして、そのつながりを築くのが教育研究だと、そこに間違いはないというのが今の私の思いです。「友と共に」の姿を子どもに求める以上、友と学び合える実践者として教師同士がつながっていること、そういう姿で子どもの前にいることが、私たち教師の責任でもあると思うからです。

では、なぜ教育研究が、教師がつながるために重要なのか。

○子どもの学びや育ちを語り合う関係性の中でこそ、教師は自分を語る。

教師同士のつながりを築いていくためには、一人一人の教師が、子どもの姿を通して、自分の教師観、教科観、子ども観といった教師としての〈観〉を差し出し合いながら、子どもの育ちや学びを意味付け、めざす姿を共有していくことが重要だと思っています。そして、もっとも大事なことは、そういう語り合いができる関係性の中でこそ、教師は自分を語るができるのではないかということです。これは、学級経営でもまったく同じことが言えると思うのですが、互いの意見や考えを認め合える学級文化があるクラスでは、一人一人が自分の思いをしっかりと表現し、めざす方向を共有し、歩みを共にしていくことができます。そして、日々の暮らしの中で自己実現の喜びを味わいながら、互いに高め合っていくことができます。このことについて、松木先生は次のようなお話をされています。

まず感じたことは、子どもたちの表情が硬くなっていない。やわらかい表情をしている。で、ゆとりがあるように見えるんです。人の話を聴いていられる子が多いなあって思うんです。そしてそれは、先生方が一生懸命子どもたちの話を聴くっていうことをされているからなんだと思うんですね。そうやってお互いが学び合う仕組み。聴き合って、語り合っていくような姿勢ってというのが、子どもたちのベースにできあがってきているなって思いました。で、その背後には、同じことを教師がやっているからなんだと思います。子どもたちに求めていく、語り合ったり聴き合ったりしていくようなことを、実は教員集団の方でも同じように語り合ったり聴き合ったりするようことを日々やったりする

から、同じような仕組みをそのまま教室に持ち込んでいけばいい。そんな仕組みになってきているんじゃないかなあというふうに思いました。授業づくりのところだけを回しているのではなくて、じっくり話し合ったり、何度も繰り返しながら授業をつなげて話したり、まとめたもので話し合ったりしているので、それぞれの先生方の価値観のところまで届き始める。だから自分が変わるっていう実感を、それぞれの先生方がおもちになり始めている。授業を通して、自分が自己実現していくって思えてきている。自己実現していくって思いがその中に出てくると、そして、ビジョンが共有されて、めあてが共有されてくると、チームとして学校が動き始める。

さらに、教師が子どもの育ちや学びを語り合っていくことで、どんなことが生まれてくるのか。

○教師は、語って初めて身に付く

教師が、子どもの育ちや学びを〈言葉〉にして表現しようとしたとき、自分の中でなんとなく見ていた子どもの姿がより鮮明に浮かび上がってきます。そして、その子どもの前にいる教師としての自分と向き合い、そのあり様を問うようになっていきます。また、その場で聴いている教師も、その都度自分の実践に引き寄せて考え、自分の過去をつくり直し、改めて価値ある実践として再構築できます。そういう営みの中で、教師は〈子どもの見方〉を変容させ、自身の〈観〉を編み直していきます。そして、それが教師の力量形成にほかならないと思っています。このことについて松木先生は、次のようなお話をされました。

実際にやってみて、それを何とかして振り返りながら言葉にして、組み立て直しをしてみる。このたゆまない繰り返しの中で成り立つ知の方が、教師の知の中では中心を占めているんじゃないかなと思うんです。そういう意味でいくと、語って初めて身に付くものなんですよ。子どものやっていることを何とかして言葉にしよう、あるいは、自分の経験したことを何とか言葉にして人に伝えようとする中で成り立つ知であって、それは裏を返して言うと、聞いてくれる人がいないと成り立たない知なんだろうと思うんです。つまり、教師って一人では教師になれないってことなんです。同僚がいて、ねえねえ、ちょっと聞いてやって、人の実践に耳を傾けてくれる人がいて、初めて自分の実践の意味が分かってくる。言葉に置き直していくってことができてくる。そういうことじゃないかなって思うんです。教師がつながっていく、それは教師が育っていくための基本的大前提だと思うんです。同僚同士で、子どものことについて語り合っていく、そういうことをやっぱり前提にしないと、教師は育っていかないし、力もつかないんじゃないかと思うんです。

さらに、畔上先生は、次のようなお話をされました。

教育研究とか、授業研究会を振り返って見たとき、今まで、技術や方法をどれだけ持つかということを考えていた気がするわけです。しかし、その中で開かずのパンドラの箱があった。それは、先生が子どもと共にどう居るかっていう問題。つまり「to be (在る)」の問題。どんな術を、どれだけ持つかという「to have (持つ)」の世界では、例えば教師のまなざし（この子をどう思いそこに居るのか）といったことは敢えて問題にしてこなかった。教師は自らを義として施し教える者という前提から考えようとしてきた。しかし、一方「to be (在る)」の世界では、武田先生が試みたように、教師は子どもと共に味わい分かち合う者としてそこに居る。

また、畔上先生は、次のようなお話もされています。

この実践における T 教諭の学び・実践知は様々に考察できる。しかし T 教諭にとっては、「あの森」での小さな発見と感動の出来事がパッチワークのように縫い合わされた「森と子どもとわたし」、その物語知としてしか語り得ず、この知こそ、自らの「からだ」を拓き、省察する実践者としての T 教諭の育ちに他ならないと考える。この知は「技」とか「勘」といった T 教諭の「からだ」に由来するものであって、一般化（外との往還）することに余り意味を持たないとも考える。

また、この実践の背景にある、その日の出来事を語り合える同学年の H 教諭や、T 教諭と共に森に

行って語り合うK教諭の存在を思うとき、この物語は決してT教諭のモノローグではなく、共感し分かち合える組織の中で物語ることを通して、気がつけばT教諭の《観》は変わり、教師としての「からだ」も育っていったように思う。更に《省察》が急速に広がる中、形式化していくことへの危惧を持ちつつ、T教諭の実践には、《省察》たらしめるものが埋め込まれていると考える。

「子どものやっていることを何とかして言葉にしよう、あるいは、自分の経験したことを何とか言葉にして人に伝えようとする中で成り立つ知」「耳を傾けてくれる人がいて、初めて自分の実践の意味が分かってくる」「共感し分かち合える組織の中で物語ることを通して、気がつけばT教諭の《観》は変わり、教師としての「からだ」も育っていった」という言葉と、自分たちの実践をつなげていったときに、やはり教育研究の本質の所在がそこにあることを、私は実感してきました。

そして、生き生きと学んでいる子どもの内側にあるもの、そのかぼそい光を見るまなざしを養っていくには、子どもの育ちや学びを〈言葉〉にし、今まで見えていなかった子どもの姿に出会いながら、その事実を教育の出発点にしていくことが大切ではないかと考えています。そして、それは遠回りにも思える営みではありますが、そこには教師のからだの内側からの学びの手応えがあり、そして喜びがあることを感じています。

では、そういうつながりを築いていくために、大切にしていくことは何か。

○「ベテランの経験のある先生方が学ぼうとしない学校は、同僚性が硬直する」

2月に福井大学で行われたラウンドテーブルに参加してきましたが、そのSessionⅢのforumで、「埼玉県立新座高校」と「福井県立若狭高校」の授業研究の実践発表を聞きました。新座高校が直面していた課題は、「退学率3割以上」という状況です。そういう状況ですので、授業も成立しないような状態で、教師は生徒指導に追われるような毎日だったとのこと。実際に授業の映像も見せていただきましたが、「これは休み時間ではありません。授業中です」という説明が必要になるような状況でした。二十代後半で新座高校に赴任したという発表者の先生は、「放課後に、少しでも生徒が関心をもってくれるようにカードを使った授業の準備をしていたら、同僚の先生から『そんなことをやめろ。ここは生徒指導の学校だ』と言われ、ものすごいショックを受けました」と、その当時の学校の雰囲気聞かせてくださいました。それから8年。とにかく「授業研究が大事」と授業研究に力を入れ、全職員が授業を公開し、みんなで生徒の学びを語り合う取組を継続したそうです。その結果、生徒の退学率は1割を下回り、授業の様子も大きく変わってきたとのこと。そして、この発表を聴く中でもっとも関心をもったのは、新座高校の授業研究会のねらいです。新座高校の授業研究会の基本方針は以下の通りです。

ねらい

- 1 教師が互いに学び合う職場づくりのために行う。
- 2 すべての生徒が参加できる授業をつくるために行う。

原則

- 1 課題意識をもって主体的に参加する。
- 2 生徒を様々な角度からとらえる。
- 3 授業内の生徒の様子を語り合い、その背景・原因について意見交換する。

ここから示唆されることは、「授業研究」が「学校づくり」につながっていったということです。そして、語り合う同僚性が大切であるということは、小学校だけのことでなく、もっと一般的で、もっと本質的であることを実感しました。改めて、「教師がつながってこそ、学校は変わり、子どもは育つ」。その確かさを感じました。

さらにラウンドテーブルのsymposiumで、コメンテーターの秋田喜代美先生（東京大学大学院教授）が、授業研究のあり方について次のようにお話されていました。

「ベテランの経験のある先生方が学ぼうとしない学校は、同僚性が硬直する」

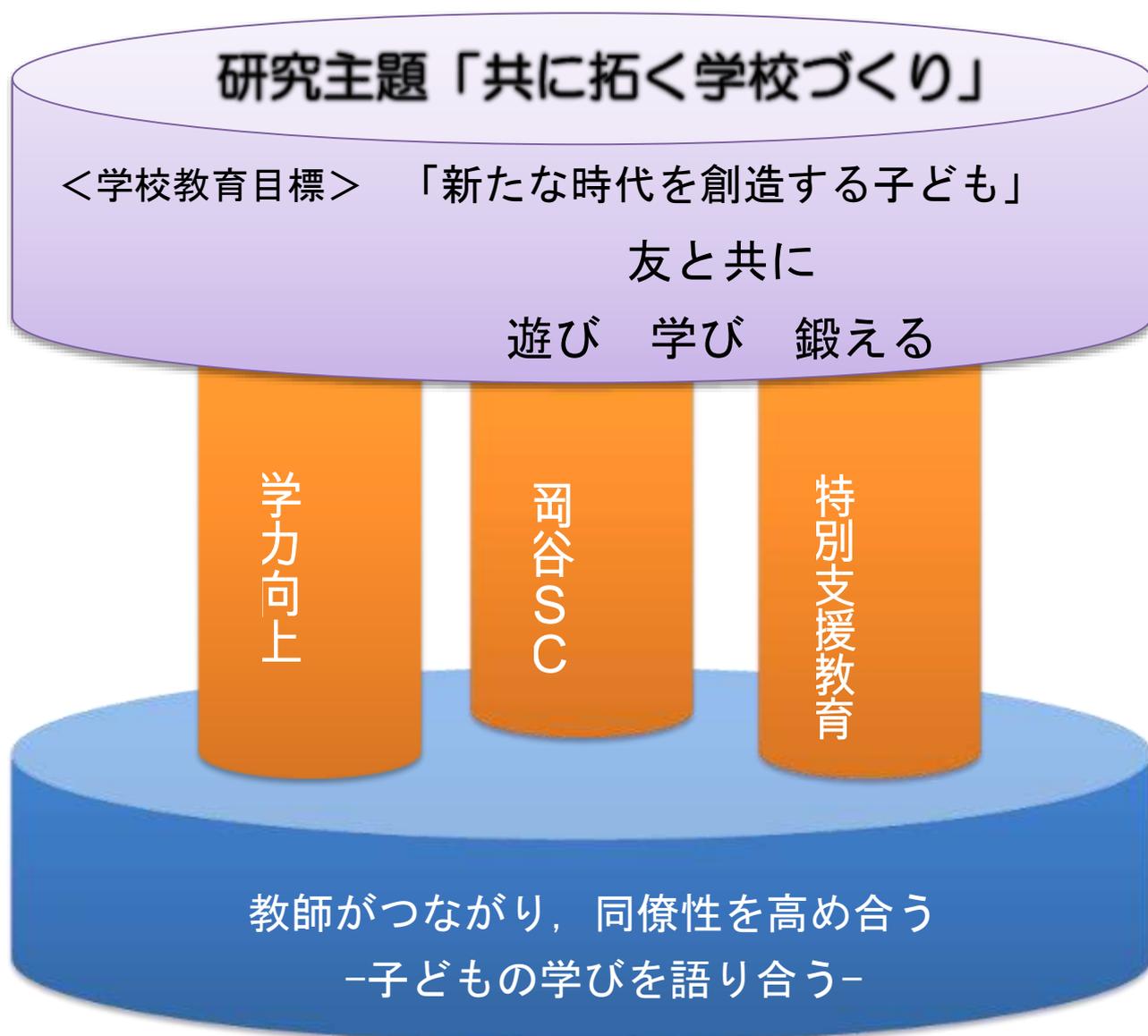
知識や経験も豊富な先生方が、率先して学ぼうという姿勢でいる。このことが、ものすごく大きな意味をもつことを改め痛感しました。poster sessionを聴いてくださった先生方と話をしていると、どの先生方も「経験のある教師ほど、異質なことや痛みを伴うものへの抵抗感は強い。自分を変えることに強い拒絶を示す」という意識をもっていることが容易に推測できました。子どもも教師も、互いに学びの主体として、共に歩み、共に歩んでいく、そのことの大切さを自分自身に言い聞かせながら、教育研究に取り組んでいきたい。そう思っています。

○教育研究は学校づくり

そして、最後は、前述したとおり「教育研究」は「学校づくり」そのものであるという私の実感です。「田中小学校」と「岡谷小学校」が統合し、「岡谷田中小学校」として新たな学校づくりを進めようとしている今、まずは、職員がつながり、その同僚性を深め、めざす子どもの姿を共有していくことから学校づくりを始めていく。そのための教育研究の歩み出しにしていってはどうか、そう考えています。

2 岡谷田中小学校の研究構想図

そこで、平成28年度の研究の全体構想を次のように考えました。



3 具体的な取組

◎「平成 28 年度学校運営計画」にある「自己課題への取り組みについて」の運営の仕方について、以下のような方法で実践していきたい。

(1) 日常の研究推進

- 毎週月曜日の「重点研究」の時間を使って、3つの部会ごとに研究を推進していく。
- 各月1回の「重点研究」の時間を「全体研究」の時間として位置付け、全職員で子どもの姿を語り合う時間をつくる。また、毎月1回、月曜日以外の曜日で、子どもの姿を語り合う時間をつくる。

(2) 子どもの姿を語る時間の持ち方

- 毎月2回程度、職員室にみんなが集まり、発表者の資料をもとに、子どもの姿について語り合う。
(部会での研究の動き出しを見ながら、6月くらいから始めていきたいと考えています)
- 全職員(学級担任、校長、教頭、専科、特別支援、養護教諭)が発表できるようにしたい。
- 各部会での授業実践を報告し合う機会にもしていきたい。研究の共有化にもつながっていく。
- 1回の報告は、15～20分程度。毎回1名ずつの報告を行えるようにしていきたい。
- 報告の内容は、授業実践でもよいし、集会の姿、朝の会帰りの会での姿等、学校でのくらしのどの場面でもよいものとしたい。
- 報告の形式は、A4版1枚程度。①授業のねらい(教師の願いや意図)、②子どもの姿(事実)、③教師が感じたこと(考察)の3つの内容を入れたい。特に、大事にしたいのは③の教師が感じたことです。目の前の子どもの事実に対して、その先生がどう向き合い、何を感じ、どんな言葉でその事実を意味付けたのか。そこを大事にしていきたいと思います。
- 発表していただいた報告について、私が感じたことを毎回研究通信でお伝えしていきたいと思えます。また、ご発言できなかった先生については、感じたことを一言でも二言でもよいので、朱書きして発表した先生にお返しいただけるとありがたいです。

4 各部会での研究推進

各部会主任のリードで研究をすすめていくが、以下の点は共通にしていきたいと思えます。

- 部会でテーマを据え、テーマ具現にむけた研究推進にしていく。
- みんな実践をもちより、実践から学ぶ研究を大切にしていく。「臨床の知」を大切にしたい
(その実践を、前述した子どもの姿を語る時間を使って、全職員でも語り合いたい)

「臨床の知」について

教育理論の抽象性に拒絶反応を示しながら具体的な「やり方」を求めることはあっても、その「やり方」よりも具体的な、その母胎となった事例や経験にじっくりと降り立つ時間や機会をもつ人は意外に少ないものなのだと思う。具体的な子どもの姿が記された事例を交換したり教師の葛藤をはらんだ経験を交流することは、それを表現する側にとっても、それを受け止める側にとっても、時間のかかるものだからだ。一般的なモデルの普及やマニュアルの流通の速度に対して、そうした事例の交換や経験の交流の仕草はいかにも愚鈍に見える。しかし、そこには外向きではない内からの学びの手応えがあり、顔と名前をもった〈だれか〉がつながっていく喜びがある。

子どもが学びの中で生き生きとしていく場面に教師が立ち会うことも、おそらく「稀」なことだろう。なにかを越えて生きようとしているそれぞれの子どもの内側の格闘もまた「心を配って見なければ見えてこない。」だからこそ、その「かぼそい光」を見るまなざしを養い、鍛えあっていくことが、教育の現場におけるもっともたいせつな知恵になるのだと思う。

〈臨床の知〉とは、第一に、対象になにかをすることによって研究される操作的な知ではなく、相手

と共になにかをすることによってみいだされる参与的な知であり、第二に働きかける者と働きかけられるモノが固定した一方的な知ではなく、働きかけるものが働きかけられながらそれぞれに何かを越えていく相互的な知であり、そして、第三に、それは〈私〉をなくすことによって一般性を確保しようと主観を切り捨てた客観的な知ではなく、むしろかわりを生きる私の経験に立ち返り、その経験の内側から紡ぎ出されることばを他者のそれと編みあわせていこうとするような、主観をくぐりぬけた対話的な知である。
(岩川直樹「総合学習を学びの広場に」より引用)

5 研究主題について

研究主題を「共に拓く学校づくり」と考えました。主題設定の理由としては、以下のような立場で考えています。

- 岡谷田中小学校のスタートにあたり、教育研究を通して学校づくりを進めていくという立場。
- 「友と共に」という学校教育目標の言葉を受け、学校教育目標の具現に向けた研究主題であることを明確に示すために「共に」という言葉を位置づける。
- さらに、「新たな時代の創造」を「拓く」という言葉で表現する。
- 研究は、教師の研修であるという立場から、教師も子どもも共に学ぶという意味での「共に」。そして、「拓く」には、教師自身の成長も含めたい。
- 今年度、岡谷田中小学校に集まった同僚の先生方と、今ここから新たなつながりを築き、岡谷田中小学校を「共に拓く」という願いを込めたい。

対象の本質を共に味わう子どもと教師

研究の柱1 [対象の本質を探る教材研究] 研究の柱2 [その子のまるごとに向き合う子ども理解]

【つむぎ部会】 『人・もの・こととのかかわり中で 自ら動き出す子ども』

<成果>

- ・クラスの活動(つむぎの時間の中心活動)がその時々イベントごとではなく,継続したものとして子どもたちのものになってきている。また,つむぎの時間に限らず,日常の中にそのものが溶け込んできていること。
- ・継続的なかかわりによって,活動が自ずと広がり深まってきていること。
- ・人・もの・こと とかかわりながら,自らの一步を踏み出している子どもがいること。
- ・その時の子どもの姿を振り返り,自分の立ち位置を振り返る教師がいること。

<課題>

- ・授業を見合い,子どもの姿から議論していくこと。
- ・子どもたちから活動が生まれ,自分たちの手で創り出そうとしている子どもたちを目の前にしているときの教師の役割は何か。
- ・クラスのストーリーを語る教師から,その中にある個のストーリーを語る教師。

【社会科部会】 『社会的事象と自分の認識を関わらせながら, 自分の見方・考え方を豊かにしていく社会科学習はどうあったらよいか』

<成果>

- ・子どもから立ち上がる, それぞれの見方・考え方が顕在化した学習問題の設定
- ・対象の本質と子どもの認識を重ねて見える学びの道筋。学習内容をふまえ教材化したときに見える教材の本質

<課題>

- ・教師が意図したところに近づけようとしてしまうところから抜け出せない。

学習材の選定,幅広い教材研究,確かな事実認識と何を共通基盤にもつか・・・その上に授業は成り立つ。

「教材の本質のとらえ」と,対象を子どもの側から見つめた「子ども理解」が重なってこそ,子どもたちの学びの道筋が見えてくる。学習内容をそのまま学習問題にしていくのではなく,私たちは具体的に,「子どもたちは事象と出会ってどんな問題意識をもつのか。それがどう学習問題として位置付き,子どもたちはその問題をどのように解決し,一つの解決によって新たな問題になってくることは何だろう。」と,対象を子どもの側から見つめ,子どもの学びの道筋を構想し,単元を考えていきたい。子ども自身の問題解決の道筋に視点を当てたとき,必然的に,問題解決的な学習が展開され,子どもたちは,社会的事象の意味や背景を追究しながら,本質的な意味や価値に迫り,社会認識を再構成していく。子どもたちもわたしたちも,こうした学びの過程をたどりながら,本当の意味で「わかっていく」ものであり,学び続ける構えができると思う。

【理科部会 (SSTA)】 『科学が好きな子どもを育てる』

(1) つむぎの時間の実践に対する成果と課題

- ・主体的に自然事象にかかわり続けるつむぎの学習の中で,その子らしい科学的な見方や考え方を深めながら,科学が好きな子どもを育てていくのではないかな。

私たち教師が用意した道筋でなく,子どもなりの道筋で自然事象にかかわり続けることで,自然事象を全身で感じながら,子どもたちの手応えの中で自然事象への見方,考え方を広げていく。主体的に自然事象にかかわり続けるつむぎの学習の中で,科学的な見方や考え方を深め,科学が好きな子どもを育てるのではないかな。

- ・子ども理解と対象の本質を重ね合わせ,子どものまるごとを発見的にとらえていくことで,子どもたちの主体的な追究を教師は支えていくことができるのではないかな。

子どもが最後にいきつく結果でなく,子どもが歩む道筋に価値をおき,子どもを発見的に捉えられる教師の姿があることで,子どもらしく主体的な追究で自然事象へかかわる。対象の本質と重ね,教師の枠の中だけでなく,子ど

ものまるとを発見的にとらえることで、子どもたちの主体的な追究を教師は支えていくことができる。

(2) 理科の実践に対する成果と課題

- ・自然事象と出会い、素朴な見方や考え方、その時点での科学的な見方や考え方が顕在化していくことで子どもたちにとって意味のある自分事としての学習問題が位置付き、主体的に追究していくのではないかと。

子どもにとって意味のある学習問題が位置付くために、素朴な見方や考え方、その時点での科学的な見方や考え方が顕在化していくことが重要。自然事象と出会う中で、子どもは自分の素朴な見方や考え方、その時点での科学的な見方や考え方のズレから「驚き」や「不思議さ」を感じ、さらにその事象（対象）にかかわっていく。

- ・子ども理解と対象の本質を重ね合わせ、子どもの学びの道筋を見極めて教材化していくことで、子どもたちの主体的な追究を教師は支えていくことができるのではないかと。

「子どもの素朴な見方や考え方」「その時点での科学的な見方や考え方」を子どもの側に立ってとらえていくこと。また、学習指導要領を読み解き素材研究をしていく中で「対象の本質」を「矛盾」ととらえていくこと。こうしてとらえた子ども理解と対象の本質を重ね合わせていくことで、子どもの学びの道筋が見えてくる。

【教科部会】 『学びが子ども自身のものになる教科学習の在り方』

<成果>

- ・読みのスキルを意識した単元デザインの構築

物語単元においての読みとは「大変化・変容（人物・場面）の要因を探る」「作品の魅力・作品の秘密を探る。」のどちらかであり、この読みを進めるために、行動、心情、様子、情景描写及び会話文の5観点の叙述から読み取っていく。教師自身が十分に教材を研究し、子どもの言葉（初発）を吟味して単元をデザインしていく。本年度の研究において、教師自身の意識（担任力）が高められたのではないかとと思う。

- ・読みの視覚化への取り組み

人物像の視覚化、対比の視覚化、感情の視覚化、関係性の視覚化などの視覚化することで、言葉だけでは理解しにくい子ども達が自分の読みを認識することができたと思う。

<課題>

- ・「学習問題」「学習課題」「学習材」

教師が思い描いていたところと子どもの読みに違いが生まれることが多かった。その度にデザインを変更していくわけであるが、学習問題の設定、それに応じた学習課題・学習材をどう位置づけていけばよいか、難しい。

- ・学力向上

本年度の CRT を見ると、決して満足いく結果につながっていない。子ども達の気持ちを大切にしながら、それを学力につなげていく研究のあり方が問われている。

【特別支援部会】 『インクルーシブ教育構築のための実践的支援体制（合理的配慮）をさぐる』

<成果>

- ・合理的配慮について全校の先生方に研修などを通してクラスの子どもの姿で具体的に配慮について考えられた。
- ・支援員との支援会、支援員のノートを通して子どもたち一人一人の困り感、特性が分かってきた。その情報を学年会などで各担任に知らせ具体的配慮について考え、実際に支援を変えていくことができた。
- ・特別支援入級・通級している児童についてもひとりひとりにあった支援の工夫ができた。原級担任や支援員の打ち合わせをし、児童の状況に合わせて SST や訓練をすすめられた。

<課題>

- ・同じような配慮をしても子どもに合わない場合もあるのでよりよい配慮について探っていく。
- ・各学年・学級の担任と特性を持った、困り感がある子どもについて頻繁に話ができるように体制を整える。
- ・研修や指導を受けられる機会があれば支援員を含めて受けていけると良い。

2 本年度の神明小学校グランドデザイン

【学校教育目標】 つむぐ～「絆」「学び」「夢」～

【学校長の願い】
 岡谷小学校と統合して新たな神明小学校がスタートした。岡谷市の教育大綱を礎にして且、この学校によさや伝統などを融合し、子どもたちが「絆」をつむぎ、「学び」をつむぎ、「夢」をつむいでい
 うことができる「子どもが主人公」の学校づくりをすすめていく。神明の地にこの学校は地域の中であり、地域の将来を担っている。地域と親しいを共有しながら、地域と共にある学校づくりをすす
 めていきたい。

子どもが主人公の学校
 子どもが主体的に、協働的に、創造的に学んでいくことができる学校。

【願う子ども像】
【絆をつむぐ子ども】 相手の側に立ち、もの・ひと・こととのかかわりを深めていく子ども。
【学びをつむぐ子ども】 学んでいく一つ一つがつながり合い、自分を豊かにしていく子ども。
【夢をつむぐ子ども】 自分の可能性を信じて、今を精一杯に生き、未来に向かって歩む子ども。

【本年度の重点目標・具体的方策】

ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進 【本年度の重点目標・具体的方策】
 1 ふるさと岡谷を心から愛することができるふるさと教育の推進 * 岡谷スタンダードカリキュラム
 ○ 本物に学ぶつむぎの時間の充実 ○ ふるさと教材のカリキュラムに基づく授業実践 ○ 地域の産業から学ぶキャリア教育の推進

確かな学力保障と成長保障を図る授業改善
 2 子どもと共に創る「わかる」「できる」「味わう」授業 < 検証…県庁調査において、県平均を上回る児童をP調査より増やす、
 ◇ 学力向上の柱
 柱1：くらしを創り、学びをつむぐ夢のある学校…子どもが夢や願いを表現するつむぎの時間の実践を基盤に、
 柱2：子どもが主人公の学び…子どもが自分ごとの学習問題を解決していく日常の課題解決的な学習
 柱3：一人ひとりが主体的に取り組む家庭学習（のびのびのび、VS宿題くん等）…読書を楽しむ「家庭学習」…家庭との連携
 ◇ 研修：学びを創る教師…中心講師：奈良江裕先生に学ぶ年5回の研修会及び公開研究会を柱とした授業研究、
 …「科学が好きな子どもを育てる」ユニー子ども科学教育プログラムへの参加

3 安心・安全な学校づくり
 ○ チーム支援・チームでの対応 ○ 職務を自覚し、力を高める非対面型防止研修、
 ○ 「いじめ対応子ども会議」と連携した年間の取組 ○ 子どもの丸ごとを寄り添う生活指導 ○ 防災教育の充実

笑顔で安心して学べる教育環境の整備
 4 インクルーシブ教育システムの構築
 ○ 子どもの特性に応じた支援体制の構築（特支4学級を初め） ○ 幼保小中の連携的な支援
 ○ ピジョントレーニング、ソーシャルスキルトレーニングの取組 ○ ユニバーサルデザインの充実

「自立と共生」につながる教育活動の充実
 5 思いやりと活気に満ちた学校生活の創造
 ○ 児童会を中心とした自主的・自律的な活動の充実…縦横活動 ○ 異年齢集団との交流（幼保、中、高等）
 ○ 子どもにしみ入る道徳の時間と人権教育の絡み重ね ○ 挨拶を交わし、あったか言葉があふれる学舎
 ○ 歌声と思いがハーモニーを奏でる音楽集会 ○ 元気に遊び、体を鍛える ○ 気働きできる精神

地域に根ざした特色ある学校創りの推進
コミュニティスクール「フラープラン」を創る

* 学校と地域が一体となって
 子ども育ちの仕組みをもった地
 域と共生する学校づくり

スマイルサポート、
 神明っ子、はばたきラボ、
学校運営委員会、
 スタディーサポート、
 グリーンサポート、
 ライブラリーサポート

【フラープラン…主な種別内容】
 < スマイルサポート >
 ○ 「神明っ子えがお見守りたしり」
 < スタディーサポート >
 ○ 教科学習、つむぎの時間、クラブの講師、
 ○ 日常的な学習支援
 < ライブラリーサポート >
 ○ 読み聞かせボランティア、
 < グリーンサポート >
 ○ フラワーロード、学校環境整備、
 < 神明っ子 はばたきラボ >
 ○ 放課後子どもの居場所づくり事業

3 本年度の全校研究テーマ、研究の柱について

(1) 私たちが目指す学校（グランドデザインより）

学校教育目標「つむぐ ～絆 学び 夢～」

子どもが主人公の学校

子どもが主体的に、協働的に、創造的に学んでいくことができる学校

今年度のスタートにあたり、子どもが主体的に、協働的に、創造的に学ぶ姿こそ、私たちが目指す子ども像であることがグランドデザインに明示されています。子どもが主体的に、協働的に、創造的に学ぶ姿とはどんな姿なのか。そこを職員みんなでもとらえ、語り合っって共有していきながら、子どもの姿を通して、私たちのありようを見つめ返していきたいと考えています。いつもここに立ち返りながら研究を推進していきましょう。

(2) 本年度の全校研究テーマ及び研究の柱

子どもが主人公の学習【主体的、協働的、創造的に学ぶ子】

～子どもの道筋で創る授業～

研究の柱1 [その子のまごとの向き合う子ども理解]

研究の柱2 [対象の本質を探る教材研究と子ども理解とを重ね合わせた授業創り]

(3) 研究テーマ、研究の柱設定に寄せて

昨年度の研究をふり返り、奥村先生は次のように綴っている。

今年度の自己課題を「子どもの言葉ですえる学習問題」として、国語の物語単元を中心に取り組んできた。今年度、校内研究授業をやることになった際に「子どもの言葉で学習問題を・・・」という言葉は何度も聞いた。問題は教師が提示するものだと考えていた私にとって、子どもの言葉で学習問題が立ち上がっていくという今までなかった感覚に衝撃を受けた。いったいどういう過程で子どもの言葉から学習問題が生まれてくるのか。子どもの言葉から学習問題を立ち上げるの意味って何なのだろうか。自己課題である「子どもの言葉ですえる学習問題」を意識しながら、1年間実践してきた。子どもの言葉から学習問題をすえていくということは、子どもの疑問や子ども同士または子どもと物語のズレから学習問題を設定していくことで、与えられた学びではなく、子ども主体の学びになっていくということがわかった。問題が自分ごととして捉えられるように、子どもの意識をつないでいくのが学習問題なのかもしれない。しかし、その学習問題も教師の捉えで大きく左右される。教師がいかに物語を読み、物語の魅力に気付く、教材としてどう捉えていくかが重要なのだ。子どもの意識は、物語の本質や追究の道のりとして通るべきところに向いていることが多いことを、実践を通してきづいた。物語の本質と子どもの意識をどうつなげ、子どもたちのそれぞれの学びの道のりにしていくかが、教師のすべき手立てであると考えている。

昨年度私たちは、対象の本質を味わう子どもと教師を研究テーマに据え、子どもが主人公の学習を追い求めてきた。その中で子どもが主人公の学習を創っていくには、奥村先生が書くように、私たち教師の教材研究と子どものとらえとをどうつなぐかが大切であることが見えてきている。子どもが主人公の学習に寄せて、昨年度の公開参観日におけるパネルディスカッションで指導者の奈須正裕先生から次のようにご指導いただいた。

生活総合は目の前の暮らしやなんかの中での、その直面する素材や何かに、こう体当たりしていけるっていうそういう特性があるところだし、であればその間の立て方みたいなものにも、こう正面からというかな、そこに焦点を当てられるような気もします。生活科、総合だけではなく、例えば体育例えば音楽、例えば図工家庭科もそうなのかもしれないですけど、かなりそういう面でいくと自分で問を意味のある問を、立てることができるんですよ。先生の言うとおりにやっていたら、上手くなって跳び箱跳べただけじゃあなくて、自分たちが安全で尚且つ跳び箱とべるような、生活とかそういう取り組みってのが、問が立てられたわけですよ。よく言うじゃないですか、上手い先生に跳び箱教えてもらったら、あ～よかった。これで、体育の授業終わったってね。それじゃあダメなんですよ。自分の中で生活の中で体育に向き合うことが考えられるのなら、子どもの力なんですよ。だから、音楽の授業終わったって、なんか吹いていたい、リコーダー吹きたい子が出てきたら勝ちなわけですよ。はい、片付けなさいって言われても、吹きたくなっちゃう子は多分、優秀な学び手なんだろうって思うんですよ。生活科総合が一番やさしいんですよ。もしかすれば。生活を自分たちが作りたいように作るんだから、それ意味のある問が立ち上がりやすいんでね、正確にね、あんまり教師がいろんな事しなくても、だってそうじゃないと実際にものが動かないとか食べられないとか、動物死んじゃうとかいう話だから、意味のある問が立ち上げやすく、でいまの話だと音、図、体あたりの方が、家庭科あたりの方が、次に夜明けが差してきたりするんじゃない。国、算、社、理がある意味、国語算数ですかね。理、社はまだある意味現実がある。国語、算数あたりが一番意味のある問をたちあげるのが難しく、子どもたちでは立ちあげられないから、先生が立ちあげちゃって、そうすると子どもの学習意欲がそんなに付かなくて・・・。そうすると、生活総合を研究することが、我々は国語や算数でそういう生活に関わる単元を作るトレーニングでありますからね。そういう感覚でやるというかもしれないです。それはそれで、やってください。めっちゃめっちゃむずかしいよ。それ～。だから生活総合で、そういう学習の過程とか、子どもの学習力とか後はその学級集団のね、力とかって付けること、それを教科でもってわりと簡単に言うんだけど、でもそれは難しいことなんだけど。でもそ

先のご指導を受けて昨年度後半は、子どもにとって意味のある問いをどう立ち上げていくかを課題として実践

を積み重ねてきた。研究まとめの会では、岩波先生に国語科「スーホの白い馬」の授業を提供していただいた。岩波先生は昨年度の1年間、「話し合いをする時に子どもたちは意見を言いたがるし、一生懸命発言するが、どうしても子どもたちが聞いてほしいのは「先生に」であって、友達に聞いてほしいという気持ちが持てないか、少なくなってしまう気がする。もっと子どもたちがそれぞれお互いの話しを「聞きたい」「みんなに聞いてほしい」という気持ちがもてるような授業展開や発問の仕方、立ち位置などを工夫していきたい。子どもたち同士の活動がつながって、広がっていく授業がしたい。」と自身の課題をもち、授業前、教材研究を重ねる中で感じた悩みを次のように語っていた。

子どもと授業をつくろうと思うんだけど、自分がいかせたいところもある。そこまでどうやって子どもたちと授業を創っていくかが難しいんですよね。どうしても引っ張ってしまうんですよ。

以下は、実際の授業の様子である。

単元を貫く学習問題「大事に育ててきた白馬なのに、どうしてスーホは白馬の体を分解して馬頭琴を作ったのだろう？」

C 1 「楽器を作ってくださいと白馬が言ったから」

C 2 「白馬が夢に出てきて楽器を作ってくださいと言ってたから。あと、おはかに埋めちゃうと一生会えないから」

C 3 「死んでもそばにいれるなら作ってずっといてくれるから悲しまないと思って」～中略～

C 4 「楽器にするとどこにでも持ち運べるし、お墓にすると持ち運べないから。それともう1つあって、しょうが無く作ったんだと思う。白馬が言うから」

C 5 「しょうがないとは書いてない気がするけど」 呟きが一気に広がる

T 1 「他にあるかな？」

～中略～

C 6 「教科書にいつまでも一緒に居られますからと書いてある。白馬が言ったからスーホは本当は死なせなくなかったけど、新しい楽器もできたからそういうのもいいと思う」

T 2 「楽器できてよかったと思ったんだ。しょうがなく作ったんだと思う？」

C 5 「白馬のたのみだし、しょうがなくではないと思う。もっと悩むと思うしすぐにつくれないと思う」

C 7 「夢中でも作らないと思う」

C 8 「忘れないように泣きながら作ったと思う」

C 9 「泣きながら夢中になって作っていた」

T 3 「よかった気持ち忘れない気持ちだったのかな？」

学習課題「スーホはどんな気持ちで馬頭琴を作ったのかな？」

C 1 0 「ほんの少し泣いて涙をためながら作った。半分泣いて半分作るぞという思いだと思う」

C 1 1 「必死だと思う。夢中になって作っていた」

C 1 3 「悲しい気持ちだと思う」

～後略～

授業を終え研究会の中で、先生方からは次のような意見が出された。

- ・学習課題が子どもが考えたいこととはずれていたんじゃないか。子どもは仕方がないというところで、つぶやきが出てきた。そこを考えたかったんじゃないか。そこを共通基盤にするためにつつこんでいって教科書に立ち返りながら話し合いたかった。
- ・子どもたちの言葉には言葉では表せない思いがたくさんある。その子の言葉の奥にあるものを引き出したり、とらえたりして、子どもの道筋での授業を創りたい。

研究会を終えて、岩波先生は次のようにふり返った。

子どもの言葉の奥にある思いや、考えを探ることができないと、子ども同士の考えもつなげられないと思った。普段から子どもを見る目を養っていきたくと思った。問い返しや教師の出、板書などまだまだ迷いながらですが、少しでも成長していきたくです。

「子どもたち同士の活動がつながって、広がっていく授業がしたい」と願いをもって1年間を過ごしてきた岩波先生は授業を公開し、子どもの姿をもとに先生方と語り合う中で、「子どもの言葉の奥にある思いや、考えを探ることができないと、子ども同士の考えもつなげられない」と自身の在り方を見つめ直すことで、自身の理想の授業を目指していきたくと考えた。

また、研究まとめの会を終えて、教科部会で国語を中心に研究を積み重ねてきた奥村先生は、国語だけでなく全教科に通じる課題として次のようにして自らを見つめ返している。

1つは、教師が教科の本質を見抜いていかなければならない。いろんな単元があるけれど、共通していることやおさえるべきことは絞られている。もっと学んでいかなければならない。2つめは、子どものとらえ。今年度の自分は子どもをみるということが全然できていなかった。学習問題を決めだしていくのに子どもの意識から立ち上げていったつもりだけど、本当にそうなのかを問われるともしかしたら教師の都合で見てしまっていたのかもしれない。自分の考えが凝り固まってしまいそうな時がある。そんな自分にならないように、問い返せる自分でありたい。

今私たちは、子どもが主人公の授業を展開するために、子どもの言葉の奥にあるものも含めたその子のまごごとをとらえることの大事さを感じてきている。また、私たちが教材研究を通して感じた対象の本質の世界を味わおうと想定した教師の枠の中に子どもをあてはめるようにとらえるのではなく、教材研究と子ども理解とを重ね合わせ、子どもが主人公の授業を創っていかねばならないと感じてきている。

しかし私たちは、子どもが主人公の授業を創りたいと思いながらも、結局は奥村先生が言うように教師都合の授業をしてしまっていないだろうか。こんな悩み、立ち止まりを感じているのは奥村先生だけではない。

- ・子どもの読みと作品との矛盾（ギャップ）から学習問題を設定、そして学習課題、学習材とおいていくのだが、子どもの意識に沿った単元デザインの難しさを痛感する。日頃から子どもの思考をとらえ、まごごとを捉える意識を大切にしたいと改めて思う。（高橋先生）
- ・教師の出のタイミングを探っていたが、やっぱり教師がどうこう言って進むのではなく、自分で気づき、考え行動を起こし、その結果を見守り、次につなげるという自分発信の一連の流れの中で子どもは多くのことを感じ動いていくのだと思う。教師の出のタイミングだけではなく、そうやって自ら動き出している子どもや動き出そうとしている子どもに寄り添える教師のあり方を目の前の子どもをしっかりと見てこれからも探っていきたい。（熊谷先生）
- ・子どもが何気なく使っている、でも精一杯表現しているその言葉の奥や意味を探り、そこに切り込んで追究していくことで本質に迫る作品の醍醐味を味わうことができると感じた。しかしこちらの教材研究において共通基盤にもっておくべきことや、子どもの素朴な見方となる大事に読んでいきたいところ、それを通して考えたい本質部分を教師が捉えていないとキーとなる児童の発言も流してしまう。私はそんなことばかりで後から指摘されて気づくことが多いのが現実であるが、本質を探る目、子ども側に寄って問題を立て追究するスタートラインにはこの1年で立てた気がするのでまた来年度1歩前進できたらいい（駒村先生）

奈須正裕先生からは次のようなご指導もいただいている。

僕ら教師も、指導要領にあるし、教科書にあるから教えなきゃいかんと思うじゃないですか。そう思ったとたんに、子どもに背を向けちゃうんですよ。だから、教科書にあらうが、指導要領にあらうが、何でこれを教えるんだっけって考えてみる

心配しなくてもよくて、実は、それを教えることは、必ず子どもに意味があるんですよ。学びとなれば、子どもにいいことがちゃんとあるんですよ。今度授業をつくるって話を考えたときに、つむぎですよ。生活総合の授業ってのは、子どもがそんなこと言わなくても、今なぜそれを学ぶのかを了解してやっていますよね。そこが教科と違うとおもうんだけど、それは理由ははっきりしてて、つむぎの時間にやることは、先に内容がないんですよ。先に僕らが学び取る内容とか、教えた内容があるわけじゃないんですよ。それはずっとやっていますよね。先に活動があるんですよ。先に子どもがやりたい活動とか、実現したいくらしがあって、活動やくらしをやっていく上で、困ったことやできないことや予測がつかないことが起こってくるんですよ。それは、学ばなきゃならないんですよ。だから、そこについて知識を得たり、因果関係を解明したりするわけですよ。そこに学びが生じるってわけですよ。あるいは、どうすれば多様な意見の折り合いをつけられるか、何がみんなの納得する話し合いになるか、それが民主主義とは何か、公正とは何かってことになるんですけど。つまり子どもたちにやりたいくらしとか、やりたい活動があって、それをやるのに必要な内容が後から出てくるわけじゃないですか。単元構成でもそうなっているわけですよ。総合の場合はね。だから、子どもたちには、なぜ今それを学ぶか、意味は百も承知というか、あるいは、学ばなきゃ困って状況なんですよ。教科の場合は、こちらに教えた内容がまず先にあって、子どもにとってはそれを学ぶ必然性とか文脈ってないわけですよ。でも、よくよく考えれば、さっきみたいに、教科も子どもにとって本来的には、学ぶ必然性とか文脈はあるようになってるんだけど、僕らがそれを授業として仕立てあげること失敗しているだけなんですよ。教科の本質って呼んでるけど、教科の本質って小難しい方向に行くわけじゃなくて、子どものくらしとか子どもの世界をよく見るって話と同じなんです。と同時に、子どもの経験世界とか実感との裏返しで、それだけでは到達できない、統合するとか、科学的な概念にしていく、洗練するなんてのは、子どもがいくら生活していても達しない世界なんですよ。そこに導くってのは一方で、それをみなさんが教科の本質って呼んでるものなんですよ。だから、授業は、一方では、子どもをみとって、この知識や概念がどんな風な文脈で埋め込まれているかを探することで、それを足場に、知識、個別知識を教えることにとどまらず、それをもう一段、科学的な概念にあげるとか、より多くの概念が表面的には違うんだけど、実は同じことだってことが統合的に理解できるようにしてやるとか、それがなぜそうなってるのかが、訳が分かるようにしてやるってことですよ。そこまでもっていくって話ですよ。そういう高度な所まで持って行くためにこそ、そもそも出発点において、その知識や子どもの生活世界とか子どもの実感とか、文脈の中でどう埋め込まれているかが分からなくてはいけません。だから、子どもに寄り添うってことは、子どもの側の視点に回ってみるってことをすればするほど、より高度な教科の本質とか、より高度な概念的な理解、統合的理解に至りやすくなっていく。子どもの側によると低いレベルで終わるんじゃないかどうする、学生時代僕は思っていたんだけど、違うんですよ。子どもの側によって、子どもの中に豊かな文脈とか、だったらこうじゃないかっていう推論がいっぱい生まれてくれば、問いが自分事になると同時に、深い本質的な問いになって、つまり、いろんな素朴な問いが重ねられているから、重なった部分って本質的なんですよ。実をいうと。そのためには、多様な子どもの素朴な疑問や素朴な経験がいっぱい出されないといけないんですよ。出されて重なったところが、実は本質的な問いとか、科学的な概念に攻め上がるポイントで、そこが子どもの言葉で、学習問題になってしまえば、子どもの多様な経験とか多様な問いとか多様な推測を足場に、子どもたちが学びを進めて、最終的に科学的で統合的な概念にまで至るってのが、長野県の昔からの教科授業の仕方なんですよ。教科で教えることは、構造的に本質的に何だろうってことを、お考えになって同時に、つむぎでやられた、子どもの経験世界とか、一人一人のこだわりを寄り添っていきこうって、子どもの言葉で、学習問題学習課題

奈須先生にご指導いただいたように、教材研究を重ねる私たちは、「わかってほしい」「できるようになってほしい」という思いにかられると、つい子どもに背を向け、教師の思惑の中で、子どもを置き去りにした授業をしてしまいがちではないだろうか。だからこそ私たちは、昨年度その大切さを実感としてつかんできた「その子のまるごとに向き合う子ども理解」と「対象の本質を探る教材研究と子ども理解とを重ね合わせた授業創り」を柱にしながら、子どもの道筋で授業を創ることを共通理念として掲げ、子どもが主体的、協働的、創造的に学ぶ子どもが主人公の学習を創造していきたいと考えている。

子どもが主人公の学習【主体的,協働的,創造的に学ぶ子】

～子どもの道筋で創る授業～

研究の柱1 [その子のまるごとに向き合う子ども理解]

研究の柱2 [対象の本質を探る教材研究と子ども理解とを重ね合わせた授業創り]

(4) 私たちが目指す学校実現のための具体的方策

- 1 研究部会ごとの記録を共有しながら,部会内だけでなく,全員が自身を見つめ返していく。
- 2 授業研究会後に一人一人がふりかえりを書くことで,同僚の授業から学び続ける。
- 3 教科会や学年会の枠をこえた教材研究を積み重ね,自身の教材観を広げ,深めていく。
- 4 つむぎ部会を中心にして教師のふりかえりを綴り続けることで,子どもを日常的にとらえていく。